

地域との協働による高等学校
教育改革推進事業（グローバル型）
研究報告書
（第2年次）



令和3年3月
愛媛県立松山東高等学校

コロナ禍でのGL事業

校長 和田 真志

5年間のSGH（スーパーグローバルハイスクール）事業に続き、同じく文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」のグローバル型の指定を受け、今年度で2年目。この2事業において、本校で継続実施されているGL事業による「グローバル人材の育成」が推進され、愛媛県を代表する地域の伝統校として、文武両道、質実剛健を校風とする本校に、強力な武器となる新たな「軸」が着実に根付いてきました。

前事業から7年にわたって国の事業予算を活用しながら、モデル校として全国に胸を張れる成果を上げることができたのは、何よりも好奇心や探究心が強く、突破力のある優秀な生徒の皆さんの力であり、その生徒たちを陰に日向にご指導くださった運営指導委員諸氏のお力添えも大いなる支えとなりました。そしてそれらをうまく調整しながら、生徒たちの成長にしっかりと結び付け、後押ししてきた教職員の並々ならぬ熱意がございました。

その事業も来年度までの予定であり、「地域との協働」事業については、何らかの取りまとめが求められている矢先に、新型コロナウイルス感染症によって、状況は一変しました。青天の霹靂であった全国一斉臨時休業のための自宅待機。これまで通常であると認識していた教育活動について、根本から見直さなければならないという混乱の中で、当面の授業をはじめとした学習活動の回復を図りつつ、これまで積み上げてきた海外フィールドワークや海外修学旅行、市内フィールドワークもやむなく中止となり、海外語学研修や県内企業フィールドワークについても大きな見直しを迫られることとなりました。

そのような中、SGH部では、インターナショナルデーや中四国高校生会議をオンラインで実現し、SDGsに係る市内高校生交流会も、コロナの感染状況に応じて、感染症対策を万全にして開催にこぎつけました。中止を余儀なくされた海外への渡航はオンライン交流で代替するなど、オンラインの良さを見出しながら、新たな境地での学びを実現しました。若い力は、逆境に対して失望しあきらめるのではなく、どうやったら道が切り拓けるかという乗り越えるべき壁として向かい合い、思いもかけない発見や成果をもたらしてくれました。

来年度につきましても、コロナの状況を見ながら、可能であれば、海外にも訪れ、そうでない場合でも今年度のオンライン経験を発展的に継承しながら、事業内容の成果追求を行いたいと考えております。

このように、年月も重ね、工夫も凝らしながら紡いできた事業ではありますが、来年度で国による牽引は終了し、その先は、自力飛行により推進することとなるわけです。

これまでの7年間、がむしゃらに進んでくることができたのは、モデル校としての役割を果たそうという責任感と、経済的な面や国事業という看板をいただくという支援があったという点は否めないことだと思います。おかげで天空高く舞い上がった東高の新しい「軸」ではありますが、推進力が加わらなければ、グライダーのように当面滑空はできましようが、徐々に高度が下がり、再び上昇することは叶わないでしょう。策を講じなければ、あっという間に失速することは自明です。そこで、現在のところではありますが、財源の確保や新学習指導要領における教育課程の特例申請、そして、ウィズコロナ時代にふさわしい学びの在り方を模索しているところであります。

本校のディプロマ・ポリシーにもある「輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、グローバル社会で活躍できる人材」を育成するために、またこういった人材を目指す生徒たちのために、歩みを止めることなく、新たな局面に立ち向かう覚悟でございます。

つきましては、これまでも課題研究等で多大なお力添えをいただいた愛媛大学はじめ多くの先生方、愛媛県及び松山市の職員の方々、講演会などにご協力いただいた県内企業の皆様に、心よりの感謝を申し上げつつ、引き続いてのご支援をお願い申し上げます。巻頭の挨拶といたします。

■第1部■	令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究完了報告	1
■第2部■	令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究開発の成果と課題	9
	Ⅰ アンケートからみる本年度の成果	10
	Ⅱ 令和2年度のGL事業課の自己評価	19
	Ⅲ 次年度以降への課題	24
■第3部■	令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業研究開発報告書	25
第1章	令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定時の研究開発構想	26
	Ⅰ 研究開発構想調書の概要	26
	Ⅱ 研究開発 取組内容の概要	28
	Ⅲ 研究開発 ビジュアル資料	32
	Ⅳ グローカル明教 ビジュアル資料	33
第2章	令和2年度研究開発組織の概要	34
第3章	令和2年度の実施詳細	35
	Ⅰ 1年生の取組 (本年度対象:360人)	35
	1 各種講演及びワークショップ【G明教Ⅰ・G明教Ⅱ】	35
	2 海外フィールドワーク代替交流【G明教Ⅰ】	48
	3 課題研究【G明教Ⅱ】	51
	4 内容言語統合型学習 (E a s t C L I L)【坊っちゃんタイム】	60
	Ⅱ 2年生の取組 (本年度対象:80人 (GLコース選択生))	61
	1 課題研究【G明教Ⅲ】	61
	2 海外フィールドワーク代替交流【G明教Ⅲ】	68
	3 内容言語統合型学習 (E a s t C L I L)【坊っちゃんタイム】	69
	4 保健講座	70
	5 講演	72
	Ⅲ 留学	73
	1 本校の留学促進にむけた取組	73
	2 留学生の受け入れ	74
	Ⅳ 成果の普及	75
	1 1・2年生合同中間報告会	76
	2 えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 中予	78
	3 令和2年度研究成果発表会	78
	Ⅴ 学校環境のグローバル化	86
	1 SGH部の活動	86
	2 各種交流	86
	3 各種大会参加・入賞	87
	4 市内高校生会議	87
	5 第5回中四国高校生会議	88
	Ⅵ コンソーシアムにおける取組	93
	1 各種取組	93
	2 コンソーシアム 会議議事録	94
	Ⅶ その他の取組	97
	1 松山東高等学校グローバル人材育成振興会	97
	2 運営指導委員会 議事録	98
■第4部■	関係資料	102

第 1 部

令和 2 年度地域との協働による高等学校 教育改革推進事業（グローバル型） 研究開発完了報告

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 愛媛県松山市一番町四丁目4番地2
管理機関名 愛媛県教育委員会
代表者名 教育長 田所 竜二 印

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月20日（契約締結日）～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 愛媛県立松山東高等学校
学校長名 和田 真志
類型 グローカル型

3 研究開発名

東高がんばっていきましょいーグローバルからグローカルへの挑戦ー

4 研究開発概要

地域人材育成に資する地域課題の解決等に向けた持続可能な研究（以下「地域課題研究」）を中心とした教育課程の研究開発

(1) グローカル・リーダーを育成するための地域課題研究プログラム開発【グローカル明教】

本校や松山、愛媛の歴史、愛媛の海外進出企業の研究をするとともに、松山市及びまつやま圏域の課題克服と魅力発信のための広範囲・高水準の研究テーマ群について、産官学の連携した協力のもと協働的研究を行い、資質・能力を伸ばす。

(2) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】

ア 英語の授業において5年間のSGH事業の成果を生かし、高いレベルのディスカッション力、ディベート力等を身に付けた語学力を育成する実践的な「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の授業を行う。

イ 内容言語統合型学習（E a s t C L I L）を実施する全ての教科で、言語活動を充実させる。英語以外の教科を英語で取り組むことにより、語学力向上と異文化理解の深化を図るとともに、思考力・判断力・表現力・分析力を育成する。

(3) 学校環境のグローバル化

ア SGH部の活用

イ 海外修学旅行による体験的語学研修促進

ウ 海外留学及びアジア高校生架け橋プロジェクトを含む海外の留学生受入れ促進

エ 県内留学生、本県を訪れる海外高校生との交流

オ 俳句の研究・発信、俳句による海外交流、中高連携

カ ICT活用による情報活用能力、情報発信能力の育成

(4) SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築

ア 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓

イ 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築

ウ 松山市内の高校生と連携し、地域課題を議論する「松山市高校生地方創生会議」の主催

エ 「中四国SGH高校生会議」を発展させた「中四国高校生地方創生会議」の主催
オ 他校でも実施可能な地域協働による課題研究プログラムの開発

5 学校設定教科・科目の開発，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

○適用範囲：第1学年全生徒

教科：情報 科目：「情報の科学」 単位数1単位（標準単位数2単位）

○適用範囲：第2学年（年次進行で実施）普通科 グローカルコース

教科：保健体育 科目：「保健」 単位数1単位（標準単位数2単位）

「総合的な探究の時間」（グローバル明教）の単位数をそれぞれの学年2単位で実施

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
井上 敏憲	四国地区国立大学連合アドミッションセンター センター長	委員長
佐伯三麻子	松山東雲女子大学 教授	副委員長
金村 俊治	坊っちゃん劇場 支配人	
菅 紀子	(有)クラパムコモンカンパニー 代表	
寺村 尚起	三浦教育振興財団 監事	
近藤 実	松山南高等学校 校長	
高岡 伸夫	松山市総合政策部 地方創生戦略推進官	

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者	
松山市教育委員会生涯学習政策課	課長	西村 秀典
松山市総合政策部企画戦略課	課長	田中健太郎
愛媛大学社会共創学部	学部長	徐 祝旗
松山大学人文学部	学部長	櫻井啓一郎
いよぎん地域経済研究センター	社長	重松 栄治
えひめ地域づくり研究会議	代表運営委員	山本 司
常盤同郷会	理事長	山崎 薫
愛媛県社会福祉事業団	前理事長	仙波 隆三
愛媛県教育委員会高校教育課	課長	島瀬 省吾
愛媛県立松山東高等学校	校長	和田 真志

8 カリキュラム開発等専門家，地域協働学習実施支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	梶原 春菜	元京都大学法学研究科助教	非常勤職員
地域協働学習実施支援員	嶋村 美和	元京都大学東南アジア研究所研究員	非常勤職員

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム				○								○
カリキュラム開発等専門家							○	○	○	○	○	○
地域協働学習実施支援員	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
運営指導委員会				○								○

(2) 実績の説明

ア カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の配置について

(ア) カリキュラム開発等専門家

氏名：梶原 春菜（元京都大学法学研究科助教、5年間の本校SGH特別非常勤講師、昨年度1月より海外交流アドバイザーとして勤務）
（非常勤職員として雇用）月4回本校で勤務

(イ) 地域協働学習実施支援員

氏名：嶋村 美和（元京都大学東南アジア研究所研究員、5年間の本校SGH特別非常勤講師「愛媛の国際化」「フィールドワーク入門」等担当）
（非常勤職員として雇用）月5回本校で勤務

イ 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

(ア) 職員体制に関する支援

海外研修の実績を有するなど、優秀な教員の配置、GL担当教員のための教員の加配（常勤講師1人）、（外国語指導助手専任）の配置（1人）

(イ) 取組内容に関する支援

ALTの資質向上支援（外国語指導助手招致事業費）、生徒のディベート力の向上支援（英語ディベートコンテスト開催事業費）、生徒の国際交流支援（高校生国際交流促進事業費）※今年度は中止、研究に係る費用を優先して令達

(ウ) 関係機関との連絡調整等

高大連携プログラム等を円滑に実施するための大学及び企業等との連携支援、海外FWにおける現地との交渉の支援

(エ) 運営に関する支援

運営指導委員会の開催年2回実施（7月17日、3月4日）、コンソーシアムの開催年2回実施（7月17日、3月4日）、えひめスーパーハイスクールコンソーシアムの開催（発表と意見交換）

(オ) 事業終了後の自走を見据えた取組について

コンソーシアムの継続、海外交流の支援、教職員への支援などを行う。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ア グローカル明教		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イ 坊っちゃんタイム		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウ 学校環境のグローバル化		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エ コンソーシアムの構築		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 実績の説明 ※第1学年全生徒：360人 第2学年GLコース生：80人

ア 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) グローカル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発【グローバル明教】

a グローカル明教I 対象：第1学年全生徒

(a) アイデンティティとグローバル

【目的】坂の上の雲ミュージアム及び公益財団法人常盤同郷会の協力を得て、秋山兄弟生誕地等の史跡でフィールドワークをするなど、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力について探究させ、アイデンティティの確立を図る。

【内容】講演及びフィールドワーク

・講演「これからのよのなかの話しよう」

【変更】緊急事態宣言等による休校措置及び分散登校実施のために、市内FW（秋山兄弟生誕地・坂の上の雲ミュージアム）は中止。

(b) アジアと愛媛の企業

【目的】学習院大学の教授の指導のもと、いよぎん地域経済研究センターの協力により、愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について探究学習を行う。グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを交えて実施し、フィールドワーク報告会により、グローバル化への理解の深化、問題解決力、コミュニケーション能力の育成を図る。さらに、フィールドワークで知り得た内容を学年全体で共有する。

【内容】講演及びフィールドワーク

・講演「企業の見方&地域製品のマーケティング」

・県内企業フィールドワーク代替講演（三浦工業、アテックス）

- ・海外フィールドワーク代替交流（台湾三浦工業、台湾国立中興大学附属高級中学、三浦工業（中国）、北京月壇中学、フィリピン大学附属高校）

【変更】新型コロナウイルス感染拡大防止のために、講演会はすべてオンラインで実施。

また、県内企業フィールドワーク及び海外フィールドワークは中止とし、オンラインでの講演や交流会を代替として実施。

- b グローカル明教Ⅱ 地域及び世界の持続的な発展のために 対象：第1学年全生徒

【目的】コンソーシアムの一員である、愛媛大学・松山市の協力を得て、地域や世界の持続的な発展のために必要な知見を得るとともに、課題解決のための実践的で協働的な研究活動を行い、グローバル・リーダーとして必要な国際的素養の育成、高度な語学力・コミュニケーション能力や地域マネジメント力（問題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成を図る。

【内容】講演及び課題研究、発表会

- ・「地域社会の持続可能な発展に向けて～今、なぜグローバル人材が求められるのか～」「世界共通のゴール『SDG s』の達成に向かって～足元から世界とつながる！～」「いい、加減。まつやま」「笑顔のまつやま まちかど講座」
- ・課題研究 20 テーマ 24 時間実施 本校教員が指導 研究成果発表会（3月）

- c グローカル明教Ⅲ グローカル課題への取組 対象：第2学年GLコース生対象

【目的】高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を行うためグローバルコースを設定し、課題研究の深化を図る。地方創生のための課題研究を通して、地域マネジメント力（課題発見力・企画立案力・協働実践力）の育成とともに、コミュニケーション能力・思考力・表現力の育成を図る。

【内容】個人及びグループによる課題研究、発表会

- ・課題研究 13 テーマ 48 時間実施
講師：愛媛大学・松山大学・松山市職員・病院勤務医・元大学准教授
- ・発表会 1・2年合同中間報告会（12月）及び研究成果発表会（3月）

- (イ) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】

第1学年は全生徒を対象とし、各学期2科目（各1テーマ）で実施、全6テーマ

第2学年は、GLコース生のみを対象とする予定であったが、英語科でオンライン英会話の取組を行うこともあり、全生徒を対象に行った。オンライン英会話の設定されたテーマに基づいて、関連した内容を英字新聞やインターネット上の動画などから教材化して行った。

- (ウ) 学校環境のグローバル化

- a SGH部の活動 39人

グローバル・リーダーとしての資質・能力の伸長の加速化を目標とし、校内啓発活動、国際協力・交流活動に取り組み、その成果を様々な機会に報告している。

- (a) 校内啓発活動

インターナショナルデー（国際交流）、市内高校生交流会・勉強会（SDG s勉強会）、NGO えひめグローバルネットワークとのフェアトレードの啓発活動

- (b) 国際協力・国際交流活動

アメリカトリーパインズ高校とのオンライン交流、ハワイHBA高校とのオンライン交流、ビデオレターの制作（ウガンダ・シンガポール・台湾・フィリピン・アメリカ・中国）

- (c) 対外的コンテスト・大会への参加

全国教育模擬国連大会・全国高等学校グローバル探究オンライン発表会・四国高等学校国際教育生徒研究発表大会・「えひめ教育の日」推進大会・「世界との対話と協働：アジア・オセアニア高校生フォーラム」・「ロシア日本語履修高校生オンライン交流プログラム」他

- b その他の取組

- (a) 海外修学旅行等による体験型研修促進

本年度も、アメリカ（ロサンゼルス）及び、シンガポール・マレーシアの修学旅行を計画し、約2/3の生徒が在学中に海外を体験できる体制を整えていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため中止となった。台湾・中国・フィリピンへのフィールドワークも中止となり、代替活動としてオンライン交流を行った。オーストラリアでの語学研修も中止としたが、新たにオンラインでの語学研修を宇和島南中等教育学校と協力して3月に実施した。

- (b) 留学生の受入れおよび留学の促進

本年度はアジア高校生架け橋事業による留学生を1名と一般の留学生1名を引き受けた。ま

た、来年度に向けて、本校生の留学の促進のために「トビタテ!留学JAPAN」の説明会を実施した。

(c) 海外高校生との交流

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため本校に迎えることができなかったが、課題研究やフィールドワークの代替活動や部活動でオンラインを使ってたくさんの海外高校生との交流を実施することでできた。

イ 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

(ア) 第1学年 「総合的な探究の時間」（週2時間）で実施。

松山市シティープロモーション課による講演、松山市タウンミーティング課主催「笑顔のまつやま まちかど講座」を利用した各政策担当者による講義、地域活性化に取り組んでいる愛媛大学や学習院大学の教授や元地域まちおこし協力隊員からの講演。

(イ) 第2学年 「総合的な探究の時間」（週2時間）で実施。

愛媛大学及び松山大学の教授、松山市総合政策部企画管理課の職員、元大学准教授の指導による探究的な活動である課題研究を実施。

ウ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

第1学年でのグローバル明教の課題研究においては、本年度から本校教員が課題研究テーマを設定し、その中から生徒がグループでテーマを決定し課題研究に取り組んでいる。全教科の教員が参加することによって、それぞれの得意の分野と地域課題を連携させながら課題研究に取り組んでいる。

また、East CLILでは、英語科と各教科が連携し、学習内容の定着と英語でのディスカッション力やプレゼンテーション力の育成を図っている。

エ 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

カリキュラムの作成については、本校の校務分掌では、グローバル事業課（以下GL事業課）と教務課において作成し、全教科の教科主任及び関係各課長が参加する教育課程検討委員会を年3回開催し、内容を検討しながら運営している。

オ 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内での位置付け）

全校体制で本事業は推進するが、中心となって本事業を運営する校務分掌として、GL事業課を設置している。本課に所属する教員は、計画立案、本事業の円滑な実施、考察、事業計画の改善を図っている。課題研究は、課題研究チームをつくり、GL事業課の担当者とカリキュラム開発等専門家及び地域協働学習支援員が協働して活動し、学年団が担当する課題研究の外部機関との連絡・交渉、研究内容についての支援を行っている。また、海外交流事業は、海外交流チームをつくり、GL事業課の担当者とカリキュラム開発等専門家が協働して、海外フィールドワークの企画・立案・交渉、学年団が担当する海外修学旅行の支援、英語科と協働して行う海外留学の促進事業や留学生受入事業を行っている。

カ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

本事業におけるそれぞれの内容については、GL事業担当者が具体的な案を立案し、校長決裁を受けたものを、職員会議にて全教職員で共通理解を図りながら推進している。成果の検証・評価については、以下のように行っている。講演については、その都度生徒へのアンケートを行い、内容についての検討と次年度の内容の検討を行う。課題研究においては、各担当者からの聞き取りを行うとともに、学年会で議論し、実施内容の確認と改善を図る。

キ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

郷土や世界の持続的発展のために貢献できる人材の育成を目指して、コンソーシアムの産官学それぞれの立場からの指導助言を受けている。松山市からは、地域の魅力や課題について実務者から直接話を伺うことで、生徒への意識付けに繋がっている。本年度は、新たに松山市主催で「未来のふる里産業人養成講座」を実施し、本校OBの方や産業界で活躍されている方による講演により、新たな知見を得ることができた。また、愛媛大学や松山大学からは、課題研究の直接的な指導だけでなく、「今なぜグローバルなのか」や「今なぜSDGsなのか」などの根本的な知識や理論を学ぶことで、生徒の思考力や判断力の向上に繋がっている。さらに、各企業からはグローバルに対する取組や、社会貢献の在り方について学ぶ機会を得ている。

ク 類型毎の趣旨に応じた取組について

本校指定のグローバル型においては、グローバルな視点の育成と郷土の課題の解決に貢献できる人材の

育成を目指している。

グローバルな視点の育成のために企画していた多くの内容は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために中止となった。しかし、その中で駐日欧州連合代表部主催の「EUがあなたの学校にやってくる」を昨年度に引き続き実施した。また、海外フィールドワーク参加予定者には、現地企業や交流予定校とのオンラインでの交流を行った。さらに、ほぼ毎月実施しているSGH部主催のインターナショナルデーには、県内在住の留学生や外国人を招いて交流を行うなど、グローバルな視点の育成に努めることができた。

また、郷土の課題解決に向けては、本年度も松山市の全面的な協力をいただいた。総合政策課を中心に、探究的な学習における講演や講座の開設、課題研究における講師派遣を受けた。来年度は、松山市選挙管理委員会からの講師派遣も決定した。愛媛大学や松山大学との連携についても、昨年度までと同様に課題研究での指導や講演などに協力を得ることができ、生徒の高いレベルでの知的好奇心を喚起することに繋げることができている。

ケ 成果の普及方法・実績について

本年度の活動内容については、適宜本校ホームページで発信している。12月には1・2年生合同中間報告会を実施し、課題研究指導者及び本校生徒保護者のみではあっても公開した。また、3月には本校で研究成果発表会を、参加者を県内中高関係者に増やして公開して実施した。さらに、愛媛県教育委員会が主催する「えひめスーパーハイスクールコンソーシアム」で活動内容をオンラインで報告した。

SGH部が主催して昨年に行っている市内高校生会議を本年度からは、定期的に開催し、市内高校生に成果の普及を図っている。

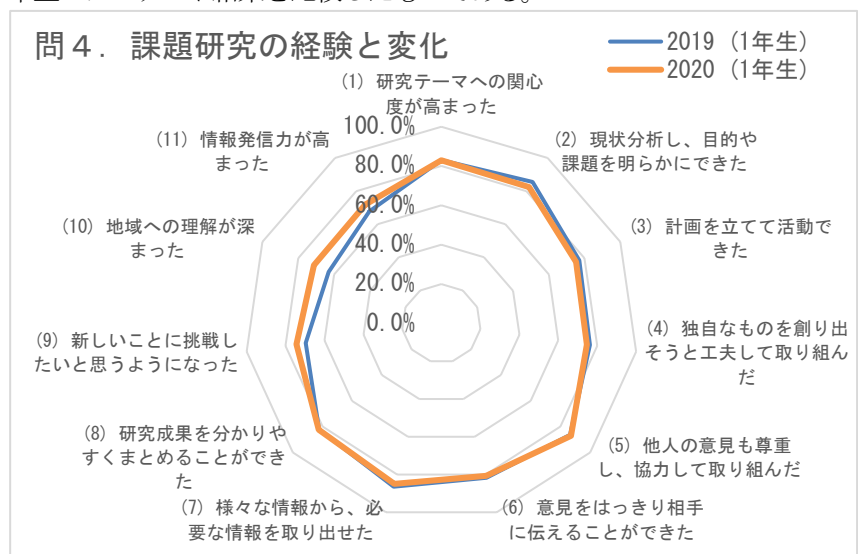
11 目標の進捗状況、成果、評価

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、当初の計画通りには実施できなかったものの、オンラインでの取組と、各関係機関が臨機応変に対応してくださったことにより、多くの事業を実施することができた。

1年生では、コンソーシアムの一員である愛媛大学や松山市の協力のもと、講演会や講座を実施し、グローバルな視点の育成や地域理解に繋げる取組を行った。それにより、思考力や判断力の育成及び、地域や世界の現状や課題について理解を深めることができ、昨年と同様に生徒の自己評価は高くなっている。県内企業フィールドワークや海外フィールドワークは中止となったが、オンラインによる代替の講演や交流を行った。地元企業のグローバル化への取組と地域企業としての在り方、地域貢献の考え方を学んだり、現地の高校生とプレゼンテーションやディスカッションを行ったりすることで、語学力、コミュニケーション力の必要性などを学ぶことができた。7月から実施している課題研究では、本事業終了後の持続性を考え、本校教員の主導による研究活動を行っている。各教員の得意な分野を生かしながら、生徒の幅広い興味・関心に対応できるテーマを設定し実施することができた。指導体制の変更にも関わらず、各教員の工夫と協力により、生徒たちは意欲的に課題研究を行うことができた。これは、1年間の課題研究実施後の生徒の興味や関心から確認できる。下图は、今年度の1年生と昨年度の1年生のアンケート結果を比較したものである。

課題研究活動を通じた成果として、今年度の1年生は、情報の収集・分析力(2)(7)、成果の表現力(4)(8)、協働による研究活動の実行力(5)(6)を挙げる割合が高く、昨年度の1年生と同程度の水準であった。さらに、地域への理解(10)や、新しいことに挑戦したいという意欲(9)は、昨年度の割合を上回る結果となっている。このように、本校教員によって行われた課題研究は事業目的に照らして想定以上の成果を生み出しており、本事業終了後を見据えた課題研究の持続的な指導体制の構築が可能になってきている。

2年生では、GLコースを設定し、研究意欲の高い生徒80名を対象に、高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を実施することにより、地域や世界の持続可能な社会に貢献する意欲や深い教養、課



題発見力や問題解決能力・コミュニケーション力等の育成を図ることができた。GLコース生3名が自主的に取り組んだ観光甲子園2020では、訪日観光部門で準グランプリを受賞した。これは、G明教で取り組んだSDGsの内容を取り込んだものであり、課題研究の取組が作品作りにも大きく貢献しており、学習内容が定着してきている。

昨年度は休校措置により発表会を実施できなかったが、感染防止策をした上で、12月に2年生GLコース中心のポスター発表による報告会を、3月には1年生によるポスター発表、2年生によるシンポジウムを開催することができた。ポスター作成やプレゼンテーション作成を通じた学びに加えて、ディスカッションによる学びを得た生徒が多く、思考力や表現力を含めたプレゼンテーション力やコミュニケーション力の向上につながっており、実施の意義は大きかった。

学校環境のグローバル化においても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために、昨年度のような交流の機会は確保できなかったものの、SGH部を中心にしてオンラインでの交流や県内留学生を招待しての交流など、限られた条件の中で可能な取組を積極的に行った。昨年度から実施している市内高校生会議は、参加校、参加人数ともに増加し、ともに研究・協議していく仲間作りができており、本校の取組の普及にもつながっている。

昨年度の課題であったコンソーシアムとの協働体制は、松山市との連携講座の開設や、講演会の講師の斡旋、来年度2年生の課題研究講師協力など、より強固なネットワークの構築に繋げることができた。

<添付資料>目標設定シート

12 次年度以降の課題及び改善点

本年度から事業終了後の継続も考え、1年生の課題研究について本校教員が指導を行ってきた。課題研究チームが研究の流れについて道筋を示し、運営・実施は各担当教員が自由に実施できるようにしたため、幅広いテーマでの課題研究が実施できた。しかし、フィールドワークや外部講師を積極的に活用した講座がある一方で、調べ学習に終わった講座もあるなど、取組での差が見られた。GL事業課としての情報提供が十分ではなかったため、各講座で行われた内容を分析し、より良い課題研究ができるように、地域協働学習実施支援員と協力して運営方法を改善していく。また、第2回コンソーシアムで指摘された研究内容の発展的な積み上げを目指して、3年生が2年生を指導するシステムも検討していく。

2年生のGLコースは、本年度80名の定員を設けて実施した。生徒の学習意欲や知的好奇心も高く、GLコースを希望する生徒が多いため、来年度の2年生のGLコースは、コンソーシアムの協力による新たな講座の開設によって、定員を97名まで増やすことができた。しかし、すべての希望者には対応できておらず、事業終了後を見据えては、希望者全員が受講できるような体制づくりを検討していく。そのためには、外部講師にとって負担感の大きい論文作成についての方法を改善していく。

3年生は、論文作成となるが、研究内容を外部に発信することと、生徒一人一人の進路実現に繋げていく取組をしていく。また、3年生と2年生が一部同じ時間で活動するため、3年生が2年生に対して指導できる方法について模索していき、継続した研究ができるような仕組み作りを行っていく。

学校環境のグローバル化について、本年度は海外フィールドワークや現地での語学研修などが実施できなかった。生徒の感想にも、「現地を訪問して交流をしたかった」というものが多かった。SGH事業より取り組んできた海外研修を今後も継続できるように、時期や内容を検討し、可能な限り実施できるように努めていく。また、本年度と状況が変わらない場合には、本年度以上にオンラインを有効に活用し、事前や事後学習を含めて効果が上がるように研究を重ねていく。

本校では、SGH事業指定中に、同窓会が中心となり「松山東高校グローバル人材育成振興会」が結成され、海外フィールドワーク・海外研修に参加する生徒等への助成、学会や研究会で発表する生徒等への助成、講演会等実施時の講師旅費・謝金、課題研究に必要な書籍等の購入、教育活動に役立つICT機器の整備等において支援を受けている。SGH事業から本事業まで、カリキュラムとしては成熟し、事業が円滑に進んでおり、これらの事業で培ってきたものを継続するためには、活動費の確保は急務である。管理機関である愛媛県の支援をお願いするのはもちろんのこと、本校独自の振興会からの今まで以上の支援が必要になる。そのためには、本校が現在行っている様々な取組について、ホームページ上や新聞・TV等だけではなく、SNS等を通じて情報発信を行う体制づくりを行っていき、本事業終了後も本取組を継続して実施できるような活動費の確保に努めていく必要がある。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	089-912-2954
氏名	近藤 啓司	FAX	089-912-2949
職名	指導主事	e-mail	kondou-keiji@pref.ehime.lg.jp

第2部

令和2年度地域との協働による高等学校 教育改革推進事業（グローバル型） 研究開発の成果と課題

I アンケートからみる本年度の成果

1 アンケート結果

今年度、アンケート調査を1・2年生の生徒・保護者全員に実施し集計した。実施時期は2月である。

(1) 生徒

1. 次のことがらについて、あなたの興味のあることを教えてください。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)			
		強く興味がある	興味がある	あまり興味がない	興味がない	強く興味がある	興味がある	あまり興味がない	興味がない
(1) 本校や愛媛の歴史	1年	9.7%	47.4%	33.0%	9.9%	5.9%	42.7%	41.8%	9.6%
	2年GL	7.5%	48.8%	35.0%	8.8%				
	GL以外	5.9%	36.7%	42.2%	15.2%				
(2) 愛媛の企業のグローバル化の推進	1年	18.5%	42.3%	32.4%	6.8%	11.6%	47.5%	34.2%	6.8%
	2年GL	21.3%	53.8%	22.5%	2.5%				
	GL以外	7.8%	34.8%	45.6%	11.9%				
(3) 持続可能な社会づくり (SDGs)	1年	29.8%	47.7%	18.5%	4.0%	28.0%	52.0%	15.3%	4.8%
	2年GL	43.8%	45.0%	10.0%	1.3%				
	GL以外	23.0%	45.9%	23.7%	7.4%				
(4) グローバル時代における共生の実現	1年	30.7%	43.2%	21.6%	4.5%	26.6%	46.3%	21.8%	5.4%
	2年GL	50.0%	41.3%	7.5%	1.3%				
	GL以外	18.5%	44.8%	30.4%	6.3%				
(5) 地域の魅力と課題	1年	16.8%	46.3%	30.1%	6.8%	16.9%	46.6%	30.5%	5.9%
	2年GL	40.0%	45.0%	15.0%	0.0%				
	GL以外	11.9%	40.7%	37.0%	10.4%				
(6) 地域の活性化	1年	20.5%	46.9%	27.0%	5.7%	17.6%	50.1%	26.9%	5.4%
	2年GL	36.3%	48.8%	13.8%	1.3%				
	GL以外	12.6%	43.9%	32.7%	10.8%				

2. 次の力が、自分にどの程度あると思いますか。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)			
		十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない
(1) 松山東高校の魅力を説明する力	1年	9.9%	42.0%	40.3%	7.7%	4.5%	49.7%	38.1%	7.6%
	2年GL	11.3%	57.5%	26.3%	5.0%				
	GL以外	6.3%	41.3%	43.5%	8.9%				
(2) 愛媛県(地域)の魅力を発信する力	1年	10.8%	40.3%	42.0%	6.8%	6.2%	37.9%	49.4%	6.5%
	2年GL	15.0%	46.3%	37.5%	1.3%				
	GL以外	5.9%	30.4%	53.7%	10.0%				
(3) 地域の課題についての理解	1年	9.9%	41.5%	40.9%	7.7%	7.6%	38.1%	47.5%	6.8%
	2年GL	11.3%	48.8%	38.8%	1.3%				
	GL以外	3.3%	31.5%	54.8%	10.4%				
(4) グローバルな課題についての理解	1年	13.6%	43.5%	35.5%	7.4%	8.8%	42.4%	42.4%	6.5%
	2年GL	10.1%	54.4%	35.4%	0.0%				
	GL以外	5.6%	32.3%	52.4%	9.7%				
(5) 持続可能な社会の実現に必要な教養	1年	10.2%	42.9%	39.8%	7.1%	8.8%	39.4%	43.9%	7.9%
	2年GL	15.2%	38.0%	44.3%	2.5%				
	GL以外	4.5%	35.3%	51.3%	8.9%				
(6) リーダーシップ・調整力	1年	10.5%	35.2%	40.6%	13.6%	7.4%	32.9%	47.0%	12.7%
	2年GL	11.3%	45.0%	35.0%	8.8%				
	GL以外	5.2%	28.5%	49.3%	17.0%				
(7) 世界の人々とのコミュニケーション能力	1年	9.1%	29.3%	46.9%	14.8%	8.2%	24.0%	48.3%	19.5%
	2年GL	11.3%	28.8%	52.5%	7.5%				
	GL以外	5.9%	21.5%	50.4%	22.2%				
(8) 英語でのディスカッション力・ディベート力	1年	8.8%	19.0%	45.2%	27.0%	5.4%	13.8%	51.1%	29.7%
	2年GL	11.3%	15.0%	48.8%	25.0%				
	GL以外	4.8%	14.4%	48.5%	32.2%				
(9) 異文化理解力	1年	21.6%	54.3%	21.3%	2.8%	16.4%	55.1%	25.7%	2.8%
	2年GL	22.5%	61.3%	15.0%	1.3%				
	GL以外	19.3%	45.2%	30.0%	5.6%				
(10) 批判的思考力	1年	21.3%	46.6%	29.5%	2.6%	13.6%	56.3%	27.0%	3.1%
	2年GL	26.3%	38.8%	32.5%	2.5%				
	GL以外	15.2%	45.6%	36.3%	3.0%				

3. あなたの現在や将来に関する次の問いについてどう思いますか。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)				
		強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	
(1)	ボランティアとして、地域の社会貢献活動に参加したい。	1年	22.7%	43.5%	26.7%	7.1%	20.1%	50.8%	23.4%	5.6%
		2年GL	30.0%	45.0%	22.5%	2.5%				
		GL以外	11.9%	44.4%	39.2%	4.5%				
(2)	地域の魅力を、国内や国外に発信したい。	1年	21.3%	37.2%	34.9%	6.5%	14.7%	42.4%	35.9%	7.1%
		2年GL	27.5%	47.5%	25.0%	0.0%				
		GL以外	8.2%	33.6%	49.3%	9.0%				
(3)	留学や海外の大学への進学を考えている。	1年	13.9%	16.2%	34.7%	35.2%	13.0%	20.9%	30.5%	35.6%
		2年GL	23.8%	28.8%	32.5%	15.0%				
		GL以外	6.3%	19.0%	35.8%	38.8%				
(4)	国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい。	1年	10.5%	23.6%	44.0%	21.9%	5.9%	20.9%	46.9%	26.3%
		2年GL	10.0%	25.0%	43.8%	21.3%				
		GL以外	4.9%	15.7%	48.9%	30.6%				
(5)	将来、地域と世界に関連する課題に関わりたい。	1年	14.0%	31.3%	39.0%	15.7%	11.3%	28.5%	43.8%	16.4%
		2年GL	18.8%	41.3%	35.0%	5.0%				
		GL以外	4.1%	25.0%	54.5%	16.4%				
(6)	将来、地元で就職したい、または起業したい。	1年	11.9%	27.0%	36.6%	24.4%	8.6%	26.8%	46.7%	17.9%
		2年GL	17.5%	21.3%	40.0%	21.3%				
		GL以外	8.2%	24.6%	44.4%	22.8%				
(7)	将来、どこに暮らしていても地元のために貢献したい。	1年	22.2%	39.2%	27.3%	11.4%	15.0%	37.6%	33.1%	14.4%
		2年GL	23.8%	47.5%	22.5%	6.3%				
		GL以外	9.3%	37.7%	41.0%	11.9%				
(8)	英語力を高めたいと思いますか。	1年	73.9%	21.9%	4.0%	0.3%	67.5%	22.0%	7.9%	2.5%
		2年GL	70.0%	25.0%	5.0%	0.0%				
		GL以外	51.9%	33.2%	12.7%	2.2%				
(9)	将来、英語力は必要だと思いますか。	1年	79.5%	15.9%	3.4%	1.1%	73.7%	20.3%	4.5%	1.4%
		2年GL	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%				
		GL以外	54.9%	31.0%	12.3%	1.9%				

4. グローカル明教（課題研究）での取組について、次の問いのあなたの経験や変化についてどう思いますか。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)				
		強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	
(1)	研究テーマへの関心度が高まった。	1年	40.9%	42.0%	13.4%	3.7%	39.8%	43.2%	11.9%	5.1%
		2年GL	61.3%	33.8%	3.8%	1.3%				
(2)	現状分析し、目的や課題を明らかにすることができた。	1年	32.7%	49.7%	14.2%	3.4%	30.5%	55.1%	11.9%	2.5%
		2年GL	38.8%	51.3%	8.8%	1.3%				
(3)	計画を立て活動することができた。	1年	30.7%	44.6%	21.0%	3.7%	23.7%	53.4%	17.8%	5.1%
		2年GL	27.5%	47.5%	20.0%	5.0%				
(4)	独自なものを創り出そうと、工夫して取り組むことができた。	1年	30.1%	44.6%	21.6%	3.7%	28.2%	48.0%	19.5%	4.2%
		2年GL	36.3%	38.8%	23.8%	1.3%				
(5)	他人の意見も尊重し、協力して取り組むことができた。	1年	47.4%	39.8%	10.2%	2.6%	44.4%	42.1%	10.5%	3.1%
		2年GL	52.5%	38.8%	7.5%	1.3%				
(6)	自分の意見をはっきり相手に伝えることができた。	1年	41.8%	38.9%	16.8%	2.6%	29.9%	51.7%	15.5%	2.8%
		2年GL	42.5%	46.3%	10.0%	1.3%				
(7)	様々な情報の中から、必要な情報を取り出すことができた。	1年	35.2%	49.7%	12.2%	2.8%	27.4%	59.0%	11.6%	2.0%
		2年GL	43.8%	46.3%	8.8%	1.3%				
(8)	研究成果を分かりやすくまとめることができた。	1年	28.1%	54.3%	14.5%	3.1%	29.7%	52.5%	16.1%	1.7%
		2年GL	35.0%	53.8%	11.3%	0.0%				
(9)	新しいことに挑戦したいと思うようになった。	1年	34.7%	39.8%	19.9%	5.7%	27.2%	42.5%	24.4%	5.9%
		2年GL	50.0%	32.5%	15.0%	2.5%				
(10)	地域への理解が深まった。	1年	29.5%	41.8%	19.6%	9.1%	21.2%	41.8%	28.0%	9.0%
		2年GL	36.3%	30.0%	22.5%	11.3%				
(11)	情報発信力が高まった。	1年	24.2%	47.6%	22.5%	5.7%	17.2%	50.6%	25.7%	6.5%
		2年GL	30.0%	40.0%	26.3%	3.8%				

5. グローカル明教での学習が、あなたの高校生活に与えた影響についてどう思いますか。

項目	類型	生徒 (2020)				生徒 (2019)				
		強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	
(1)	進路選択や目標設定が明確になった。	1年	13%	35%	37%	15%	9.0%	26.6%	42.7%	21.8%
		2年GL	25%	44%	25%	5%				
(2)	他の教科の学習に役立った。	1年	12%	31%	40%	17%	7.9%	30.8%	41.0%	20.3%
		2年GL	16%	32%	48%	4%				

自由記述より

<1年生>

- ・「世界に出たい」という一心で、今まではグローバル化に伴うことしか勉強してこなかったが、身近なところにもそれにつながるようなことがたくさんあった。広い視野を持つのはもちろん大切だが、それと同時に自分の身の回りに目を配ることも大切だと分かった。
- ・地域の良い部分を新たにたくさん見つけることができ、とても良い学びとなった。もっともっと地域をよく知りたい。
- ・自分を大きく成長させることができた一つがG明教でした。多面的な考えから一つの点を捉えていくことがものすごく大事だと気づき、多様な考えを持てるようになった。
- ・地域を学び、世界を学び、自分の将来がより明確になった。
- ・様々な講演を聴き、今後の進路や生活の仕方についてよく考えられるきっかけとなった。
- ・愛媛や松山といった地方にフォーカスを当てた活動ができ、自分を向上させることができた。
- ・愛媛について知らないことがたくさんあって、親も知らないことを知れ、それを紹介できて楽しかった。
- ・様々な方からお話を聞き、世界と地域のつながりなどを深く学ぶことができ、自分のためになったと思う。地域社会にあまり興味がなかったが、興味を持つきっかけとなった。
- ・前半の講義で地域のことについて学んだ上で、後半の課題研究で世界について考えることができ、持続可能な社会を理解することができた。
- ・地域の現状やこれからの社会について学ぶことができた。将来は地域の一員として役に立つ人になりたい。
- ・一つの課題について、フィールドワークを通じて深く研究、調査ができて楽しかった。
- ・グループで活動することで、意見交換や相手の考えを理解してより良いものにしようとする力がついたと思う。
- ・協力して物事を進めることが、こんなにも難しく楽しいことだとは思わなかった。
- ・自分で課題を見つけ、どうすれば解決できるか考える力が身についた。
- ・自分の知識が増えただけでなく、行動力や情報を整理する能力がついたように思う
- ・課題を見つけ、目的を持って調査する力は、将来役立つと思う。
- ・初めは関心が湧かないようなテーマでも、いざ講座に取り組んでみるとたくさんの学びがあり、とても良い経験になった。
- ・今まで自分が一度も触れたことのない分野に触れることができ、楽しかったし勉強になった。
- ・知る喜び、調べる楽しみ、理解してそれを発表するときの充実感があり、とても良い活動になった。
- ・コロナの関係もあり学校外での活動が少ないように思えた。もっと学校外での活動を行いたかった。
- ・印象に残る講話がたくさんあり嬉しかったですが、ぜひ講師の先生方に直接会ってお話を伺いたいと思う場面がたくさんあり残念でした。
- ・リモートでの講義は、先生との距離を感じ、あまり生きた話に思えなかった。
- ・ためになることも多くあったが、2時間の講義は集中力の限界が来るので、もっとコンパクトにすべきだと思った。
- ・講演の時間を短くして生徒同士で話し合ったりする時間を設けてもらいたい。
- ・学習時間外での準備が非常にしんどかった。
- ・もっと課題研究の時間が欲しかった。

<2年生>

- ・様々な方とコミュニケーションをとる機会があり、地域についてそして地域に携わる方について理解を深めることができた。地域活性化と一概に言うけれど、その中の考えは多岐にわたると実感した。
- ・課題研究を通して自分の進路を明確に決め、自分の興味のある分野を見つけることができた。ポスター制作によって情報をまとめる力もついたと思う。
- ・普段の高校生活では絶対できないような経験をたくさんすることができた。
- ・社会の現状について客観的な視点から見つめ直し、自分の将来について考えられるようになった。
- ・1年間自分の興味のある分野で課題研究をさせていただくことができて良かった。コロナの影響で予定していたことのいくつかを行うことができなくて残念だったが、自分の将来に繋がる学びができた。
- ・大学の先生から学ぶことは、とても深く興味深いものばかりで、普通の高校生活では学べないような貴重な体験となりました。資料やグラフを正しく読み取る力や、批判的な意識を持って問題に取り組むことの重要性、そして国際問題の理解と関心がより深まりました。
- ・より深く学んだことにより、自分たちの活動が地域活性化にどのように繋がるのか、また、そもそも地域活性化とは何なのか多角的な視点で物事を考えられるようになりました。
- ・答えのないテーマに取り組むため、様々な壁にぶつかることが多くあり、大変な思いをすることも多くあつ

たが、解決への道を少しずつ開けているように感じた。

- ・自ら計画を立てて実行する機会が今まであまりなかったため、この経験は良い経験となった。
- ・大学で扱うような高度な実験を体験することで、その学部への興味がさらに高まり、進路を考えていく上ですごく充実したものとなった。
- ・将来就きたい職業に関係した研究なので、意欲的に活動できた。GL生以外の生徒が、GL生の研究成果を見られる場があったら良いなと思った。
- ・TAの方から大学について聞ける機会があり、参考になった。
- ・プレゼン等をまとめる段階でパソコンを使いこなす必要を強く感じ、1年生の情報の時間の大切さを再認識した。
- ・ポスターセッションでは、1年生に自分の研究内容をしっかり伝えることができて良かった。
- ・GLコースの学習ができたことに強く感謝している。コロナ禍でも発表等のチャンスがあったことに感謝している。
- ・とても良い経験ができた。成果を発表する機会にも恵まれ、やる気を持って取り組めたと思う。「グローバル」という新しい視点を獲得ことができ世界が広がったので良かった。
- ・海外の方々とZoomを通して交流したり、150人以上にアンケートをしたりすることができ、自分にとって大きな刺激になった。
- ・動画作成を通してSDGsの推進に取り組むことができた。来年度の2年生にもぜひ積極的に取り組んでもらいたい。
- ・地元愛媛についてよく知り、考えるきっかけになった。GL事業で得た知識が勉強や日常生活にも生きてくると思う。しかし、コロナの影響で十分な活動ができなかったのが心残りです。
- ・課題研究は自分で何を研究してどのような情報が必要で、それをどのように生かしていくかまで決めて計画的に研究する必要があるため、GL以外の普段の生活から社会問題などに目を向けるきっかけになった。また、パソコンを使ってまとめる作業を行う機会が増えたので、情報処理能力も身についた。
- ・普段だったら経験できないことをたくさん経験させてもらった。地元の観光や活性化についての講座だが、地元の魅力を改めて認識することができたことが1番の収穫だったと思う。
- ・自分の興味のある分野について研究を進めることができ、より明確に課題を知り自分の行動を考えられるようになった。SDGsについて研究しているが課題が山積みである現状を知り、変えていかなければいけない私たちの行動が分かった。
- ・課題の提出が審査期間に重なることが多く、勉強に支障が生じた。調べ学習がほとんどであったため、レベルが低いものになっている。
- ・必ず勉強の負担になるので、本気でやりたいと思う人以外は選ばない方がよい。
- ・コロナの影響で大学の先生がなかなか指導に来られず、明確な目標を持ってないまま過ごしてしまった。

(2) 保護者

1 今の時点で、次のことがらについて、お子様は、どの程度興味がありますか。

項目	類型	保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない
(1) 本校や愛媛の歴史	1年	2.9%	64.6%	29.6%	2.9%	6.8%	61.4%	29.9%	1.9%
	2年GL	6.8%	69.9%	23.3%	0.0%				
	GL以外	3.1%	60.9%	33.9%	2.1%				
(2) 愛媛の企業のグローバル化の推進	1年	7.1%	48.3%	39.2%	5.4%	6.1%	54.7%	36.7%	2.6%
	2年GL	5.5%	71.2%	23.3%	0.0%				
	GL以外	3.1%	45.3%	49.5%	2.1%				
(3) 持続可能な社会づくり (SDGs)	1年	16.7%	56.3%	23.8%	3.3%	15.8%	52.1%	29.6%	2.6%
	2年GL	21.9%	61.6%	16.4%	0.0%				
	GL以外	7.3%	58.3%	31.8%	2.6%				
(4) グローバル時代における共生の実現	1年	18.3%	60.0%	20.0%	1.7%	18.0%	57.9%	21.5%	2.6%
	2年GL	27.4%	64.4%	8.2%	0.0%				
	GL以外	13.0%	55.2%	28.6%	3.1%				
(5) 地域の魅力と課題	1年	7.1%	57.9%	31.7%	3.3%	11.9%	51.4%	34.7%	1.9%
	2年GL	17.8%	63.0%	17.8%	1.4%				
	GL以外	5.2%	56.3%	36.5%	2.1%				
(6) 地域の活性化	1年	5.4%	57.9%	33.8%	2.9%	11.6%	51.6%	33.9%	2.9%
	2年GL	16.4%	67.1%	16.4%	0.0%				
	GL以外	4.7%	51.6%	41.7%	2.1%				

2 今の時点で、お子様は、次の力がどの程度あると思いますか。

項目	類型	保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		十分にある	ある	あまりない	ない	十分にある	ある	あまりない	ない
(1) 松山東高校の魅力を説明する力	1年	11.6%	53.1%	31.1%	4.1%	9.3%	57.9%	31.2%	1.6%
	2年GL	26.0%	64.4%	9.6%	0.0%				
	GL以外	13.0%	56.8%	28.1%	2.1%				
(2) 愛媛県(地域)の魅力を発信する力	1年	5.0%	42.7%	45.6%	6.6%	5.1%	43.1%	46.3%	5.5%
	2年GL	8.2%	60.3%	31.5%	0.0%				
	GL以外	4.7%	48.7%	42.9%	3.7%				
(3) 地域の課題についての理解	1年	5.0%	32.8%	56.0%	6.2%	4.5%	42.8%	48.6%	4.2%
	2年GL	9.6%	49.3%	39.7%	1.4%				
	GL以外	4.7%	39.3%	51.3%	4.7%				
(4) グローバルな課題についての理解	1年	6.6%	46.1%	40.2%	7.1%	6.1%	46.9%	40.8%	6.1%
	2年GL	12.3%	58.9%	28.8%	0.0%				
	GL以外	5.2%	43.2%	46.4%	5.2%				
(5) 持続可能な社会の実現に必要な教養	1年	6.7%	40.0%	47.1%	6.3%	4.8%	38.6%	49.8%	6.8%
	2年GL	11.0%	43.8%	45.2%	0.0%				
	GL以外	5.7%	43.8%	45.3%	5.2%				
(6) リーダーシップ・調整力	1年	9.5%	40.7%	42.7%	7.1%	9.6%	44.4%	37.0%	9.0%
	2年GL	13.7%	56.2%	27.4%	2.7%				
	GL以外	10.4%	38.5%	40.1%	10.9%				
(7) 世界の人々とのコミュニケーション能力	1年	7.5%	30.3%	46.5%	15.8%	7.7%	36.3%	41.5%	14.5%
	2年GL	13.7%	46.6%	35.6%	4.1%				
	GL以外	2.6%	41.7%	45.3%	10.4%				
(8) 英語でのディスカッション力・ディベート力	1年	5.0%	22.4%	47.7%	24.9%	4.8%	25.7%	47.6%	21.9%
	2年GL	13.7%	27.4%	47.9%	11.0%				
	GL以外	5.2%	23.4%	52.1%	19.3%				
(9) 異文化理解力	1年	12.4%	50.6%	30.7%	6.2%	11.9%	54.7%	28.0%	5.5%
	2年GL	17.8%	60.3%	20.5%	1.4%				
	GL以外	7.8%	56.8%	31.3%	4.2%				
(10) 批判的思考力	1年	12.1%	43.8%	35.4%	8.8%	13.5%	43.4%	37.3%	5.8%
	2年GL	17.8%	49.3%	27.4%	5.5%				
	GL以外	8.9%	47.9%	38.0%	5.2%				

3 お子様の現在や将来に関する次の問いに教えてください。

項目	類型	保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強く思う	そう思う	あまり思わない	思わない
(1) ボランティアとして、地域の社会貢献活動に参加したいと考えている。	1年	8.8%	38.5%	47.7%	5.0%	8.4%	40.5%	46.9%	4.2%
	2年GL	16.4%	45.2%	37.0%	1.4%				
	GL以外	6.3%	30.7%	55.6%	7.4%				
(2) 地域の魅力を、国内や国外に発信したいと考えている。	1年	6.7%	36.4%	50.6%	6.3%	7.1%	31.2%	57.6%	4.2%
	2年GL	11.0%	53.4%	34.2%	1.4%				
	GL以外	4.2%	23.3%	64.6%	7.9%				
(3) 留学や海外の大学への進学をしたいと考えている。	1年	15.9%	22.2%	40.2%	21.8%	11.3%	24.1%	43.4%	21.2%
	2年GL	16.4%	38.4%	37.0%	8.2%				
	GL以外	7.4%	16.9%	47.1%	28.6%				
(4) 国や地域の担い手として、政策決定に関わりたいと考えている。	1年	2.9%	18.4%	56.5%	22.2%	5.1%	19.3%	54.3%	21.2%
	2年GL	5.5%	20.5%	65.8%	8.2%				
	GL以外	1.6%	15.3%	57.7%	25.4%				
(5) 地域と世界に関連する課題に関わりたいと考えている。	1年	7.1%	34.6%	46.3%	12.1%	7.4%	31.8%	49.5%	11.3%
	2年GL	8.2%	52.1%	37.0%	2.7%				
	GL以外	2.6%	27.5%	54.0%	15.9%				
(6) 地元で就職または起業してもらいたいと考えている。	1年	8.8%	31.4%	43.5%	16.3%	7.7%	28.9%	46.0%	17.4%
	2年GL	19.2%	19.2%	52.1%	9.6%				
	GL以外	9.5%	28.6%	48.1%	13.8%				
(7) どこに暮らしていても地元のために貢献してもらいたいと考えている。	1年	11.7%	58.3%	25.4%	4.6%	14.5%	50.5%	29.9%	5.1%
	2年GL	15.1%	58.9%	23.3%	2.7%				
	GL以外	13.8%	45.5%	34.4%	6.3%				
(8) お子様の英語力を高めたいと思う。	1年	57.1%	40.4%	2.1%	0.4%	59.2%	37.0%	3.2%	0.6%
	2年GL	57.5%	39.7%	2.7%	0.0%				
	GL以外	46.6%	46.0%	6.9%	0.5%				
(9) お子様には、将来、英語力は必要だと思う。	1年	62.9%	36.3%	0.4%	0.4%	66.2%	31.5%	2.3%	0.0%
	2年GL	71.2%	27.4%	1.4%	0.0%				
	GL以外	52.9%	41.3%	5.3%	0.5%				

4 グローカル明教での学習が、お子様の高校生活に与えた影響について、次の問いにお答えください。

項目	類型	保護者 (2020)				保護者 (2019)			
		強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	強くそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
(1) 進路選択や目標設定が明確になった。	1年	12.5%	41.5%	40.9%	5.1%	11.6%	41.0%	41.6%	5.8%
	2年GL	26.4%	52.8%	19.4%	1.4%				
(2) 他の教科の学習に役立った。	1年	10.8%	55.7%	29.0%	4.5%	7.7%	51.3%	36.5%	4.5%
	2年GL	16.7%	61.1%	22.2%	0.0%				

自由記述より

- ・とても熱心に活動していてGLを希望して良かったと思います。
- ・教科書だけでは身に付かない知識や情報を得て将来に生かせる学習になったと思います。
- ・海外の経済や文化について詳しく調べることで、自分の考えや意見を明確にでき、大学進学や就職等に役立つ学習ができたのではないかと思います。
- ・大学のゼミを先取りできたような良い経験だと思います。部活や勉強など多忙な中、限られた時間で勉強以外の事を学ぶことは視野も広がり、いろいろなことを吸収する高校生には貴重なものだと思います。
- ・GL事業を通して進路選択や目標設定が明確になったことが本当に有難いです。
- ・興味のある分野をより広く深く学べることでできる事業だと思い、このようなチャンスを得ることができることに感謝しています。10年後の地球を救うのは今のこの生徒達なので、この学びをぜひ続けていてもらいたいと思います。
- ・異なる環境で体験したことは将来のことを考えるのに役立ったと思う。
- ・指導していただいた先生に良い意味でとても影響を受けています。3年生での学習も楽しみです。
- ・興味のある分野のことを、教科書ではなく現場のことで通して学ばせてもらって良かったと思う。
- ・通常の教科以外の学習にとっても力を入れられていることに驚きました。模擬国連に参加して、そのための準備や情報収集を頑張っていました。そのことは、本人にとって知識の幅が広がってとても良かったと思います。
- ・本来なら大学で受けるような講義を高校生で受けられる環境を非常に有難いと感じています。講義をきっかけに将来自分が何をしたいのか考えられるようになればと思います。
- ・本年度はリモートが多かったようで、話を聞くだけになってしまったのが残念でした。
- ・各分野について説明してくれるので親も視野が広がります。教科書では学べない社会に目を向けられるのは人間力アップにつながり良いと思います。
- ・グループ活動により、やる気のある子とない子の差が激しく、ない子と一緒にになると、やりたい事進めたい事も思うようにできなかつたらしいので、個別にさせてはどうかと思いました。
- ・勉強だけでなくこのような事業により、子ども達の視野が広がる気がします。そして、深く考察する力もついてくるように思います。大いに学んで欲しいと願っています。
- ・楽しく取り組めたようです。家庭でも学んだ事を話してくれました。保護者としても知らない事が多く興味深く聞くことができて楽しかったです。
- ・チーム数名でする作業でほぼ一人が仕上げるようになっており、中身に問題がある。
- ・愛媛の地域のいろいろな事を知る事ができ勉強になりました。
- ・授業外の学びが沢山あって、とても建設的だと思う。
- ・楽しんで学習していたように思います。地域と世界の関わりについて目を向けるための動機づけになっていました。
- ・通常の教科以外の学習にとっても力を入れられていて驚きました。人として知識の幅が広がり、奥行きがでることはとても良いことだと思います。
- ・家庭で楽しそうに活動内容を話してくれ、充実した時間を過ごせていたことがよく分かりました。
- ・G明教の内容をもっと保護者が知る機会があれば良いと思います。

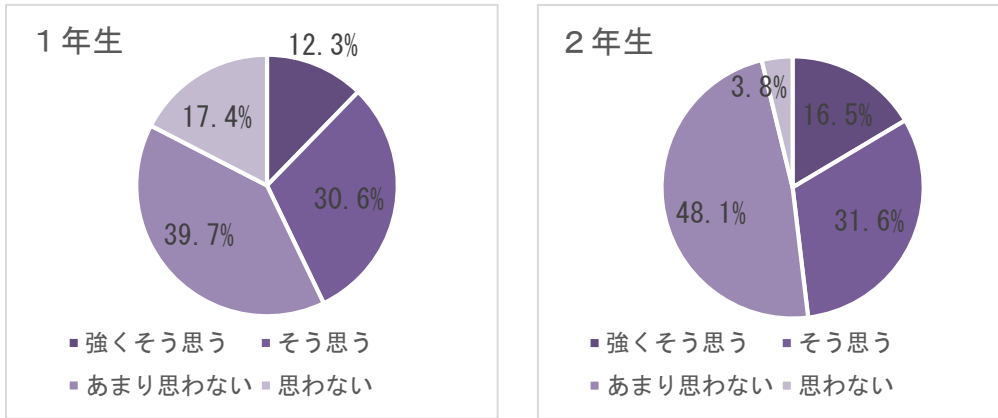
2 アンケート分析

(1) 他教科での学びや、将来とつながるプログラムとしての役割

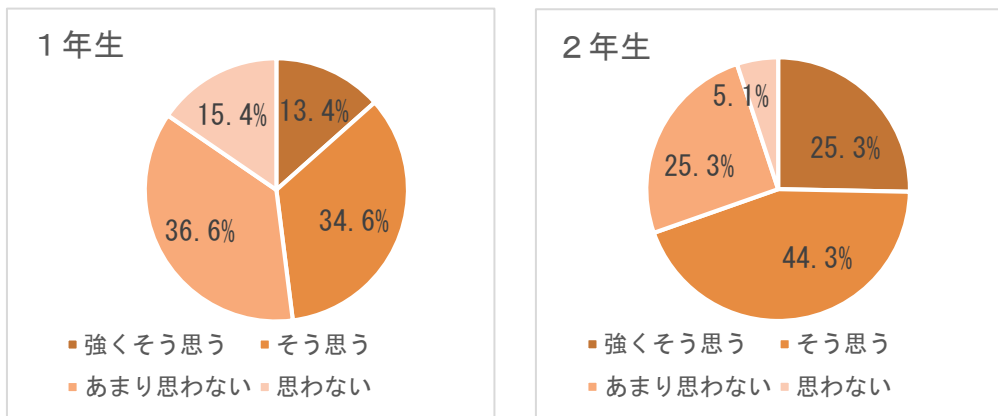
GL事業の実施により、1、2年生ともに、半数近くの生徒が本事業での学びが他の教科の学習に役立ったと答えている。(図1-①) また、進路選択や目標設定が明確になったと答える生徒が、1年生でおよそ半数、2年生では7割近くにのぼっている。(図1-②) このことから、本事業の経験が他教科の学習を促進したり、将来の進路を考えたりする上で一定の役割を果たしていることがわかる。

図1. アンケート「問5. グローカル明教の学習が高校生活に与えた影響」への生徒の回答（2020年度）

① 他の教科の学習に役立った



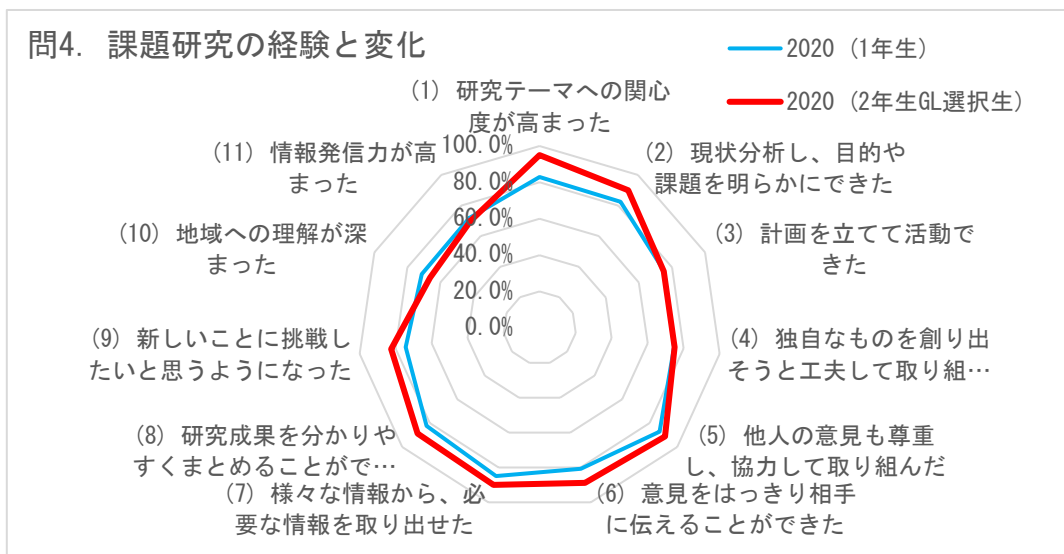
② 進路選択や目標設定が明確になった



(2) 研究活動を通じた情報分析力と表現力の獲得

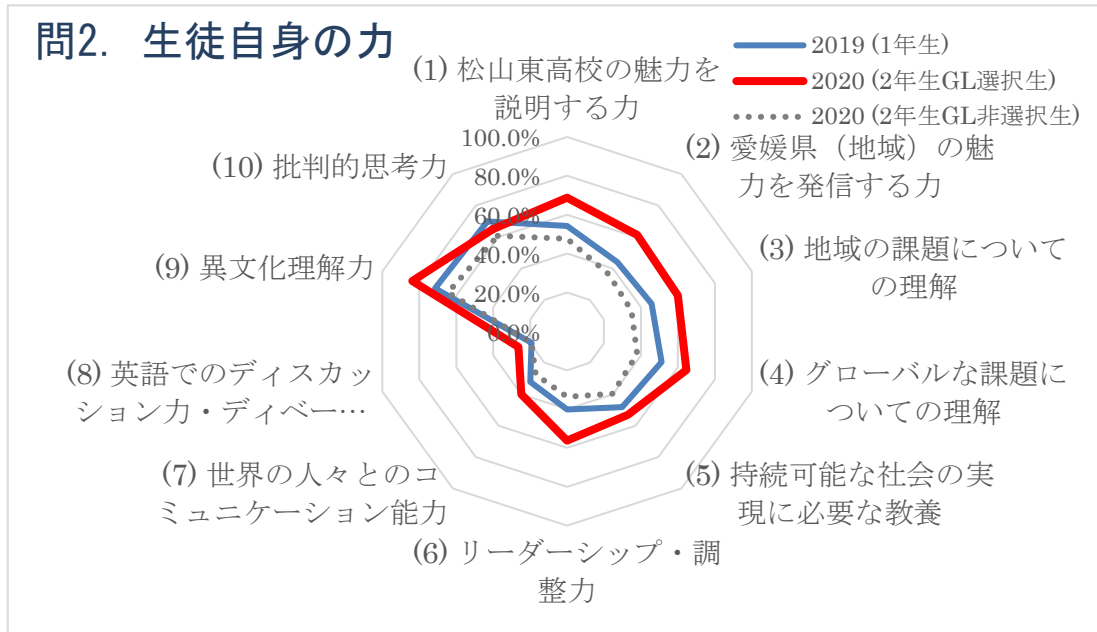
課題研究活動を通じた自らの経験や変化について（図2-1）、1年生、2年生いずれも研究テーマについての情報の収集や分析(1)(2)(7)、表現力や仲間との協働(5)(6)(8)について高い評価を下している。また「(9) 新しいことに挑戦したいと思うようになった」と答える生徒が、1年生では74.5%、2年生では82.5%を占め、課題研究活動を通じて自ら課題を発見し、主体的に解決に取り組む姿勢が生まれているといえる。

図2-1. アンケート「問4. 課題研究での経験や変化について」への生徒の回答（2020年度）



他方で、生徒自身の力を問うと（図2-2）、1年生、2年生ともに、「(8) 英語でのディスカッション力・ディベート力」「(7) 世界の人々とのコミュニケーション能力」と答える割合は低く、語学力や異文化コミュニケーションに苦手な意識を持つ傾向が高いことが分かった。本年度の課題研究では、ネイティブの講師による授業（使用言語：英語）を開講したが、英語が得意な生徒は自信をつける一方で、自信がない生徒の底上げが課題となっている。来年度は英語の得意・不得意にかかわらず、英語をツールとして用いてコミュニケーションをする授業の設置、オンラインを活用した国際交流事業の対象拡大、CLIL授業の活用などの対応を予定している。

図2-2. アンケート「問2. 生徒自身の力について」への生徒の回答 (2020年度)



(3) 地域への関心と課題解決への意欲の向上

本事業では、1年次に全員が課題研究活動に参加し、2年次では希望者がGLコースを選択する体制をとっている。今年度の調査結果では、1年次2年次と継続的に本事業に参加した生徒の間で、地域への関心、課題解決に必要な力、そして将来的に地域に関わりたい意欲が高くなっている。

昨年度に引き続いて本事業に参加している2年生のGLコース選択生と彼らを含む昨年度の1年生全員へのアンケート結果を比較すると、その傾向が明らかになった(図2-3)。

図2-3が示すように、「(2)地域の魅力を国内外に発信したい」「(7)将来、どこに暮らしていても地元のために貢献したい」「(5)将来、地域と世界に関連する課題にかかわりたい」と答えた割合は、GL選択2年生ではいずれも1年次に比べて高くなっている。

さらに、「(6)将来、地元で就職または起業したい」の内訳を分析すると(図2-4)、「強くそう思う」と答えた割合が2年次では、1年次の2倍以上になっており、継続的な事業活動によって、地域で主体的な役割を果たす人材の育成という成果が出ているといえよう。

図2-3. アンケート「問3. 現在や将来について」への生徒の回答を比較

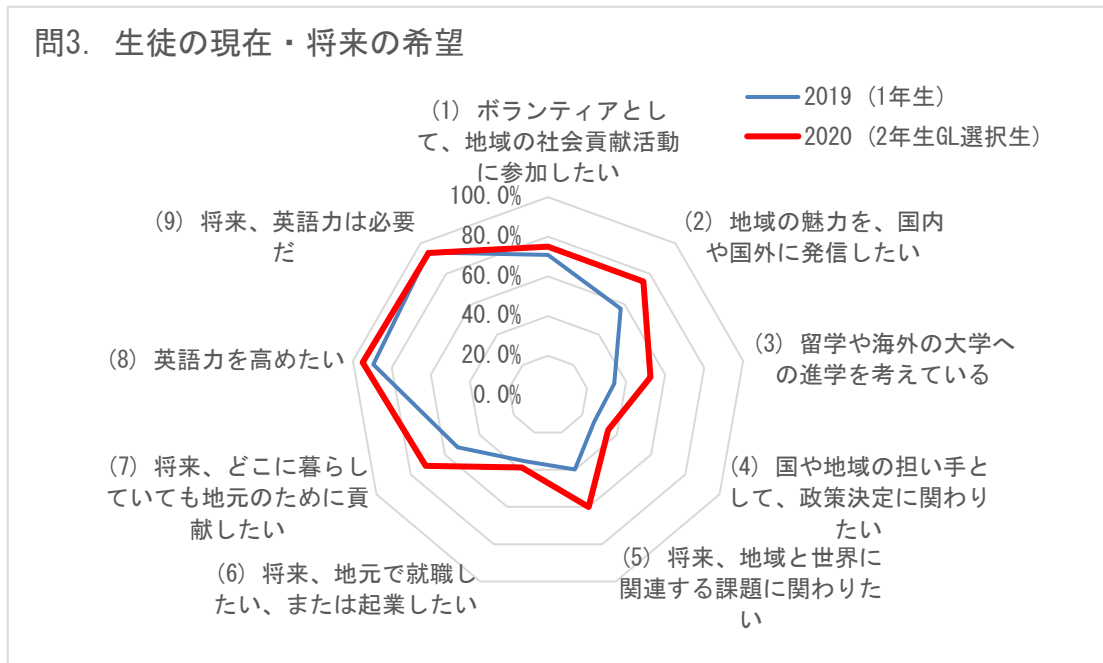
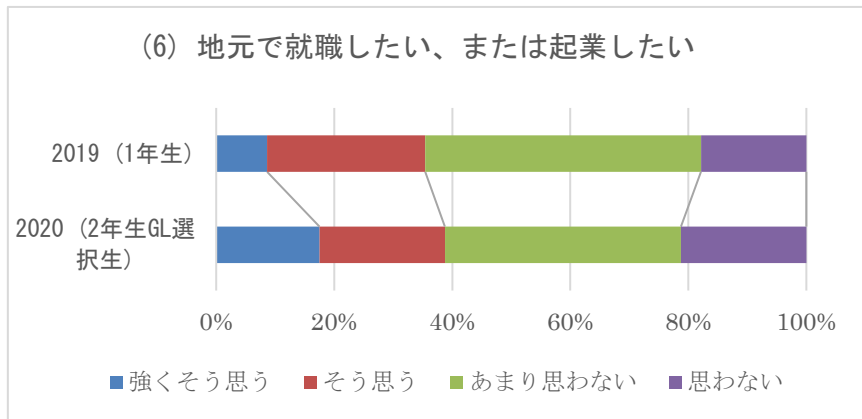


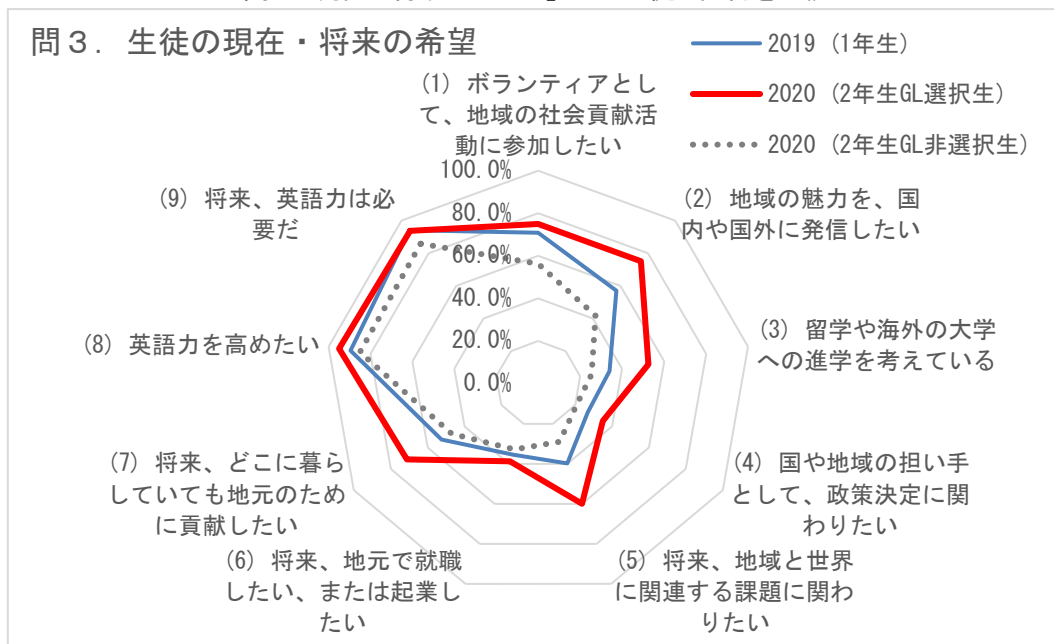
図2-4. アンケート「問3. 設問(6) 将来、地元で就職したい、または企業したい」生徒の回答を比較



このように、継続的に課題研究活動を行うことで、生徒の問題意識を向上させることができた。新たな課題は、1年次の課題研究終了後の生徒の意欲の継続である。今年度の2年生を、GL選択生とGL非選択生で比較したところ、GL非選択生は、いずれの質問項目でも、GL選択生と比べて肯定的評価を下す割合が低いことがわかった。また、1年次の回答(2019年度)と比較しても低くなっている。GL非選択生のなかには、もともと地域課題の解決など社会問題の解決にあまり関心のない生徒もいて、GLコースを選択しなかったケースもある。しかし2年次に課題研究に参加できなかった生徒が、地域やグローバルな課題への興味関心を失い、消極的になってしまったケースもあるように見受けられる。GL選択生はもともと地域課題の解決に高い意識をもち、GLコースの受講によりさらに意欲を高めることができるが、非選択生がGL事業の成果をいかに享受できるようにするかは、今後検討していかなくてはならない課題である。

こうした課題について、2年次から課題研究活動に参加しない生徒に対しても、他の活動への参加を促すなどの方法を検討していく。一案として、オンラインを活用して国際交流事業の参加対象者を広げる、などの方法が考えられる。

図2-3. アンケート「問3. 現在や将来について」への生徒の回答を比較



(4) 高校教員による課題研究の実践と生徒への効果

今年度の新たな取り組みは、高校教員による課題研究の指導である。これまでの課題研究は外部講師に指導をお願いしていたが、持続的な指導体制の確立と教員のスキルアップをめざして、今年度から高校教員が1年生の課題研究を指導している。

指導体制の変更に関わらず、各教員の工夫と協力により、生徒たちは意欲的に課題研究を行うことができた。これは、1年間の課題研究実施後の生徒の興味や関心から確認できる。以下は、今年度の1年生と昨年度の1年生のアンケート結果を比較したものである。

図3-1によると、課題研究活動を通じた成果として、今年度の1年生は、情報の収集・分析力(2)(7)、成果の表現力(4)(8)、協働による研究活動の実行力(5)(6)を挙げる割合が高く、昨年度の1年生と同程度の水準であった。さらに、地域への理解(10)や、新しいことに挑戦したいという意欲(9)は、昨年度の割合を上回る結果となっている。

また図3-2から、昨年度の1年生と比較して、今年度の1年生は、「(7)将来どこに暮らしていても地元のために貢献したい」「(4)国や地域の担い手として政策決定に関わりたい」「(5)将来、地域と世界に関連する課題に関わりたい」と答える割合が高くなっており、地域の課題に対して意識を向ける姿勢が強まっている。このように、本校教員によって行われた課題研究は事業目的に照らして想定以上の成果を生み出しており、本事業終了後を見据えた課題研究の持続的な指導体制の構築が可能になってきている。

今後この体制を続けていくためには、課題研究の指導にともなう教員の負担等の課題が残る。教員への聞き取り・アンケートの結果を踏まえて、地域協働学習実施支援員及びカリキュラム等開発専門家とともに、対策を検討する予定である。

図3-1. アンケート「問4. 課題研究での経験や変化について」への生徒の回答を比較

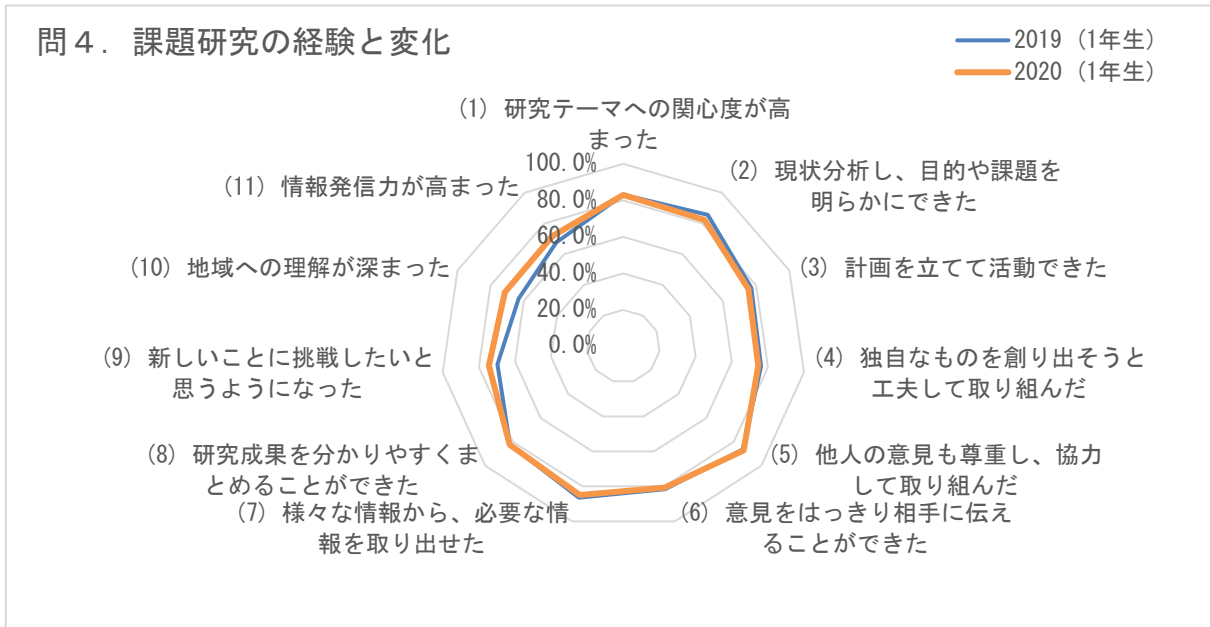
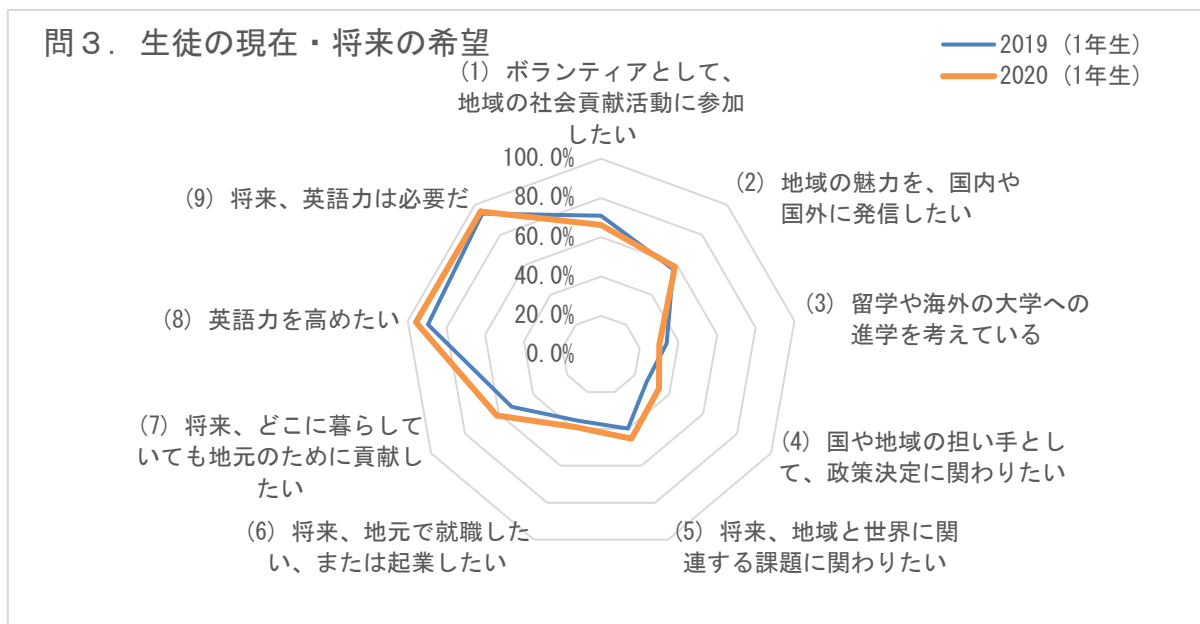


図3-2. アンケート「問3. 現在や将来について」への生徒の回答を比較



II 令和2年度のGL事業課の自己評価

1 グローカル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究プログラム開発【グローバル明教】

(1) グローカル明教I

実施内容： 各種講演（1年生）、ワークショップ、県内企業フィールドワーク（代替講演）、海外フィールドワーク（代替交流）

自己評価： 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための休校措置や、フィールドワークの自粛措置のために、年度当初の計画からは大幅に変更して実施した。講演会は、体育館での一斉受講から各教室でのオンライン受講に変更した。当初は教員も生徒も戸惑いがあったが、自教室での受講のた

め、落ち着いた雰囲気のもとで受講ができたり、話し合いも活発に行えたり、机があることで講演の記録や自分の考えをまとめることが容易になったりするなど、オンラインならでの利点も見つけることができた。しかし、講師の先生方からの生徒の生の反応が見にくいために話しにくかったとの御意見や、生徒からの直接話を聞かせて欲しかったという要望もあり、来年度以降の検討事項としたい。また、昨年度まで行ってきた、坂の上の雲ミュージアム及び公益財団法人常盤同郷会の協力による秋山兄弟生誕地等の史跡でのフィールドワークは実施できなかった。そのため、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力についての理解への取組は、HR活動や各教科の取組の中で補充した。

昨年度から、松山市の協力を得て実施している「笑顔のまつやま まちかど講座」は、感染防止対策も兼ねて昨年度よりも多くの講座の実施を依頼した。松山市の全面的な協力により 15 講座が開講でき、少人数でのワークショップを実施することで生徒の興味・関心のさらなる喚起に繋げることができた。また、各種講演会を通して、グローバルが求められている背景やSDGsへの理解を深めることができ、地域と世界の持続的な発展のために何が必要であるのかを考えさせる時間を確保することができ、2学期以降の課題研究に向けての動機付けを行うとともに、生徒の興味・関心を高めることができた。

県内企業フィールドワーク、海外フィールドワークともに、年度当初の計画から変更し、実施できるように調整してきたが、感染拡大の影響でやむなく中止した。その代替として、県内企業フィールドワーク中に講演していただいていた内容を、オンラインで話していただいた。時間の関係で2社に講演をお願いしたが、急な変更にも関わらず好意的に取り組んでくださった。企業の取組や海外進出・海外での勤務及び高校生として取り組んでおくべき内容等、様々な情報を提供していただき、企業に対する生徒の理解度の向上に繋がった。一方、海外フィールドワークにおいても、訪問予定の学校や企業とオンラインでの交流を実施した。交流先との事前確認や、生徒の事前学習により、生徒にはある程度の効果があったものと考えられる。しかし、生徒の感想の多くに、現地を訪問したいというものがあり、来年度の実施について時期を含めて実現できるように検討していきたい。

各種講演やワークショップの実施後には、ワークシートの提出を行っているが、その自己評価において生徒はいずれにおいても高い評価をしている。(第3部 第3章 参照)

(2) グローカル明教Ⅱ 課題研究～グローバル課題の発見～

実施内容： 課題研究、各種講演

自己評価： 昨年度までは、課題研究の指導において、愛媛大学・松山大学の講師や元研究員、愛媛県立中央病院の医師、松山市役所の職員の方などから直接指導を受けていたが、本事業終了後の自走を考え、本校教職員による課題研究を実施した。当該学年である1年学年団の先生方に学年会を通じて、課題研究の指導方針や指導計画についてGL事業課より連絡を行い、協議を行った。また、地域協働学習実施支援員から「課題研究とは」「課題研究の進め方」等の指導をしていただいた。

まず、研究概要をもとに、各先生方が内容のプレゼンをした後、生徒の希望をとり講座編成を行った。その後、各先生方の創意工夫によって、様々な分野の課題研究が実践され、116枚のポスターにまとめられた。昨年度までは研究概要のみで選択していたが、講座内容を直接担当の先生方から聞くことができた本年度は、より課題意識を持った状態での生徒の講座選択に繋がった。また、各先生方が各教科の特性や得意な分野での研究テーマを設定した関係で、フィールドワークや外部講師の招聘など、各先生方の特徴のあらわれた課題研究が実践された。1年間のG明教の取組で最も印象に残っている活動として、半数近くの生徒が課題研究を選んでおり、生徒の満足度も高いものになっている。しかし、課題研究の時間不足や、ポスター作りのための情報機器の不足や情報活用のための講義不足などの課題も多く見つかри、来年度の課題研究に生かしていきたい。

(3) グローカル明教Ⅲ 課題研究～グローバル課題への取組～

実施内容： 課題研究、各種講演

自己評価： コンソーシアムの協力のもと、愛媛大学、松山大学の講師や元研究員、大分県立病院の医師、松山市役所の職員の方々から直接指導を受ける13講座を開設し、GLコース生80名が1年間をかけて課題研究に取り組んだ。本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため当初はオンラインのみで受講となったが、感染が落ち着いた6月頃からは、対面授業やオンラインを併用しながら取り組んだ。フィールドワークの実施が難しい中、各講師の方々の創意工夫により、SG

H事業時と同様の広範囲で高水準の課題研究が実践された。また、昨年度は休校措置により実施できなかったポスター発表会を12月に実施することができ、研究をまとめるだけでなく、いかに分かりやすく聴衆に伝えるか、どのような評価をされるのかなど、体験しなければ分からないことを学び、貴重な体験の場となった。さらに、論文をまとめるために必要な考え方や文章の書き方なども、地域協働学習実施支援員の方や、松山市との連携講座による講演などを活用し実施することができた。しかし、フィールドワークの不足やオンラインでの講義の多さなど講座によっては、十分に指導していただく環境を整えることができなかった点は来年度への課題としたい。

今年度の課題であった生徒の希望に合った幅広い講座の開設とGLコース生の増員については、コンソーシアムの支援により新たに松山大学薬学部、松山市選挙管理委員会、いよぎん地域経済研究センター、松山市国際交流センターなどからの講師をお迎えしての講座を来年度に向けて開設でき、さらにGLコース生の人数を80名から97名に増員することができた。

なお、1・2年生ともに課題研究の事前指導として、地域協働学習実施支援員の嶋村氏より講演をしていただいているが、その目的と内容、評価についてここで報告する。

「課題研究」に関わる事前研修とその内容

本校で五年間実施したSGH事業を通して、生徒は「課題研究」にとまどいを感じ、うまくすすめられない生徒もみられた。そこで、本校ではSGHプロジェクト時から、生徒に対して「研究」、「論文執筆」及び「プレゼンテーション」に関する事前研修を行っている。

三つの研修の目的は、A) 「課題研究」に取り組む前の生徒の不安を解消し、B) 「課題研究」を実施する際の目的意識を高め、C) 「課題研究」の方法や注意点を共有することによって、課題研究を効果的に進めることである。

また、本校では様々な方面から外部講師に参画していただき、課題研究を進めている。外部講師が研究指導に集中するためには、生徒が「課題研究」を実施するために必要な基本的な知識や情報を習得・共有していることが不可欠である。

こういったSGH事業時に培われたノウハウが現在のプロジェクトの土台となっているので、事前研修が必要な理由、研修の内容及び生徒への研修の効果について、ここに報告する。

事前研修が必要な理由

はじめに、研修目的であるA)～C)が必要な理由を説明する。

- A) 「課題研究」に取り組む前の生徒の不安の解消
- ・「研究」や、その結果をまとめて提出する「ポスター」や「論文」がどういうものかわからないために、生徒は漠然と不安を抱いている。途中で挫折してしまうこともある。
 - ・「課題研究」は、全員が大学レベルの研究を行ったり、社会の課題を解決することが目的ではなく、自分の発見を他人に伝えられるかたちで発表することが目的であることを伝える。
- B) 「課題研究」を実施する際の目的意識を高める
- ・高校の他の授業で勉強することと「課題研究」は、何がどう違うのかを知っておくことで、“やらされている”という思いや、受け身な姿勢から脱却できる。
 - ・時間と手間がかかる「課題研究」によって何が得られるのかを理解することで、研究に対するモチベーションが上がる。生徒が理解することは、保護者の理解にもつながる。
- C) 「課題研究」の方法や注意点を共有する
- ・詳しい説明がないと、生徒は「研究」を調べ学習と、「論文」をレポートと混同してしまい、考察や結論が導き出せなくなって困惑する。その結果、インターネットで調べた情報をコピー&ペーストしただけの内容になってしまう。

事前研修の対象者

研修の種類	対象者
「研究」に関する研修	一年生全員
「プレゼンテーション」に関する研修	一年生全員
「論文執筆」に関する研修	二年生のうち、GLコース選択者

事前研修の内容

「研究」に関する研修の具体的な内容は、以下の通りである。

【研 修】「課題研究のすすめかた」

【実施日】令和2年7月9日

【対 象】9月から課題研究が始まる全1年生360名

【講 師】SGHプロジェクトの課題研究講師・現 地域協働学習実施支援員の嶋村美和氏

【内 容】以下の内容について具体例を挙げながら説明を行うとともに、「情報・資料検索」について詳しくまとめた案内資料を配布した。

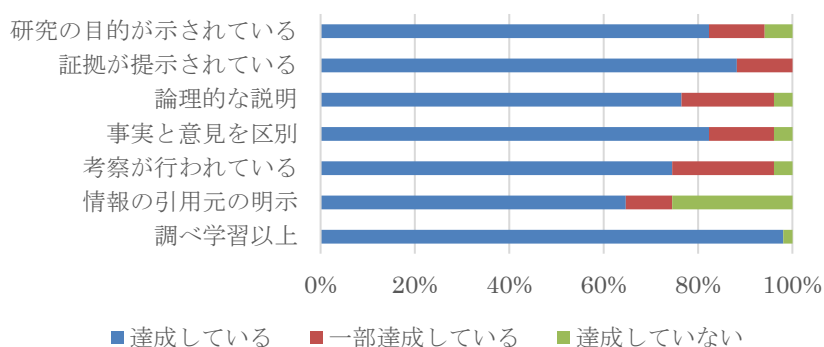
1. 研究とは
2. 課題研究で学べること
3. 調べ学習と異なる点
4. 研究のながれ
5. 研究をまとめる時の注意点
6. つまづきやすいポイントについての補足（情報の検索や引用の方法等）

生徒への研修の効果

「研究」に関する研修「課題研究のすすめかた」の効果进行调查するため、本年度実施した中間発表会（令和2年12月17日実施）で発表があった51枚のポスターを対象に、達成度を調査した。達成度は、研修で学習した内容から7項目を抜粋して評価を行った。なお、対象とした51枚のポスターは2年生が作成したもので、1年生を対象にした上記の研修を、去年受講している。

調査の結果、51枚のポスターのうち、98%が調べ学習以上の内容を“達成している”ことがわかった。研修で学習した他の項目については、「情報の引用元の明示」を除く他の項目は75%以上が“達成していた”。この達成度は“一部達成されている”を含めると、90%以上となる。唯一達成度が低かった“情報の引用元の明示”については（“達成している”が64.7%）、自分のデータを使った発表であったため、参考文献や情報を使用しなかったポスターも含まれている。そのため、“情報の引用元の明示”に関する生徒の理解が低いとは言い切れないが、彼らが来年度に行う論文の執筆では、“情報の引用元の明示”に注意しながら指導を行う必要がある。調査の結果、研修の効果は十分あらわれているといえる。

中間発表会ポスターにおける達成度



2 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊ちゃんタイム】

実施内容： 松山東高校版内容言語統合型学習（E a s t C L I L）

自己評価： C L I L（Content and Language Integrated Learning：クリル）とは特定の教科またはテーマを学習することを通し、内容の理解と目標言語（本校の場合は英語）の運用能力、学習能力、思考力の向上を同時に進める学習方法である。教科内容を題材とした言語活動を行うことで英語のスキルを高めること、また、生徒の協同学習で学習意欲を相互に高めることが期待されている。そこで英語以外の教材を本校でアレンジし、研究指定校初年度から松山東高校版内容言語統合型学習（E a s t C L I L）として実施している。内容の理解、言語の理解、+αの学習を目指し、教科担当教員・ALT（英語指導助手）・英語科教員の3人で担当している。1年生は全クラスで学期に1回ずつ実施、一つの内容につき2時間をかけた。まず、1時間目は、実施教科の内容に応じた教材を用いて英語科教員とALTが授業を行い、語彙や学習目標の確認をし、2時間目で、実験やグループワーク、プレゼンテーションを行うとともに、教科担当教員とALTによって更に専門的な学習へと導いた。授業初回は緊張している生徒も、自らが調べたり発表を行うなど主体となり活動することで、非常に活気ある授業となっている。本校の入学選考の面接では、E a s t C L I Lを受けてみたいという中学生の声をよく聞くようになった。最終的には、これらを特別な授業と位置付けず、生徒が学んだ学習内容を英語科の授業にフレキシブルに取り込んでいけるようにしたい。そのために、英語科の授業では、要約、リテリング、ディスカッション、即興ディベートなどの様々な言語活動を随時取り入れることで、論理的に自分の考えを伝えたり、人の意見に反論する練習を行ったりしている。こうした表現活動は、課題研究に取り組む資質の向上につながっている。

3 学校環境のグローバル化

実施内容： SGH部（部活動）の活用、海外留学の促進と留学生の受入れ、海外高校生との交流促進

自己評価： 本年度も昨年度までと同様に学校のグローバル化に努めた。本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、海外修学旅行・短期語学研修・海外フィールドワークの全てが中止となり、毎年参加しているトビタテ！留学 JAPAN や、えひめ高校生ハワイ派遣事業も相次いで中止となった。海外へ飛び立つことはできなかったが、オンラインを用いて代替事業を計画し、画面越しにたくさんの国の人々との交流を実現することができた。日常の国際交流では、タイからの短期留学生を受け入れることができ、様々な学校行事を含めて本校生徒と同じ活動をさせた。留学生の学習に対する意欲は高く、その積極的な取組が学校全体に好影響を与えている。また、駐日欧州連合代表部主催の「EUがあなたの学校にやってくる」ではリトアニア共和国のゲディミナス・バルブオリス駐日特命全権大使が来校し、講義や生徒とのディスカッションを通じて、グローバルな視点の育成に努めることができた。SGH部の活動もオンラインをうまく用いながら例年以上に活発に行われ、松山市や愛媛県と連携した取り組みにも自主的に参加し、部員各自の国際性が一層高まっている。生徒主導による毎月の「市内高校生交流会・勉強会」では、毎回SDGsの課題を取り上げ、その課題に精通した講師を招き、答えのない課題に対して市内の高校生たちがじっくり考える良い機会となっている。5回目の中四国高校生会議は、オンラインでの開催ではあったが、100名近い高校生が自分たちの地域を大事に思う気持ちを再認識し、地方の課題と地域創生について考え、意見を交換することで刺激を与えあうことができた。国内・海外を問わず、本校の取組を他校や地域へ発信・普及することに努めることができた。

4 SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築

(1) 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓

実施内容： 松山市総合政策部企画戦略課や危機管理課、タウンミーティング課との連携

自己評価： 本年度も松山市総合政策部企画戦略課と連携し、新たに「未来のふる里産業人養成講座」を3回、4名の講師からの講演会を実施することができた。本校卒業生でショートショート作家として活躍されている田丸雅智氏や元日本経済新聞記者で編集委員末村篤氏などより講演をいただき、将来地域に貢献できる人材に必要な知識や考え方を教えていただいた。また、課題研究では昨年度に引き続き松山市総合政策部危機管理課の芝大輔氏を講師としてお招きして防災講座を開設し、松山市が掲げる全世代型防災教育の一翼を担うことができた。さらに、主権者教育の一環として取り組んできた、松山市選挙管理委員会との連携をさらに発展させ、来年度2年生GLコースの課題研究の一つとして新たな講座を開講できるようになった。また、昨年度に引き続きタウンミーティング課と連携し、「まつやままちかど講座」を15講座実施し、生徒の地域理解と課題発見の貴重な機会となっている。来年度で本事業は最終年度となるが、来年度以降もさらに連携を深めていき、本校とともに松山市にとっても魅力のある取組になるように改善していきたい。

(2) 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築

実施内容： 課題研究での愛媛大学・松山大学との連携、企業訪問代替講演や海外FW代替交流での産業界との連携、行政機関との連携

自己評価： 以下のように、今年度も多くの企業、大学の関係者の方々に御協力をいただき、愛媛の力が結集された。愛媛型産官学連携体制が構築されている。

連携先	学年	連携内容	期待される効果
いよぎん（伊予銀行）地域経済研究センター	1年 2年	県内企業の紹介及び助言 市内高校生会議講師	学校では交渉が困難な企業との連携促進、SDGsへの理解向上
三浦工業株式会社 株式会社アテックス	1年 2年	県内及び海外フィールドワーク代替講演、課題研究	県内及び海外フィールドワーク代替講演への協力、関連資料の提供、生徒の県内企業とグローバル化への理解の深化

愛媛大学	1年 2年 3年	課題研究の指導、 海外大学・高校の 紹介	課題研究指導の充実、発表の場の提供 学校では交渉が困難な海外大学・高校と の連携支援
松山大学	1年 2年	課題研究の指導	課題研究指導の充実

(3) 他校との連携

実施内容： 松山市内の高校生と連携する「松山市内高校生交流会」の実施、「中四国高校生会議」の実施

自己評価： 昨年度からSGH部が中心となり、定期的に「松山市内高校生交流会」を実施したが、本年度もコロナ禍の中、オンライン等も利用しながら計8回の会議を実施することができた。参加校、参加人数とも昨年に比べて増加し、主にSDGsのそれぞれの取組に対する勉強会や意見交換・調査などを行った。他校との交流機会の少ない生徒にとって、貴重な交流の場になっているだけでなく、企画運営から生徒が参加している活動になっており、貴重な体験の場になっている。また、各学校での活動について発表したり、世界の問題に対して意見を交換したりすることによって、グローバルリーダーとしての資質を養うことや、共通のテーマについて考えを深めることでお互いを刺激しあい、将来グローバルに活躍できる人材としての資質を高める機会となっており、今後も継続できるように学校間の連携をさらに深めていきたい。

また、過去4回実施してきた「中四国高校生会議」を本年度も実施することができた。コロナ禍で本年度は宿泊なしのオンラインでの2日間の開催となった。残念ながら県外からの参加はなかったが、県内から95名の参加があり、松山市のまちづくり推進課の矢野幸平氏よりの講演や共通のテーマについてのディスカッションやディベートを行い、お互いに刺激を受けることができた有意義な2日間であった。来年度は、実施時期や実施方法をさらに検討し、県内外から多くの生徒が参加できるように改善していきたい。

Ⅲ 次年度以降への課題

第1部に次年度以降の課題及び改善点として掲載

第3部

令和2年度地域との協働による高等学校 教育改革推進事業（グローバル型） 研究開発報告書

第1章 令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業指定時の研究開発構想

I 研究開発構想調書の概要

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 構想調書の概要

指定期間	ふりがな	えひめけんりつまつやまひがしこうとうがっこう				②所在都道府県	愛媛県
2019～2021	①学校名	愛媛県立松山東高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1学年9学級 1,063名	
普通科	360	80	80		520		
⑥研究開発構想名	東高がんばっていきましょい ーグローバルからグローバルへの挑戦ー						
⑦研究開発の概要	ア グローカル・リーダーを育成するための課題研究プログラム開発【グローバル明教】 イ 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】 ウ 学校環境のグローバル化 エ SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成 <育成する人材像> ・地域マネジメント力(課題発見力・企画立案力・協働実践力)を身に付け、郷土の課題の解決に貢献する志を持った人材 ・グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 ○現状分析 松山市及びまつやま圏域は、本格的な人口減少社会の到来と急速な高齢化を迎え、 ・様々な世代の人がつながり支えあう、安全で安心なまちづくり ・誇れるアイデンティティ、良質な生活環境、豊かな自然という宝の継承 ・地域の魅力・活力があふれるまちづくり が課題となっており、地域課題の解決に向けてグローバルな視点の下、持続的発展を担うグローバル人材の育成が求められている。 ○仮説1 「まつやま圏域未来共創ビジョン」が掲げる目指すべき将来像やその実現に向けた具体的な取組、『第6次松山市総合計画』が示す、一人でも多くの人が笑顔で自分たちの住むまちに愛着や誇りを持ち、また、魅力にあふれ、市外の人からも「行ってみたい」「住みたい」と思われるまちづくりのための施策を学び、松山市を中心とした産官学連携の下、その施策を地域課題研究のテーマとすることで、生徒の主体的、対話的で、深い学びを实践することができる。 ○仮説2 5年間のSGH事業における、世界の持続可能な発展に貢献する深い教養、問題解決能力・コミュニケーション能力等の国際的素養を身に付けさせるプログラム開発に加え、地域課題解決を根幹としたグローバル・リーダーを育成する課題研究プログラムを開発する。また、課題研究のための資質・能力を育成するカリキュラム開発、学校環境のグローバル化、松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築に取り組むことにより、これまで愛媛県のリーダーを育成してきた本校として、地域課題の解決と地域の魅力発信に必要な地域マネジメント力を身に付けた、郷土に貢献するグローバル・リーダーを育成することができる。 ○仮説3 本校は前身の松山藩校・明教館設立から190年、愛媛県最初の中等教育機関である旧制松山中学校創設から140年の歴史を持つ伝統校である。本校のネットワークを利用した発信力					

	<p>を發揮することにより、地域と協働した教育改革を力強く推し進めることができる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧-2 具体的内容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>ア 「総合的な探究の時間」での実施計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年次1学期 グローカル明教Ⅰ「グローバルとの出会い」 <ul style="list-style-type: none"> ・常盤同郷会・松山市との協働による、講義及び市内フィールドワーク ・企業・大学との協働による、講義及び県内フィールドワーク ・海外進出企業の巡検及び現地高校や大学との交流を行う海外フィールドワーク ○1年次2・3学期 グローカル明教Ⅱ「グローバル課題の発見」 <ul style="list-style-type: none"> ・松山市・大学との協働による、地域の魅力に関する講義・グループ学習 ・産官学連携による協働の下で行う、生徒の主体的な課題研究 ○2年次通年 グローカル明教Ⅲ「グローバル課題への取組」 <ul style="list-style-type: none"> ・地域マネジメント力の育成のため、産官学連携の下、「安全・安心のまちづくり」「魅力あるまちづくり」のテーマでの課題研究 ・課題研究の内容深化のための海外フィールドワーク ○3年次1・2学期 グローカル明教Ⅳ「グローバル課題の解決と発信」 <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル明教Ⅲから引き継ぐ探究活動及び研究論文の作成、成果の発信 <p>イ コンソーシアムの体制</p> <p>松山市教育委員会生涯学習政策課、松山市総合政策部企画戦略課、愛媛大学社会共創学部、松山大学人文学部、いよぎん地域経済研究センター、えひめ地域づくり研究会議、常盤同郷会、愛媛県社会福祉事業団、愛媛県教育委員会高校教育課、愛媛県立松山東高等学校</p> <p>ウ 実施評価</p> <p>運営指導委員会評価、コンソーシアム評価、ルーブリック評価法を用いた教員・生徒による評価、保護者評価、自己評価</p> <p>エ 教科横断的な取組</p> <p>内容言語統合型学習（East CLIL）による全ての教科での言語活動の充実</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>本事業のカリキュラムの実施は、コンソーシアムによる地域ビジョン・求める人材像の明確化により、地域課題研究委員会によってマネジメントする。地域課題研究委員会には、教頭・学年主任・教務課長・進路課長・図書研修課長・グローバル事業課長・課員及び地域協働学習支援員・海外交流アドバイザーから構成され、課題研究の計画、実施のための連絡・調整・支援、進行状況の確認・点検、評価を行うための計画作成を行う。課題研究チームは、地域課題研究委員会が作成した計画に基づき、地域協働学習実施支援員が中心となり外部との調整及び教職員（教科指導委員会・学年会・教科会）との連携を図りながら、カリキュラムを実施する。また、海外交流チームは、海外交流アドバイザーが中心となり、海外フィールドワークの計画・調整、海外留学の支援、留学生の受け入れ等を、グローバル事業課・英語科と連携しながら実施する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○適用範囲：第1学年全生徒 <ul style="list-style-type: none"> 教科：情報 科目：「情報の科学」 単位数1単位（標準単位数2単位） ○適用範囲：第2学年（年次進行で実施）普通科 グローカルコース <ul style="list-style-type: none"> 教科：保健体育 科目：「保健」 単位数1単位（標準単位数2単位） <p>以上の教育課程の特例を適用することにより、「総合的な探究の時間」（グローバル明教）の単位数をそれぞれの学年2単位で実施する。</p>
<p>⑨その他特記事項</p>	<p>特記事項なし</p>

II 研究開発 取組内容の概要

1 取組内容及び管理・運営方法

(1) グローカル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究プログラム開発【グローバル明教】

ア グローカル明教Ⅰ（総合的な探究の時間）【グローバルとの出会い】

・対象 第1学年全生徒（第1学期）

①（研究領域）アイデンティティとグローバル

（テーマ）明治の松山・松山中学から見たグローバル

<市内フィールドワーク>時期：4月下旬 場所：坂の上の雲ミュージアム・秋山兄弟生誕地等の
松山市内の史跡・本校同窓会資料館・明教館

②（研究領域）アジアと愛媛の企業

（テーマ）愛媛の企業のグローバル化とSDGsへの取組

<県内フィールドワーク>時期：6月中旬 方法：40名～80名で各事業所を訪問

<報告会>時期：7月上旬 方法：各事業所訪問代表者によるプレゼンテーション及び
質疑応答

<海外フィールドワーク>時期：8月上旬 訪問先：台湾、フィリピン、中国

<報告会>時期：8月下旬 場所：子規記念博物館

方法：各訪問代表者によるプレゼンテーション

イ グローカル明教Ⅱ（総合的な探究の時間）【グローバル課題の発見】

・対象 第1学年全生徒（2学期・3学期）

（研究領域）地域及び世界の持続的な発展のために

（テーマ）松山市総合計画及びまつやま圏域未来共創ビジョンから学ぶ地域の魅力と課題

<講義>時期：9月上旬 講師：愛媛大学教授

演題：世界の持続的な発展のための開発目標（SDGs）とは

<講義>時期：9月中旬 講師：松山市総合政策部担当者

演題：松山市総合計画及びまつやま圏域未来共創ビジョンとは

<グループ学習>時期：9月下旬

方法：松山市の「笑顔のまつやままちかど講座」の活用によるグループ学習

<課題研究>時期：10月～3月 実施方法：グループ別探究活動

研究内容：松山市及びまつやま圏域の魅力と課題について

<成果発表会>時期：3月 方法：ポスターセッション

ウ グローカル明教Ⅲ（総合的な探究の時間）【グローバル課題への取組】

・対象 第2学年グローバルコース生徒（80名）（通年）

※生徒は、希望進路に関わらず、グローバルコースを選択することができる。

（研究領域）地域マネジメント力の育成

（テーマ）「安心・安全のまちづくり」「魅力あるまちづくり」

○ より高水準な専門的課題研究を行うためのグローバルコースの設定

○ 高大連携・地域連携による課題研究の深化

<海外フィールドワーク>

時期：8月上旬 訪問先：フィリピン

11月上旬 訪問先：ドイツ

<成果発表会>○中間発表会 時期：12月 方法：ポスターセッション

○研究成果発表会 時期：3月 方法：プレゼンテーション発表及び
シンポジウム

エ グローカル明教Ⅳ（総合的な探究の時間）【グローバル課題の解決と発信】

・対象 第3学年グローバルコース生徒（80名）（第1・2学期）

グローバル明教Ⅲから引き継ぐ協働的探究活動及び研究論文の作成、成果の発信

<成果発表会>時期：9月（文化祭） 方法：プレゼンテーション発表及びシンポジウム
<情報の発信>

○ 「日本地域創生学会」等地方創生に取り組んでいる学会での発表を検討

○ 内閣府地方創生推進室主催「地方創生政策アイデアコンテスト」、愛媛県主催「愛媛グ
ローカル・フロンティア（EGF）アワード」、松山市まちづくり提案制度（次世代育成
支援事業）、愛媛大学社会共創学部主催「社会共創コンテスト」等の地方創生コンテスト
への応募

※ 中間発表会や成果報告会等では、課題研究に関するポスターセッションやプレゼンテーション発表、シン

ポジウムを実施する。議論や発表方法等の検討を通じて、課題研究の深化を図ることが期待できることから、これらの会には、グローバルコースに属さない生徒にも参加させ、成果発表の評価や質疑応答に取り組みさせる。また、活動報告等をまとめた成果物（News Letter 等）を全校生徒に配布するなどにより、グローバルコースでの成果を全校で共有することとする。

- (2) 課題研究のための資質・能力育成カリキュラム開発【坊っちゃんタイム】
 グローバル・リーダーの育成には、グローバルな視点で地域課題の解決に貢献する志はもとより、日本語を母国語としない人々と議論したり、地域課題に関する研究成果について海外に発信したりすることのできる高い英語力を育む必要があるため、次の取組を実践する。
- ア 英語の授業において5年間のSGH事業の成果を生かし、高いレベルのディスカッション力、ディベート力等を身に付けさせる実践的な「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」の授業
- イ 内容言語統合型学習（East CLIL）による全教科での言語活動の充実
- 英語以外の教科を英語で実施
 - 語学力向上と異文化理解の深化
 - 思考力・判断力・表現力・分析力の育成
- (3) 学校環境のグローバル化
- ア SGH部の活用
- イ 海外修学旅行による体験的語学研修促進
- ウ 海外留学及びアジア高校生架け橋プロジェクトを含む海外の留学生受け入れ促進
- エ 県内留学生、海外高校生との交流
- オ 俳句の研究・発信、俳句による海外交流及び中高連携
- カ ICT活用による情報活用能力、情報発信能力の育成
- キ 松山市の姉妹都市（フライブルク市（ドイツ）等）の高校生との交流促進
- (4) SGHで培ったネットワークに松山市を加え、発展させたコンソーシアムの構築
- ア 松山市を中心にした新たな教育資源を開拓
- イ 新たな産官学連携のためのコンソーシアム構築
- ウ 松山市内の高校生と連携し、地域課題を議論する「松山市高校生地方創生会議」の新設
- エ 「中四国SGH高校生会議」を発展させた「中四国高校生地方創生会議」の新設
- オ 他校で実施可能な地域協働による教育プログラムの開発

2 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名
松山市教育委員会生涯学習政策課
松山市総合政策部企画戦略課
愛媛大学社会共創学部
松山大学人文学部
いよぎん地域経済研究センター
えひめ地域づくり研究会議
常盤同郷会
愛媛県社会福祉事業団
愛媛県教育委員会高校教育課
愛媛県立松山東高等学校

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

計画立案段階及び毎年4月に、コンソーシアム代表者会議を開催し、松山市及びまつやま圏域が掲げる将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有を図る。その後、9月、3月に開催するコンソーシアム会議において、本事業が地域ビジョン・求める人材像に合致しているかを検討し、改善を図る。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

地元自治体である松山市との連携の下、5年間のSGHで培ったネットワークを活用し、産官学でコンソーシアムを構築する。

海外進出企業及び地方創生に取り込む企業の紹介・交渉を調査研究組織である「いよぎん地域経済研究センター」に依頼する。また、より広範囲のテーマの課題研究に向けた協働的な地域課題研究のため、えひめ地域づくり研究会議、常盤同郷会、愛媛県社会福祉事業団等に協力を依頼し、研究開発体制を構築する。

管理機関として指導助言及び支援を愛媛県教育委員会高校教育課に、生徒が主体的に地域課題研究を行うために必要な地域が抱える課題及び魅力あるまちづくりに関する視点の育成の支援を松山市に依頼する。「第6次松山市総合計画」「まつやま圏域未来共創ビジョン」等の担当者と協働しその体制を構築する。

SGH事業で培った、高大連携による広範囲・高度な課題研究の体制を維持し、持続的な高大連携につなげる研究体制を愛媛大学と構築する。また、資質・能力向上のために愛媛大学の高大接続科目及び大学主催の特別公開講座の受講も推進する。さらに、地域課題解決の観点から、地域とのつながりの深い松山大学との新たな連携も構築する。

(4) 海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

本校に勤務している海外交流アドバイザーを継続指定（月3～4回×4時間×12月配置）

氏名：村上美智子（海外経験豊富、本校SGH事業における海外交流アドバイザー）

職務・経歴：地域課題研究委員会の委員として、グローバル課題への取組の指導・助言及び外部機関との連絡・調整を行う。同氏は、SGH事業においても海外交流アドバイザーをしており、海外フィールドワークに関する様々な折衝や、県外のSGH校との連携、本校の英語版HP等に関わる重要な業務を遂行した。本事業でも、その経験を生かし、海外交流アドバイザーを依頼し、今後は、各教科・科目や総合的な探究の時間に相当する「グローバル明教」やSGH部による放課後の海外の機関との連携交渉などを担当する。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

管理機関により、地域協働学習実施支援員を指定（月7～8回×4時間×12月配置）

氏名：嶋村美和（元京都大学東南アジア研究所研究員、本校SGH事業における特別非常勤講師）

職務・経歴：地域課題研究委員会の委員として、産官学の外部関連機関との連絡・調整を行う。同氏は、SGH事業において、特別非常勤講師として、専門分野のアジア・アフリカ地域研究をもとにして、「世界から日本を見る」「愛媛の国際化」「フィールドワーク入門」「多様性を考える」などのテーマで、生徒に課題研究の指導をした。同氏が有する知識及び技能は、生徒の学習への興味・関心の高まり、志の醸成に多大な貢献をした。本事業では、地域協働学習実施支援員として、各教科・科目や総合的な探究の時間に相当する「グローバル明教」実施時における外部との調節、探究的な学習活動のファシリテーションに係る業務を担当する。

(6) 運営指導委員会の体制

・学識経験者（2名）	四国地区国立大学連合アドミッションセンター	教授	井上 敏憲
	松山東雲女子大学	教授	佐伯三麻子
・文化（1名）	坊っちゃん劇場	支配人	平野 淳
・国際（1名）	(有)クラパムコモンカンパニー	代表	菅 紀子
・経済（1名）	三浦教育振興財団	監事	寺村 尚起
・学校教育（1名）	松山南高等学校(SSH指定校)	校長	染田 祥孝
・松山市（1名）	総合政策部地方創生戦略推進官		吉田 健二

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

ア 生徒の変容の検証

アンケート調査、観察、レポート、プレゼンテーション作品、成果発表会、討論会、学力調査

イ 教員の変容の検証

アンケート調査、観察

ウ 保護者の変容の検証

アンケート調査、観察

エ 学校の変容の検証

自己点検・自己評価、学校評価委員会による評価

オ 松山市、大学、企業、国際機関との連携に対する検証

アンケート調査

カ 運営指導委員会による評価

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

管理機関：本事業実施に必要な指導・助言、及び予算面、人事配置等本事業の円滑な運営実施における支援

コンソーシアム：事業計画の立案及び実施における協力・助言

地域課題研究のための外部関係機関の紹介・交渉

・5年間のSGHで構築したネットワークに、本事業から地元自治体として松山市が参画・地域課題研究のため松山市が中心となったコンソーシアムを構築

・松山市総合政策部企画戦略課が窓口となり各課との連絡調整を行い、広範囲の地域課題研究を円滑に行うことができるよう協働して支援

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

本事業は、地域課題の解決に貢献する志を持ち、地域を支える人材の育成に貢献する事業であり、事業終了後も継続して探究的な学びである地域課題研究に取り組む。

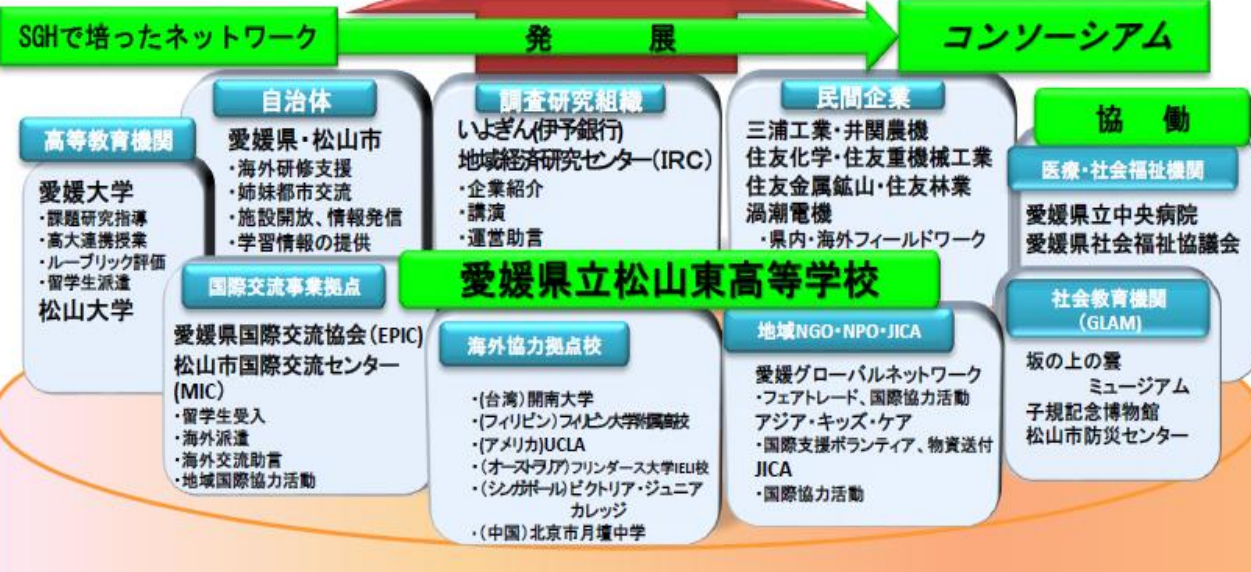
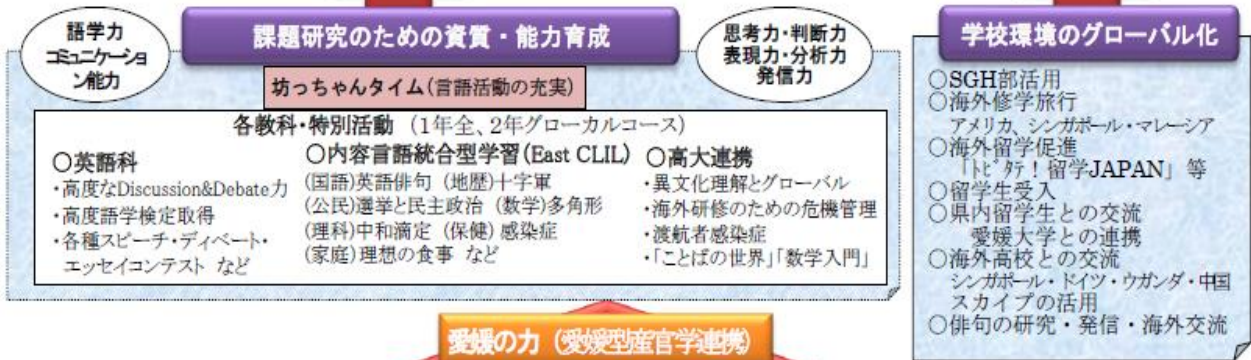
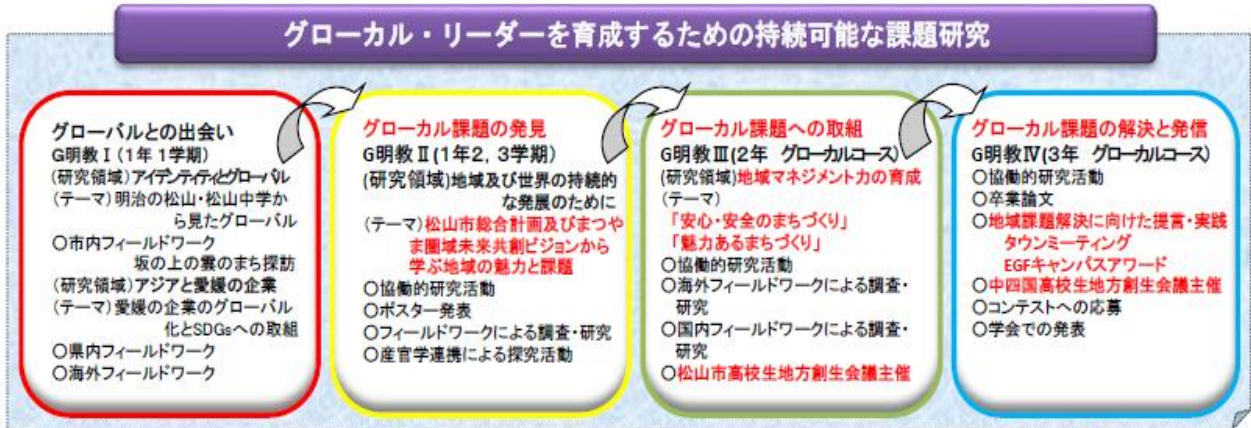
- ・課題研究の課題設定に必要な情報の提供について、松山市主催の「笑顔のまつやままちかど講座」を活用する。
- ・課題研究に係る企業等訪問について、本校の地理的な利便性を生かし、引き続き実施する。
- ・SGH事業で培った高大連携事業の一環として作成したルーブリック評価票を活用し、探究活動を活性化させることにより、生徒の主体的、対話的で深い学びを促進する。
- ・課題研究のための必要な資質・能力育成カリキュラム開発について、5年間のSGH事業及び3年間の本事業の取組を発展させていく。
- ・新設する「松山市高校生地方創生会議」を継続して実施する。
- ・平成27年度にSGH事業の海外フィールドワークを支援することを目的に「松山東高等学校グローバル人材育成振興会」が発足。平成28年度からは、海外フィールドワークを含む、グローバルリーダーを育成する様々な活動を支援することとなった。多くの賛同者からの寄付により、様々な事業に支援を受けた。140年の歴史を有する本校は、産官学に多くの人材を輩出しており、本事業の取組を地域に今まで以上に発信し、より多くの支援を目指す。

(研究開発構想名) **東高がんばっていきましょい**
— グローバルからグローバルへの挑戦 —

輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、
 人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成

育成する人材像

- 地域マネジメント力(課題発見力・企画立案力・協働実践力)を身に付け、郷土の課題の解決に貢献する志をもった人材の育成
- グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材の育成



グローバル・リーダーを育成するための持続可能な課題研究プログラム開発

グローバル明教（G明教）

グローバルとの出会い

G明教 I 1年生1学期 360人 2単位

- ＜アイデンティティとグローバル＞
 - ・本校の歴史(講演)
 - ・秋山兄弟が接した世界(講演)
 - ・松山市内フィールドワーク(坂の上の雲ミュージアム・秋山兄弟生誕地他)
- ＜アジアと愛媛の企業＞
 - ・愛媛の企業のグローバル化とSDGsへの取組について(講演)
 - ・県内企業訪問(三浦工業・井関機械・鴻瀬電機・住友化学・住友重機械・住友林業・住友金属鉱山)
- ◆優秀レポート発表
- ◆県内企業訪問報告会
- ★海外フィールドワーク
 - ・台湾・フィリピンにおける企業拠点訪問及び現地大学・高校との交流、ディスカッション
- ◆海外フィールドワーク報告会
 - ・海外フィールドワーク報告、短期留学参加者発表
 - (松山市立子規記念博物館)

グローバル課題の発見

G明教 II 1年生2,3学期 360人 2単位

- ＜地域及び世界の持続可能な発展のために＞
 - ・松山市総合計画及びまつまやま圏域未来共創ビジョンから学ぶ地域の魅力と課題
 - ・SDGsについて(講演)
 - ・松山市の課題と魅力(講演)
 - ・課題研究事前説明
 - ・「安心・安全のまちづくり」の魅力あるまちづくりを目標に、高大連携・地域連携による協働的研究活動
 - ・国内外学会へのポスター発表
- ★県内・市内フィールドワーク
 - ・産官学による連携
 - ・先進地視察
 - ・調査
- ◆研究成果発表会
 - ・約100枚のポスター発表
 - ・ポスターセッション実施

グローバル課題への取組

G明教 III 2年生 通年
グローバルコース80人 2単位

- ＜地域マネジメント力の育成＞
 - ・高大連携・地域連携による、より高水準な専門的課題研究を行うためのグローバルコースの設置
 - ・「安心・安全のまちづくり」の魅力あるまちづくりを目標に、課題研究のための協働的研究活動
 - ・国内外学会へのポスター発表
 - ・地域での政策提言や実践活動
- ★海外フィールドワーク
 - ・ロサンゼルス修学旅行
 - ・シンガポール・マレーシア修学旅行
 - ・ウガンダでの国際協力活動
 - ・ドイツでの探検学習
- ★国内フィールドワーク
 - ・先進地視察
- ◆研究中間発表会
 - ・ポスター発表(個人)
- ◆研究成果発表会
 - ・シンポジウム開催
 - (I 英語、II 政治・外交、III 地域・経済、IV 環境・開発の4分野)
- 「松山市内高校生地方創生会議」

- ※次世代リーダー育成塾
- ※留学生受入
- ※県内留学生との交流
- ※俳句による海外高校生との交流

- ※語学研修
 - ・オーストラリア語学研修
 - ※トビタテ!留学JAPAN他、各種留学
 - ※えひめ高校生ハワイ派遣事業

グローバル課題の解決と発信

G明教 IV 3年生 1,2学期
グローバルコース80人 1単位

- ＜協働的研究活動および研究論文の作成＞
 - ・G明教 IIIから引き続き大学・地域等と連携した協働的研究活動
 - ・研究成果をまとめた論文の作成(個人・グループ)
- ◆研究論文発表会・研究成果の発信
 - ・文化祭での研究論文発表会
 - ・タウンミーティング、EFGアワードでの政策提言
 - ・国内外学会への研究論文発表
 - ・学校ホームページ上での研究成果の公表
 - ・海外大学進学のためのエッセイ等の作成
- 「中四国高校生地方創生会議」

第3章 令和2年度の実施詳細

I 1年生の取組（本年度対象：360人）

以下のような内容で実施。

	内容	カリキュラム名	回数 etc.	日付・期間	人数
1	各種講演及び ワークショップ	G明教Ⅰ G明教Ⅱ	10回	5/28～11/19	全員
2	海外FW代替交流	G明教Ⅰ	2回		選抜
3	課題研究	G明教Ⅱ	19講座、15回	9/19～3/5	全員
4	E a s t C L I L	坊ちゃんタイム	6授業	通年	全員

1 各種講演及びワークショップ【G明教Ⅰ・G明教Ⅱ】

本年度の1年生が聴講した講演及びワークショップは10講座である。

実施日	講演内容	講師
5月28日 (木)	これからの、よのなかの話をしよう	NPO 法人 NEXT CONNEXION 代表 越智 大貴 氏
6月4日 (木)	地域社会の持続可能な発展に向けてー今、なぜグローバル人材が求められるのかー	愛媛大学社会共創学部 西村 勝志 教授
6月11日 (木)	レベゼン故郷！井の中の蛙 大海をゆく	一般社団法人 いよのミライカイギ 代表理事 富田 敏 氏
6月18日 (木)	世界共通のゴール「SDGs」の達成に向かってー足元から世界とつながる！ー	愛媛大学国際連携機構 小林 修 准教授
6月25日 (木)	いい、加減。まつやま	松山市シティプロモーション推進課 西原 進 氏、宇都宮 あゆ美 氏、大森 俊介 氏
7月2日 (木)	ワークショップ 笑顔まつやま まちかど講座	松山市役所 各担当者
9月3日 (木)	松山から世界へ。世界から松山へ。田丸の場合。	ショートショート作家 田丸 雅智 氏
10月15日 (木)	企業の見方&地域製品のマーケティング	学習院大学経済学部経営学科 上田 隆穂 教授
10月29日 (木)	企業グローバル化の取組と課題 ☆県内企業フィールワーク代替講演	三浦工業株式会社 高津 敦士 氏 株式会社アテックス 西本 大介 氏
11月19日 (木) ★	街場の経済学 ー会社を知って、社会を学ぶー	元日本経済新聞社 特別編集委員 末村 篤 氏
11月19日 (木) ★	5Gなど最先端の情報通信技術(ICT)と情報通信社会の展望ー世界と連携して、どのような新しい社会を構築するかー	損害保険ジャパン株式会社 顧問 阪本 泰男 氏

★は選択

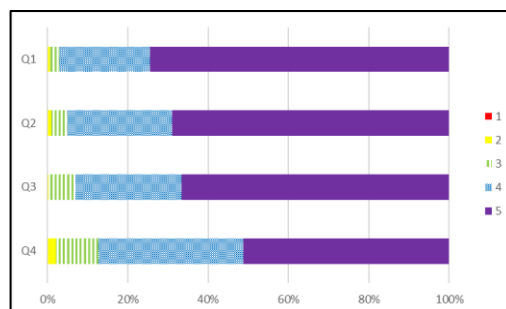
(1) これからの、よのなかの話をしよう（講演者：NPO 法人 NEXT CONNEXION 越智 大貴 代表）

- ①主旨 主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる。
- ②概要 社会や政治には福利の最大化を目指したり、個人の自由を尊重したりする視点があり、様々な意見をぶつけ合いながら学び、より良い方法を選ぶ力を身に付けることが大切である。
- ③生徒評点（低評価1←→5高評価）

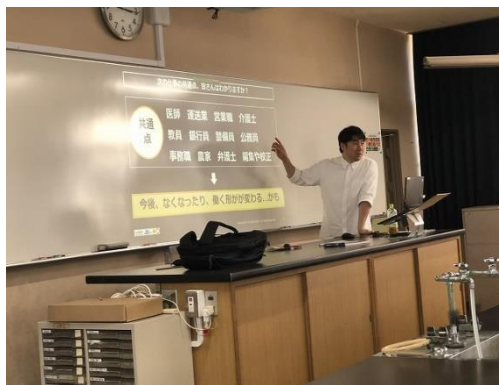
- Q1. 主権者となるうえで大切なことを理解できたか。
- Q2. 政治や社会に対する興味・関心が高まったか。
- Q3. 「挑戦」することの意義を理解することができたか。
- Q4. 「自己肯定感」を高める術を学ぶことができたか。

④生徒感想

- ・様々な情報が飛び交う中で、疑問に感じたことは探究心を持って考え、意見を持つことが大事だと思いました。



- 社会を様々な視点から見て、批判的・創造的思考を身に付けることが大切だと思いました。
- 政治は本当に身近なものだから、選挙権があるなら、それに参加することが当たり前だと思った。時代は常に変化していくので、いろいろなことに積極的に興味を持って、いろいろな意見を交換し合って、自分の新しい考えや発見を持つことが大切だと分かった。
- まずは自分の意見を持つことが必要だと思いました。政治や選挙に限らず、様々な分野に興味を持ち、自分の意見を言っていきたい。そのために、広い目で社会を見て、いろいろなことを知っていきたい。
- 政治は意見を出すことで始まるものであり、その意見は、言ったり聞いたりすることが大切であると聞いて、自分で何か必ず一つ以上意見を持ち、そのことについてできるだけ詳しく説明し、どう考えているか理解してもらおう努力が必要だと思った。
- 他の人の意見を聞き、物事を柔軟に考え、より良い方法とは何かを深く考えたい。
- これからの社会は、これまでの常識が通用しない時代であり、新たな方法を考えてみたい。
- 自分も社会の一員としてこの世界に貢献していく自覚を持ち、政治などいろいろなことに関心を持ち、少しずつでも実践していきたい。
- 政治は意外と若者も参加しやすく、手の届きやすいことが分かった。日本のこと、世界のことをもっと若者が考えていくべきであり、若者には世界を変えていく力があると感じた。
- 謙虚さを忘れずに、自分は「なぜ学ぶのか？」を問い続けることが大切であると知ったので、これから実践していきたい。意見を持ってしっかりと行動に移していくことが大切だと思いました。
- まず一回選挙に行ってみて政治に参加できるようにしたい。また、友達と政治について話し合い、自分ができることがないか探していきたい。
- あと2年で選挙権を持つことになると思うので、それまでにニュースや政治に関わることを見たり聞いたりして何もわからない状態で選挙に行くようなことがないようにしたい。
- シティズンシップを育むために、自分がなぜ学ぶのかということを問い続けていきたいと思った。
- 人によって考えは違うから意見がぶつかるのは当然のことで、それを恐れず議論していこうと思った。
- 自分が社会の一員であるという感覚を身に付ける必要があるという言葉が印象に残った。自分が社会の一員であるという意識を今から高めて、自分のためだけでなく、他の人・社会のことも考えて行動できる人になりたい。
- 人と人、自分と相手では持っている価値観が違うので、お互いに認め合っていくことが大切だ。常識を疑い、常に正しいかどうかを考えて行動していかなければならない。グローバル社会の中で活躍するには、違う意見を持った人々を攻撃したり非難したりするのではなく、違った視点から考えているのかもしれないということを念頭に置き、考えてみなければならない。



(2) 地域社会の持続可能な発展に向けて—今、なぜグローバル人材が求められるのか—

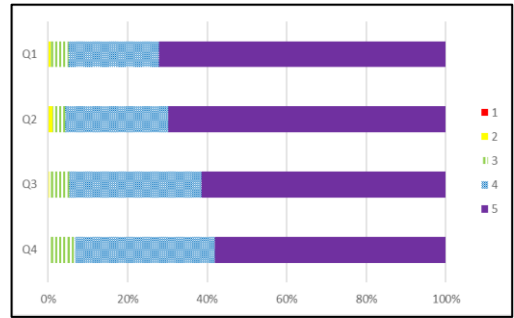
(講演者：愛媛大学社会共創学部 西村 勝志 教授)

- ①主旨 地域と世界の持続的な発展のために必要なグローバルな視点とは何かについて理解を深めるとともに、地域や世界の課題の解決に向けて取り組む意義について学ぶ。
- ②内容 持続可能な社会の実現を目指して研究及び実践を行っている愛媛大学社会共創学部の教授から、「グローバルとは」「地域の現状と求められる人材とは」「地域は、どこへ向かうべきか」について詳しく説明していただいた。地域が活性化するためには、他の地域や国とつながることが必要であり、グローバル人材が重要な役割を果たすこと、地元松山を大好きになるとともに、愛媛県のみならず他の地域や他の国のこと、さらには世界に興味・関心を持つことが大切であると教えていただいた。
- ③生徒評点 (低評価 1 ←→ 5 高評価)
 - Q1. グローバルについて理解は深まったか。

- Q 2. グローカル人材について理解は深まったか。
- Q 3. 愛媛県の現状について理解は深まったか。
- Q 4. 愛媛県の諸課題について理解は深まったか。

④生徒感想

- ・地域と世界をつなげて考え、地域の人々と協働できるグローバルな人材が必要であることが分かりました。
- ・問題解決のために、様々な課題を設定し、効率的に克服できるようになる課題解決思考力と、問題解決に向けた仲間との協働力を有するサーバント・リーダーシップを身に付けたいです。
- ・今まであまり地域について考えたことがなかったので、この講演で多くのことを学びました。新型コロナウイルスで混乱している今だからこそ、協力・連携・協働をしていきたい。
- ・地域社会の持続可能な発展に貢献できるよう、まずは社会の現状を自分から進んで興味を持ち、把握すること、そして課題設定することに挑戦し、地域社会に貢献できるグローバルな人材になれるように頑張りたい。
- ・世界というと大き過ぎてよく分からないが、地域という狭い範囲に絞ることで課題が身近に感じられ、地域のために行動しようとする意欲が湧いてきた。
- ・少子高齢化が進む中で、私たちはグローバル意識を持って、地域のリーダーになっていかないといけないと感じた。
- ・地域は単独では発展できないということが分かった。他地域とのつながりや国とのつながりが不可欠だと思った。
- ・これからは今までと変わって、グローバルな能力が求められることが分かった。国や社会に貢献するためには、まず地域のことから考え、地域のためになる行動をとることが大切だと思った。そのたびに、日ごろから地域の人とのコミュニケーションを大切にしたり、幅広い専門知識を持っておいたりすることで連携・協働をすべきだと思う。持続可能な社会づくりに向けて、まずは自分にできることを見付け、行動することで、その態度が地域や社会を動かす力につながるのではないかと思った。
- ・私の育った東予でもイノベーション不足などが問題であると知った。今できることは少ないかもしれないが、論理的思考や創造的思考、コミュニケーション能力などを身に付けておけば、将来必ず、地域の役に立つ人材になれると思う。
- ・多面的な視野を持って地域に目を向けていく、そういう意識が大切だとわかった。愛媛でも東予・中予・南予とそれぞれ違う課題があると思うので、調べてみたい。日本や地域の実情を知ることから始めていきたい。
- ・世界には現在、数えきれないほど様々な問題がある。身近にもとてもたくさん問題がある。それを解決するため、課題をよく考えて設定し、チームで行動しなければならないと感じた。県や市の問題の解決は、今は難しいので、まずは個人や家族、地区の問題を解決することから始めようと思う。学校では問題解決をする場面がすごく頻繁にあるので、今のうちに問題解決の練習をしっかりとっておこうと思った。
- ・自分の地域に対して、あまり関心が持てていなかったことに今日の講演で気付かされた。自分の地域は疲弊した地域で、経済活動の継続が困難になっている。今日の人口減少が、さらに若者の都会への人口流出を加速させている。多面的にこの課題を見つめなおし、地元の人間としての誇りやアイデンティティを確立することで地域を立て直したいと思う。



(3) レペゼン故郷！井の中の蛙 大海をゆく

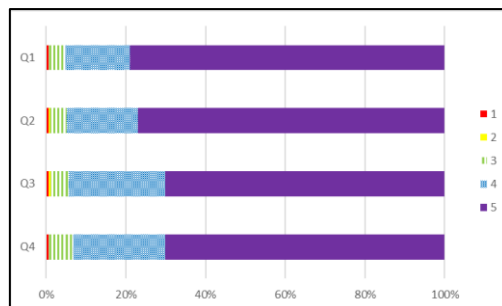
(講演者：一般社団法人 いよのミライカイギ 代表理事 富田 敏 氏)

- ①主旨 人口減少時代において、地域の活性化は急務とされており、各地域で様々な取組が行われている。地域への移住促進や町おこしを実践されている方より、その取組と課題を聞き、地方創生において主体的に行動するために必要なことを考えさせる。
- ②内容 伊予市双海町で取り組んできた地域おこしの取組やこれからの取組について、分かりやすく説明していただいた。田舎であることによる「できない」ことを嘆くのではなく、田舎であることによ

る「できる」こと、可能性を追い求めることが大切であることや、継続して事業を行うためには「予算ゼロから考える 人手をかけない 無理をしない」ことや、情報の発信や地域間で連携を図ることの重要性などを教えていただきました。

③生徒評点（低評価1 ←→ 5高評価）

- Q 1. 地域活性化について理解は深まったか。
- Q 2. 地域活性化について興味・関心が高まったか。
- Q 3. 地域おこし協力隊について理解は深まったか。
- Q 4. 地域の魅力について考えることができたか。



④生徒感想

- ・将来は都会に住んでみたいと考えていましたが、田舎にもたくさん良いところがあることに気がきました。田舎の良さを見つけるのも私たちの使命なのではと思いました。田舎には無限の可能性があり、見付けられていない新たな多くの魅力を私たちが見付け、地域おこしに協力していきたい。
- ・故郷を大切に、活性化させていくために、今自分がやりたいと思ったことをまずは実践していきたい。大学生でも地域活性化に貢献できることを知り、まずは自分も地域のことをよく知り、積極的に動いていきたいと思った。
- ・マイナスをプラスに変えるために、可能性をポジティブに考えることが必要であり、それを実践されている講師の先生方は素晴らしいと思った。
- ・今まで都会にすごく憧れている部分があって、あまり田舎に良いイメージがありませんでした。しかし、今回の講演で、松山の可能性について知りたかったです。講師の先生方のアクティブな姿勢に積極性のない私も、行動しよう、やってみようと思う気持ちを大切にしていきたいと思いました。
- ・人口減少や過疎の問題への取組や活動を聞いて、自分も自分の故郷を盛り上げる活動に積極的に参加してみようと思いました。私も、田舎の自然や景色が美しいところや、人とのつながりが感じられるところが好きなので、その良さがたくさんの人に伝わってほしいと思いました。
- ・「田舎嘆きの十か条」を見たときすごく共感しました。住んでいて嫌な部分ばかりが目につけていたけど、講演を聞いて「田舎の可能性」をととても感じました。早く都会に出たいとずっと思っていたけれど、この故郷で、故郷をより良くするために何かできることがあるのではないかと感じました。
- ・自分たちの故郷だから、自分たちの手で作りあげてより活性化していく。そういう思いを持ってこれから生活したり、自分のできることについて調べたりしようと思います。
- ・大学生である上田さんの自分のしたいことをしっかりと考え、早くから行動されている姿がとても印象的でした。私はしたいことが漠然としか決まっておらず、人のため、地域のための考えをしっかりと持ち、よく考えて行動に移せるようになりたいと思った。
- ・大好きな地元愛媛を守り、もっと豊かにするためにイベントに積極的に参加したり、町おこしのボランティアに取り組んだりしていきたい。
- ・TTPという考え方はとても大切だと思いました。何か新しいことをしようとすると難しく、諦めてしまうことが多いが、他の地域でしていることを真似ることは、その地域では必ず新たな取り組みとなるので有効だと思いました。そして、その真似たことをまた周囲に広げていくことで、様々な地域の活性化につなげていくことができることが分かった。
- ・自分が住んでいる愛媛県にも、過疎化による限界を迎えている地域があるということを実感した。特に「田舎の嘆き十か条」や、双海町では、高齢者の割合が約半数を占めていたり、子どもの割合が約 6.8%であったりすることなど、具体的な数字を知って驚いた。
- ・今までは東京や大阪などの都会に行きたいなと思っていましたが、今日の講演を聞いて、地元に残るのも良いかもしれないと考えた。愛媛の田舎では人口も少なく、来客数も減ってきているので、そういう地域を活性化させたいと思った。都会の最先端の技術もすごいと思うが、田舎の美しい自然も素晴らしいと思うので、その点を強調して地域を活性化できたらよいと思った。
- ・町おこし、村おこし、地域づくりを行っている人が、地元の人ばかりでなく、横浜など都会から来ている



人がいることを知って驚いた。

- 地域のためになるような活動を実際に行うのは大変だが、とても誇れる仕事の一つだと思うと、自分たちの力で地域をより良くしていけることに、とてもやりがいを感じる仕事だと思います。当たり前のように地域で生活していますが、その陰には様々な人々の努力があるということをしり、何かできることがあれば積極的にチャレンジしていきたいと思った。
- 講演の中で、「いくら本で調べても頭でいろいろなことを考えても机上の空論にしかならず結局何をしたらいいのかわからなかった」ということを聞き、このことは町おこしだけでなく、様々な将来の夢の実現についても共通して言えることだと思った。自分の将来についてもパソコンや本で調べるだけでなく、自分から話を聞きに行く、職業体験をしてみるなど様々な活動で自分の将来の可能性を広げていきたい。
- 私の地元の砥部町も日に日にさびれていっている状況を感じている。この状況を変えるには、町民だけでなくほかの人も巻き込んで地域を活性化しなければならないと改めて思った。失敗が怖くて初めの一歩が踏み出せない、このような状況においては「どんどん失敗していい」という言葉を胸に、失敗してもそれを生かして次につなげられるようにしたいと思った。

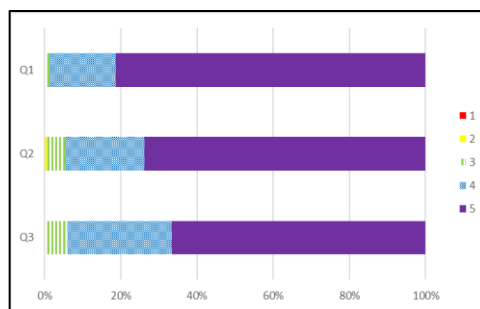
(4) 世界共通のゴール「SDG s」の達成に向かって～足元から世界とつながる！～

(講演者：愛媛大学国際連携機構 小林 修 准教授)

- ①主旨 グローカルリーダーを育成するために必要なグローバルな視点を養うために、世界の持続的な発展のための開発目標 (SDG s) について学ぶ。
- ②内容 持続可能な開発目標 (「SDG s」) について説明をしていただいた後に現在、達成度の高い国や低い国について考察を行いました。また、2030年までに日本が達成することが難しい以下の四つの分野についてもお話していただきました。

③生徒評点 (低評価 1 ←→ 5 高評価)

- Q1. 持続可能な開発目標について理解は深まったか。
- Q2. 地域から世界に繋がることについて理解は深まったか
- Q3. 今後求められる人材について理解は深まったか。



④生徒感想

- 自分が思っているより SDG s が身近なものであるということに気がきました。SDG s をすべてクリアできている国はどこにもなく、それをいかにクリアしていくのかに対して、すべての人が真っ正面から向かい合い行動していかなければならないのだと思いました。
- 世界はたくさん問題を抱えていて、そのほとんどが人間の引き起こしたものであることを残念に思いました。環境の保全と経済の発展は同時に成立することはできないと思っていたけれど、私たちの行動次第でどうにかできることが分かりました。だから、私は正しい買い物を行い、正しい経済をまわしていこうと思いました。
- 地球には本当にたくさんの切実な問題があって、それらは私たちがしっかり向き合っていかなければならない問題だと思いました。
- 日本は比較的豊かで、私もある程度自由にお金を使っているが、正しいお金の使い方をするのは大切であり、特に 100 円ショップが何故安く買えるのかについて知ることができ、解決しないといけない問題なのだと分かりました。
- 「つながりを生かした行動」という言葉が心に残りました。遠くで起こっているような問題にも、私たちは少なからず関わっているし、今ある「新型コロナウイルス」の感染流行も、人間の行き過ぎた行動が原因だと思います。これからも地球の美しさをできる限り残していくためには、一人一人のつながりを生かした行動が大切になってくるのだと学びました。
- SDG s の存在については知っていたが、自分たちにはできることはないと思っていました。しかし、今回の講演で自分たちにもできることがたくさんあることを知り、それを実行に移していかなければならないと思いました。



- ・環境についてしっかり考えられる大人になりたい。自分が好き勝手することは、他の国や地域の資源を無駄にしたり環境を悪くしたり、良くない影響を与えていることが改めて分かった。
- ・ジェンダー平等について、女性が就職などで不利な扱いを受けることが今でも多くあることに驚きました。
- ・今回の新型コロナウイルスによる世界の経済活動の縮小によって、有害物質が大幅に減少したことから、今後の人類の努力によっては、地球環境を改善できる余地がまだまだあるように感じた。今後は、どのような行動や取組が効率よく有害物質を減らせるのかということについて調べてみたい。
- ・平等と公正と現実を、野球を観戦する人にとれた分かりやすい絵を見て、何でも平等が良いわけではないことが分かった。
- ・今まで世界の現状や課題などを学んできましたが、正直スケールが広すぎてよくわかっていませんでした。小林先生は私達でもできることを教えてくださいました。だから私も小林先生がおっしゃったように、近くで生産されているものを買うようにしたいと思います。
- ・私は100円ショップが大好きでよく買い物もしている。でもなぜあんなに安く売られているのか、考えたこともなかった。とても安い給料で働かされている人がいることを考えると、100円均一で買い物をするのが少し申し訳ないと思った。これからは世界共通のゴールSDGsの達成に向けて、正しい買い物を心がけたいと思った。

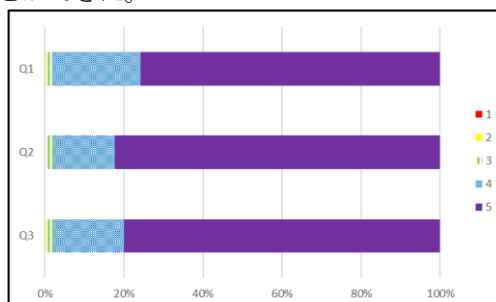
(5) いい、加減。まつやま

(講演者：松山市松山市シティプロモーション推進課 西原 進 氏、宇都宮 あゆ美 氏
松山市まちづくり推進課 大森 俊介 氏)

- ①主旨 松山市職員から、地方自治体の持つ課題や未来を知り、日本、愛媛、本校の歴史、伝統、魅力について探究させ、日本人・愛媛県人としてのアイデンティティの確立を図る。
- ②概要 「松山市の人口の将来予想」について考察を行った。そのうえで松山市が100年後生き続けるために今現在行っている政策、また今後必要となってくる政策について説明していただいた。政策を行っていく上で「松山市がどんな都市であるか」理解することが大切であり、講演の後半は、具体的な事例を挙げていただくことでその理解を深めることができた。

③生徒評点 (低評価1 ←→ 5 高評価)

- Q1. 松山市の課題について理解は深まったか。
Q2. 松山市の魅力について理解は深まったか。
Q3. 松山市のまちづくりについて理解は深まったか。



④生徒感想

- ・松山の良さを改めて知ることができました。松山で生活していたら当たり前を感じていることも、他の町と比較すると当たり前でないことが分かりました。松山が大好きなので、これからもこの町を大切にしていきたい。
- ・松山がどれくらい住みやすいかを実感しました。大学は県外に進学したいが、就職は松山でしたいと思いました。
- ・松山の魅力や課題を知り、自分が松山のために何ができるかを考えようと思いました。
- ・全国に誇れる素敵な町「松山」の認知度を上げたいという思いは、市民共通だと思うので、一市民として私たちも、現在行われている取組などを知っておくべきだと思いました。
- ・自分の故郷である伊予市でどのような取組がなされているのかを調べてみたい。
- ・100年後に松山市の人口がどのくらい減少するのかを知り、人口減少の問題の現実味が増しました。
- ・「坂の上の雲」を生かした町づくりがなされていることを初めて知りました。身近なところにどんな「坂の上の雲」が関連しているところがあるのかを調べてみたいと思いました。
- ・県外の大学に進学しようと考えているが、松山の良さをたくさんの人に伝えられるように、これから調べていきたい。
- ・都会には確かに憧れがあるけれど、私たちが気付いていないだけで、愛媛には都会に負けない魅力がたくさんあるのだと思いました。



- ・松山市の人口減少を防ぐためには、自治体や企業だけでなく、市民の頑張りも必要であることが分かった。松山市をPRするためには、自分たちが松山の良さを知り、愛着を抱いて誇りを持つことが大切だと思った。私は松山市のフィールドミュージアム構想を知らなかったのので、実際に赴いて、どんな活動が行われているのか知りたいと思った。松山市への移住・定住を促進させるための相談窓口の設置や移住フェアについても知らなかった。移住してくる人たちが松山市や愛媛県の何に魅力を感じたのか、詳しく知りたいと思った。
- ・松山市の人口が100年後、16万人になるという話を聞いてとても驚いた。自分が育った街に人がいなくなるというのは悲しいことだと改めて思った。人口減少を止めるためにも、まずは自分が松山の魅力について知って周りの人に伝えられるようになりたい。まずは、松山に住む人が松山の魅力に気付き、より松山を好きになる必要があると思う。また市外・県外の人に松山の魅力について知らせ、松山に住みたいと思ってくれる人を増やすことが大切だと思う。
- ・私は松山に住んでいないので、松山市で行われている地域活性化計画や広報誌のことを全然知らず、講演を聞いて興味を持った。自分でも様々なことを調べてみたいと思った。通学してみると、市内電車の便が多く助かっている。またこぢんまりとした雰囲気もあり、とても過ごしやすいと実感している。講演を聞いて、「松山っていいところだな」と改めて思った。



(6) ワークショップ「笑顔のまつやま まちかど講座」

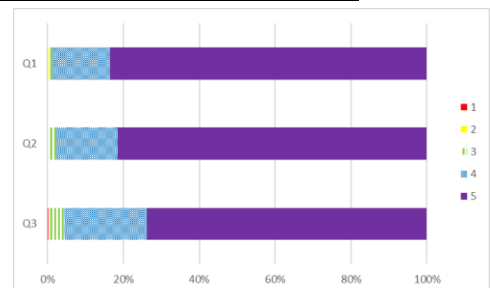
①主旨 地域の魅力や課題について「笑顔のまつやま まちかど講座」を活用し、松山市の担当者から直接話を聞き、興味・関心を高めるとともに、2学期から始まる課題研究のテーマについて考えさせる。

②内容 以下の15講座に分かれて講義及び質疑応答を行った。

講座名	担当部署
① どうなる？公共施設の今後	管財課
② 松山がなくなる？ ～人口減少に歯止めをかけるために～	企画戦略課
③ 松山市の観光～松山城・道後温泉の取組～	観光・国際交流課
④ みんなで支えあう地域福祉について	保健福祉政策課
⑤ くすりと健康	医事薬事課
⑥ 松山市の子ども・子育て支援	子育て支援課
⑦ スマートシティの推進～温暖化を防ぐためにできること～	環境モデル都市推進課
⑧ 家庭でできる食品ロス削減のススメ	環境モデル都市推進課
⑨ 松山市が目指すまちづくり	企画戦略課
⑩ 美しい景観まちづくり	都市デザイン課
⑪ 災害への備え	防災・危機管理課
⑫ 空き家への対策について	住宅課
⑬ ことばを大切にすまち松山	文化・ことば課
⑭ 松山再発見 - 意外と知らない松山の歴史と文化財	文化財課
⑮ 選挙豆知識	松山市選挙管理委員会

③生徒評点（低評価1 ←→ 5 高評価）

- Q1. 市政の取り組みについて理解することができたか。
- Q2. 松山市の魅力や課題について理解は深まったか。
- Q3. 受講を通して自己との接点を見つけることができたか。



④生徒感想

- ・松山にはたくさんの文化財があることに驚いた。特に国宝が三つもあることに驚きました。時間があるときに訪れてみたいと思った。
- ・松山市での景観について学ぶことができ、道後温泉周辺の景観の違いを見付けることができた。その場所の景観や街並みを崩さないように大きな看板や派手な色を控えて、空間が整備されていることを知りまし

た。また、景観形成基準があり、地区内での特性や周辺の自然と調和した色彩としていることを知りました。花園通の景観街づくりの効果では、歩行者通行量が2倍にもなっていました。

- 食品ロスについて学んだ。今、松山市がどのような取り組みをしているのかを教えてくださいただでなく、食品ロスを家庭でなくす方法についても教わった。また、今のコロナの影響でプラごみが増えてきたことは初耳であった。かなり興味深い話が聞けたと思う。また環境と何らかの事業を関係づけて考えることもできた。他人事ではなく、将来を担う存在として、また自分に関係のあることとして考えることができたと思う。これからずっと松山、愛媛に残るわけでもないのだが、それでもこれほどこの都市に行っても無駄にはならない話であったので、とてもいい学習ができたと思う。
- 愛媛は全国的に見て、空き家が特に多いことが分かった。また空き家の定義というもの「常用で住んだり使用されたりしていないものだ」ということも分かった。そう考えると、私の家の周囲にも空き家は多い。ただ、空き家が増えるということは、治安の悪化に直結しているのではないかと思った。
- 日ごろ気になっているが知らなかったことをたくさん知れてよかった。災害についての講座では、南海トラフの地震、愛媛県について詳しく学びました。自分の身を守るための情報を手に入れられました。生き埋め状態になる人が 35,000 人、近隣住民が助ける割合は 80%、そのうち生きていた人 80%、私たちが力を合わせると多くの人を助けることができることに驚きました。高齢者の視点からは高校生は頼れる人、心強い人ととらえられています。日ごろの訓練がいかに大切か、実感させられるものでした。自助を徹底していきたいです。
- 松山の観光客が7年連続で増加していると聞いて驚きました。松山城では松山城の歴史的な魅力もアピールしつつ、新たな魅力（甲冑の試着体験など）を発信することで外国人観光客の増加や松山城のファンやリピーターの確保などをしていました。道後温泉では現在のところ本館は修理中ですが、それでも観光客を増やすために、道後REBORNプロジェクトで火の鳥とコラボしたり、飛鳥乃湯という温泉を建てたりして、修理中でも観光業ができるように工夫されていました。
- 家庭科のホームプロジェクトでやろうと考えていたのが、食品ロス関係だったので最適な講座だった。家に帰ってから早速冷蔵庫の中の食品の賞味/消費期限を調べてみたが、奥のほうに収納しているもののほとんどが期限切れだった。いただいたマグネット型の食ロスステープを食品ロス防止に有効に使い、家庭科の課題に取り組みたいと思った。
- 愛媛県は全国で7番目に空き家が多く、年々その棟数が増加し続けていると聞いて、とても驚いた。普段の生活で空き家について意識することはなかったが、よく考えてみると、管理されず雑草や木が生い茂っている空き家があって、意外にも身近に空き家があるものだと感じた。
- 今までに小中学校などで災害の被害を防ぐために非常持ち出し袋の備えや家具の固定などについて何度も言われてきたが「市民意識調査」などで備えが十分にできていない人が多いのはとても意外な結果だと思った。小中学校では地域の危険な場所や避難場所を確認してきたが、松山東高校に入ってから高校周辺の防災情報を気にかけていなかったのも、ハザードマップなどで再度確認したいと思った。
- 松山市ではスマートシティという構想があることを初めて知った。ここ100年間の間に松山の気温は2.2度も上昇していて、今も上昇傾向にある。そのため自然災害が多くあり、またそのようなことがないようにするため、どのようにして二酸化炭素などの削減量を減らすか、考えていきたい。
- 第6次松山市総合計画があることを初めて知った。これらの計画を達成できれば、よりよい松山が形成されると思う。またいろいろなランキングで松山市が上位に入っていて自分が知らない松山市が全国に誇れるものがたくさんあって、それらを知ることができるいい機会になった。
- 松山市と「ことば」のかかわりについてよくわかった。私たちは普段から松山のことばに囲まれているのであまり意識していなかったけれど、松山は多くの温かいことばであふれている。ことばは私たちの心を豊かにしてくれると思う。これからは松山にあふれる言葉を意識して味わって生活していきたい。
- 待機児童の話に興味を持った。子供の人口は減少してきているのに、待機児童が増え続けていることに驚いた。しかし松山市では私が思っていた以上の取り組みが行われてきていて、とても力が入っていると感



じた。私がこの講座を通じて思ったことは、保育士を目指す人向けのイベントがもっとあれば、保育士を目指す人ももっと増えるのではないかということだ。

- ・医療系の話にはもともと興味があったので、とても面白かった。風邪の時などに使うので薬のことは知っているつもりだったが、副作用のことやほかの人と共有できないことなど、新しいことがたくさん学べてよかったです。私は今、かかりつけ医が決まっていないので、お話の中にあつたように、かかりつけ医を探したいです。

(7) ★未来のふる里産業人養成講座（松山市連携事業）

松山から世界へ。世界から松山へ。田丸の場合。（講演者：ショートショート作家 田丸 雅智 氏）

- ①主旨 グローバル化や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、どの世界に出ても活躍できる社会人、産業人を目指して、時代に対応した新たなキーパーソンとなり得る人材の育成を図る。
- ②内容 小説、松山、学業、世界という四つの視点からお話をいただきましたが、学業については先生が東高生だった時、ひたすら勉強したにもかかわらずむしろ成績が下がった時期もあり、宿題も手につかないほど落ち込んだことがあったというお話がありました。そのような中、「自分に足りないものはなにか」と考え、「どうすれば克服できるか」と考え、「ひたすら実行」し、「結果はどうか」と振り返るといふサイクルを信じ、悩みながらもひたすらやりぬくことで成績を伸ばしたというエピソードをお聞きしました。「学んだことは役に立つ、役に立たせる、生かすも殺すも自分次第」という言葉では、生徒たちは何度も力強くうなずきながら先生の言葉を胸に刻んでいるようでした。松山は風土も人も心も穏やかであり、言葉に彩られた街、と先生は感じられるそうです。ことばと文学の町松山で勉学に励めることを誇りに思い、田丸先生のように私たちもしっかり頑張っていこうと改めて胸に刻んだ講演でした。

③生徒感想

- ・学校から帰ってからのルーティーンを聞いて、勉強時間の確保の仕方に驚いた。一度仮眠を取ってから、もう一度勉強のスイッチを入れることができることに驚いた。今の自分の目標は「テストでいい点を取る」「大学入試」だけなので、その先、自分が何をしたいのか見付けたい。情熱と実行を大切に、見つけた夢に向かって努力をしたい。自分も、どうすれば成功につなげられるか、失敗を繰り返すかもしれないが失敗からも学べることを考えて、自分なりの考えを確立させていきたい。
- ・講演を聞いてショートショートがどういうものなのか、どのようにして創作するのかということを知ることができた。思っていたより簡単に創作できることだということが分かり、気軽に挑戦してみたいと感じることができた。
- ・テストで100位を取り、次のテストで努力しても順位が落ちたといっていてとても驚いた。しかしそこから考えて悩み、毎日努力を惜しまず繰り返して最終的には1位を取ったといわれていた。私もこれから考えて自分にあった方法をひたすら繰り返し、学力向上のために努めようと思った。
- ・学んだことは役に立つかという疑問については、田丸さんはすべて役に立つと考えることが重要だと言っていた。学んだことは無意味だと思うのは、過去の自分がしてきたことを否定的にとらえることになってしまうと思う。だから今まで自分がしてきたこと、学んだことに意味を持たせるためにも私は学んだことは役に立つと考えるようにしようと思った。
- ・田丸さんのお話を聞いて、勉強に対する価値観が変わった。大学受験のためだけにテスト勉強をするのではなく、人生の基礎ととらえて、これから一生役に立つものであると考えられるようになった。今、学んだことはこれからの人生でいつかは使えると考え、焦らず一つ一つ丁寧に勉強したい。また自分で考える力や自分で実行する力を身に付けて、人に頼りすぎている今を抜け出し、将来は一人で生きていけるようになりたい。
- ・人生の基礎は勉強から学ぶことができるという言葉がすごく印象的で、勉強すること自体にはあまり意味はないけれども、やっていく中で自分で見付けた「考えて、ひたすらやって、結果はどうか、足りないものを見付けてまたやる」というサイクルやプロセスが、将来、仕事やそのほかのことをやるときに



いかせるので、勉強することで、それらを見付けて実行することができるようにしたいと思った。

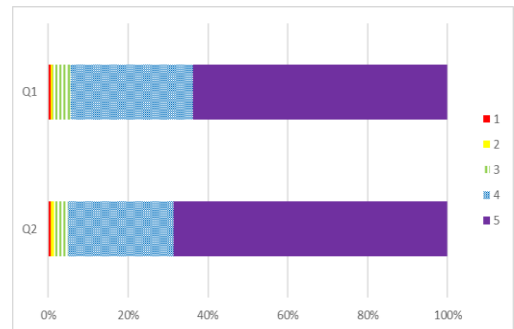
- 目標を達成することを目的にしてはいけなくて、その先の最終的なゴールに向けての通過点でしかないということだ。目標を達成するというをゴールにしてしまうと、やはり燃え尽きてしまってやる気が起こらないということが生じてしまう。やはり目標はゴールではなく通過点にすることが大切だと思った。
- 今回の田丸先生の話聞いて、特に印象に残ったのは、「学んだことは役に立つ」ではなく、「学んだことを役に立たせる」という表現のほうが正しく、単に学ぶだけでなく、それをどう活かしていくかが大切だとわかりました。今回の講演で学んだことを実生活で活かしていきたいと思う。

(8) 企業の見方&地域製品のマーケティング (講演者：学習院大学経済学部経営学科 上田 隆徳教授)

- ①主旨 愛媛の企業がグローバル化を進めるための課題とその克服方法について研究するために、グローバル化や企業に関する基礎的な知識や研究の手法について学ぶ。
- ②内容 講演の前半では、企業を研究するために必要となる経済学と経営学についての基礎的な知識を教示していただいた。また、先生がご専門とされているマーケティングについても具体的な商品を例に挙げながら簡潔に説明していただいた。マーケティングにおいては、「3C分析-Customer-Competition-Company」が有効であり、地域創生においても経営学の手法を用いることが有効であることを学びました。後半は、先生が実際に関わりを持たれた「屋久島」「能登半島」「海士町」を例に地域活性化についてお話していただいた。「地域ブランド要素の発見」や「地域と企業の連携」、さらに「Only 1であることの重要性」について具体的なお話をしていただき、グローバル事業を取り組んでいく我々にとって大変有意義な時間となった。

③生徒評点 (低評価1 ←→ 5 高評価)

- Q1. 企業の見方について理解は深まったか。
- Q2. 地域活性化について理解は深まったか。



④生徒感想

- 竹島水族館についての話が、一番印象に残っている。閉館間近だった水族館が活気を取り戻していくのは珍しく、印象に残った。様々な工夫をして持続可能性の高い水族館にいくことはとても難しかったと思う。このような変化を可能にするには、なによりも地域住民の協力が不可欠だったと思う。これからマーケティングについて調べ、本質的なニーズを探っていきたいと考える。
- 企業を研究するための視点として、ある商品を売るときにそのものの本質を考え、その本質から「本質的なニーズ」を作り出すことが大切だと言っていたのがとても印象に残っている。これは企業を研究するための視点ではなく、いろいろなことに生かせる考え方だと思う。勉強などでただ普通に覚えるだけではすぐに忘れてしまう。そのものの本質を知ることができれば、すぐには忘れないだろうと思う。また、地域活性化についての考え方でナンバーワンかオンリーワンになる必要がある、ということを知った。確かに言われてみると、日本で一番高い山は知っているが、二番目に高い山の名前は知らない。自分自身もナンバーワンかオンリーワンの存在になりたい。
- この講演を聞くまで、僕は地域活性化にあまり興味はなかった。またマーケティングという言葉さえも知らなかった。しかし、講師の先生の話聞くにつれて、地域を活性化するのに必要な手段や技術、また精神を知ることができ、興味もわいてきた。特に、竹島水族館の財政の立て直しの話は特におもしろく、集中して聞くことができた。自分が住んでいる北条地域は、衰退が進行している過疎地域である。マーケティングや差別化、今回学んだことを生かして自分に何ができるか、今一度考えてみたいと思う。
- 企業が事業を成功させるため、立て直すためにはマーケティングが必要になってくると思いました。その中でも特に物事の本質を知ることが最も大切であると感じた。ユーザーが求めていること、考えていることというのは簡単にわかるものではないと思う。だからこそ、相手のことやユーザーのことをよく観察して、相手の求めるものの本質を見極めることが必要になってくると思う。
- ナンバーワンではなく、オンリーワンになることが必要ということにすごく納得した。ナンバーワンのほうが一見よく見えるし目指すべきところだと思う。しかしお客に注目されて、実際に売れるのはオンリーワンのほうで、常識破りであることが必要だと分かった。
- 講演を聞いて、売れるとは何かという問題の答えが、商品の本質をしっかりとアピールしていて、かつ消費



者が欲しいと思うような答えで素晴らしいと思った。私はG明教の時間に地域に根付いているスポーツとしてビーチボールについて調べている。今回の講演で経営学の視点についてもお話をお伺いすることができたので、これからの研究でも、今日学んだことを生かしていきたい。高校生になり、地元で過ごす時間が少なくなったけれども、違う場所で生活することで地元の良さを深く感じることもできたので、地域活性化の活動に積極的に参加したいと思う。

- 地域を売り込むための工夫や、心得などを、経営学の視点から具体的に教えていただけて、とてもためになった。今まで「地域を売り込んでいこう」という話で止まっていたので、その売り込み方を聞けたおかげでより詳細に地域活性化について考えることができた。「悪いところを直すより、工夫して良いところを伸ばす」という言葉が心に残った。これからも知恵を絞って、自分を伸ばしていきたいと思う。

(9) 企業のグローバル化の取組と課題 (講演者：三浦工業株式会社 高津 敦士 氏

株式会社アテックス 西本 大介 氏)

☆県内企業フィールドワーク代替講演

- ①主旨 地元企業の担当者から、身近な企業のグローバル化や地域貢献の取組を学び、グローバルな視点の育成を図るとともに、様々な課題への解決方法を学び課題研究の深化を図る。企業に関する基礎的な知識や研究の手法について学ぶ。
- ②内容 県内企業フィールドワークを予定していた企業の中から2社に協力を依頼し、オンラインでの講演会を実施した。各企業の業務内容や海外進出の様子、海外で事業を進めていく上での課題やその対応策などについて、ご自身の経験をもとに分かりやすく講義していただいた。

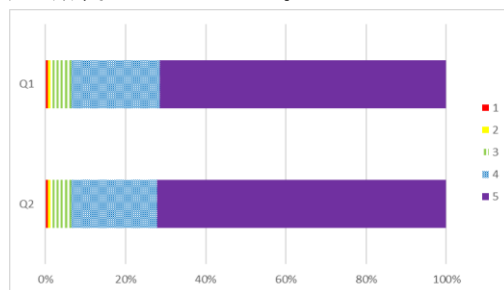
③生徒評点 (低評価1 ←→ 5 高評価)

Q1. 企業の取組について理解は深まったか。

Q2. 県内企業についての理解は深まったか。

④生徒感想

- どちらの会社とも名前を知っていたものの、どんなものを作っているのかは知らなかったので講演を聞くことができよかった。どちらの会社も海外に事業を広げている。そこでは英語力や人間力が必須で、自分で判断できない人は必要とされない。いろんな経験を積むことが大切だと思った。
- 2社の話を聞き、特に印象に残ったことは、これからの社会において英語力が必須である、ということである。グローバル化が進む中では、やはり英語力は必要なのだな、と思った。
- 三浦工業の話を聞き、学歴について僕は深く考えることができた。僕は学歴こそが将来の職業選択に大きく関係するのだと思っていたが、今回の講演を聞き、学歴は人生の選択肢を広げるためのものにすぎないと分かった。
- これまでも東高校でグローバル・グローカルとして海外の人とのコミュニケーションについて学んできたが、ビジネスでの英語にはまた少し違う意味があるのだと思った。ただ勉強ができればいいというのではなく、人間性がとても大切なのだ、という言葉が心に響き、人との接し方についても日ごろから気を付けていきたい、と思った。
- アテックスの講演では、農業問題においては近年、農業従事者が減ってきているという課題もあるが、その中で農業の効率化等に貢献されている企業が松山にあるということで、どのようにして農業を支えているのか、またその商品についても知ることができ、とても興味がわいたとともに、もっと深く知りたいと思った。
- 日本の技術力の高さに改めて驚かされた。「ボイラー」と聞いて大きな機械を想像してはいたが、どのような用途で使用されているのかは知らなかった。今日の講演で、ボイラーが食品機器、メディカル機器、水処理機器などのように多様な用途で使用されていることを知った。とりわけ三浦工業は商品のアフターケアに力を入られているということで、近年売っただけで終わっている企業が多くなっている中、その取り組みが素晴らしいと思った。
- 2社とも商品にとっても誇りを持っていて、細部にまでこだわった仕事をされていて素晴らしいと思った。将来はモノづくりの仕事をしたいと思っているので、このように企業説明の際には、自分自身も自信をもって紹介できるような製品を作り、たくさんの人の役に立てたらいいな、と思った。



- ・アテックスの取り組みでは、世の中に役に立つものを作るためにまずやってみて形にしていくという取り組みが紹介されていたが、私自身も、これから新しい知識や技術を身に付けるためにも、まず何事にもチャレンジしてみたいと思った。
- ・愛媛の中小企業が業界のトップシェアを保っているということで「やればできるんだ」ということを感じた。両社の話に共通しているのは、どちらもやればできるんだ、ということだった。どちらの会社にも「身近な人の役に立つように」という思いが原点にあり、そのような思いがあるからこそどちらも良い用品が作れるのだろうと思った。
- ・両社とも多国籍な人材登用をされているということで、グローバル社会に対応しているのだな、と思った。
- ・二つの会社とも海外を視野に入れて活動しており、外国人社員も大勢登用しているということで、グローバルな会社だと思った。ほかの企業がやっていないことをやりつつ、市場のニーズにこたえる商品を作ることが大切だとよくわかった。また自分たち生徒に対しても奨学金などの形で出資していただいているということで、海外だけでなく地域にも目を向けて活動しているということが素晴らしいと思った。自分も英語力はもちろん、世界で通用する人材となれるように人間力を高めていきたいと思った。
- ・企業のグローバル化や課題について理解することができた。グローバル化が進む中で、以前は英語ができれば有利くらいの感覚しかなかったが、今は英語ができることが最低条件になっているのだと思った。また海外では自分自身で判断できることが最低条件になっているということで、失敗を恐れずに何事にもチャレンジしていきたいと思った。
- ・県内に本社を置く企業のことはあまり知らなかったが、業界のトップシェアを誇る企業があると知り、素晴らしいと思った。製造者という視点からだけではなく消費者という視点からも製品を見ることはなかなか難しいことだと思う。そのような課題を克服し、日々観察を行うことでシェアが達成されているのだと思った。今日の講義で学んだことを、今後の課題研究にも生かしていきたい。

会社案内（本社）



(10) ★未来のふる里産業人養成講座（松山市連携事業） 選択受講

街場の経済学 ―会社を知って、社会を学ぶ―（講演者：元日本経済新聞社特別編集委員 末村 篤 氏）

- ①主旨 グローバル化や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、どの世界に出ても活躍できる社会人、産業人を目指して、時代に対応した新たなキーパーソンとなり得る人材の育成を図る。
- ②内容 会社とは何かについて詳しく話していただいた。自分が生きる社会、時代、世界がどういうものなのか考えるにあたり、会社を知っておくことが必要であり、会社を抜きにした社会はあり得ず、社会を学ぶには会社を知ることが大切であることを伝えていただいた。郷土の課題解決に貢献する志を持った人材を育成するためにも、会社を身近に感じて欲しいと教えていただいた。



③生徒感想

- ・ゲマインシャフトとゲゼルシャフトに関しては、日本の縁を大切にする精神、人とのつながりを意識する性格が、成長を目的としないゲマインシャフト的な会社の乱立を導いたのだと思います。一方、現在の日本は、高度経済成長を経て、ゲゼルシャフト的な利益を求めて競争することで成長する会社が増えていると思う。
- ・投資の話は特に面白かった。株主になることで様々な企業や社会構造を知ることができるという見方は自分にはなかった。儲かるという意識ではなく、新しい視点で会社や社会を知る「大人のたしなみ」としての観点から株主になるのは面白そうだと思います。株価と社会の動きが密接にかかわりあっていることを改めて知ることができた。
- ・資本主義はそもそも経営者が経営的に最も報われる仕組みのはずなのに今は他人の金を運用するCEOやFMが儲かる、ということです。FMという職業もしっかり調べてみたいと思いました。
- ・あまりこれまで株価に関心を持ったことはなかった。株というとすごく難しいものという印象があり、自分にとっては遠いものとして自分の興味関心の中から無意識にとりのぞいてしまっていた。今日の話

を聞いて、株は遠い話ではなく、株式という仕組みがなければ制限が多い中で経営をしなければならなくなり、そうすると経済も発展していかなくなるだろうと思う。経済と株式、株式会社と社会という関係は切っても切れない関係なのだと思います。そう考えると自分にとって決して遠い存在ではなく、ただ言葉のイメージだけで興味関心の壁を作っていたのではないかと反省させられた。

- 職業の選択においては、まず自分の立ち位置がどこにあるのかをしっかりと自覚することが必要だとよく言われる。私はまだ、自分自身の立ち位置が分かっていないと思う。そのため将来の夢や行きたい大学がはっきりと決まっていない。高校3年間があつという間に終わってしまうので、まずは自分の現在地を知ることから始めたい。
- 日本ではたくさんの数の企業がある。テレビを見ていてもたくさんのCMがあり、それぞれが消費者に対して多様なサービスを提供している。現代社会の授業では政治を中心に勉強していたので、会社を通して社会を見るということ学んだが、思っている以上に社会において会社の果たす役割が大きいということが分かった。
- 株式会社は社会に有用な商品やサービスを提供して富を創造する経済主体、いわば私たちの日々の暮らしを支える政府の次の主体といえる。会社は所得分配をして賃金を従業員に支払い、金融費用は金融機関に、配当は株主に、租税公課を政府に、そして内部留保を自分自身にというように株主の意向を踏まえつつ配分を決定している。会社一つの存在でこれほどに経済を回すことができるということが驚きだった。また会社は市場メカニズムの中核でもあるということも分かった。このように株式会社は社会の成長には欠かせないものだ。会社は社会を映す鏡でもあり、より今の世界を身近に感じることができた。
- 日本には220万社もの株式会社が存在し、そのうち1万7000社は愛媛にあると知った時は、あまり実感がわかなかつた。普段、何気なくこの町で生活しているが、機会があつたらこのようなことも意識してみたい。将来、どこかの会社で就職することになるのだろうが、今考えているのはそこまでだ。自分は今何がしたいからどの会社に就職したい、そのために今はこれをやっておきたい、などということあまり考えたことがなかつた。そう考えると、今回の講演は、自分がやりたいことを見付け、また会社に興味を持つということについての、いいきっかけになった。
- 末村さんが、「君たちの人生が実りあるものになりますように」とおっしゃってくださいました。私は新しいことに挑戦しようとするとき、ためらってしまうことがよくある。失敗したらどうしよう、と後ろ向きなことばかり考えてしまう。挑戦しないと何も始まらないし、たった一度きりの人生なので失敗を恐れず、やらずに後悔するよりやってみようと思うようにしたい。

(11) ★未来のふる里産業人養成講座（松山市連携事業） 選択受講

5Gなど最先端の情報通信技術(ICT)と情報通信社会の展望—世界と連携して、どのような新しい社会を構築するか— 講演者：損害保険ジャパン株式会社 顧問 阪本 泰男 氏)

①主旨 グローバル化や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、どの世界に出ても活躍できる社会人、産業人を目指して、時代に対応した新たなキーパーソンとなり得る人材の育成を図る。

②内容 最先端の情報通信技術 (ICT) と情報通信社会の展望についてお話していただきました。今後日本においても拡大展開される5Gの特徴を地域に落とし込んでいくことで、現在、地域社会が抱えている問題の解決に繋がっていく可能性があることを認識することができました。また、ICTが指数関数的に発達していく中で、我々がどのような社会を形成していくべきか深く考えることができました。



③生徒感想

- 年々情報化が進んでいる現代ではグローバルに対する大きな可能性があるように感じる。インターネットで様々な人がつながりを持ち生産性を向上させていくことはとても良いと思う反面、その背後には大きな課題が残ったままであり、人類が情報社会に追い越されないようにすることが大切だと思った。
- セキュリティや人権に関する問題に関しては、私たちはインターネットにのまれているようにも感じている。インターネットの匿名性を利用して人権を傷つけることは間違っているのではないかと思います。
- おもに5Gの普及に伴い、他地域間でのインターネットによるつながりが増えているのはとても良いことだと思う。
- インターネットが普及したことで世の中が便利になったのは間違いがないが、一方で情報格差も広がっている。インターネットを使えるためにはスマホやパソコンのような情報機器が必要だが、それを購入でき

るかどうかで格差が出ているのだと考えました。これまで5Gについて何も知らなかったので、今回詳しく説明していただき、とてもわかりやすかったです。4Gと比べても100倍も速度が速いことにとっても驚きました。5Gになるともっと世の中が便利になるとと思いますが、逆にデメリットも考えなければいけないと思います。

- SDGsは思うようにはうまくいっていないが、今回の講演を聞いて、ICTの技術革新を利用することで解決できるかもしれないということに興味を持った。また5Gを生かしたモバイル治療室の構築が可能になるかもしれないという話がとても興味深かった。1台のトラックのような場所にいろいろな高度医療情報機器を取り入れたモバイル診療が実現すれば、医師が不足している地域でも充実した医療を提供することが可能であるという。
- ICTとSDGsの点では、女性一人一人に携帯を配布するだけでも女性ジェンダーの問題が解決されるということで、ジェンダーの問題を見直す良い機会になった。私たちが当たり前のように使っているものが、世界を変えるきっかけになるのかもしれない。松山で何ができるか考え、実行していきたい。
- 現在、様々なところでインターネットが使用されるようになってきたが、そのインターネットの中でも多くの特徴や複雑な仕組みがあることが分かった。特に面白いと感じたのは5Gの説明だ。言葉だけで5Gと言われてもあまりピンとこないが、超高速で映画をダウンロードできたり、遅延が1ミリ秒程などほとんどゼロに等しくなるということは、今まででは考えられないようなことなので、実現したら今よりもずっと便利になるのかな、と思う。
- 以前は電話機のサイズも大きかったが、現在ではほとんどの高校生がスマートフォンを持っているなど、これまで考えられなかったようなことが生じている。つい20、30年前では考えられなかったようなことだ。ものすごいスピードで情報通信技術が発達しているということだろう。これからさらに技術が発展していけば、6Gの実現も可能になってくると思う。将来は情報に関わる仕事に就きたいと考えているが、そういったとき、人間を中心に考えて、人間が少しでも利益を得られるようなことができればいいと思う。そして不利益を被る人が少しでも減らせるような社会が実現できればいいと思う。
- このように進歩していく中で私たちができることは、まず自分たちの目で見て何ができるのかを考え、実践していくことだ。すぐに大きな活動につながることはないかもしれないが、すこしでもグローバルに物事を考えるということが必要になってくると思う。自分のことだけを考えて生活するのではなく、視点を変えて考えてみるということをしていきたい。
- 5Gの通信速度を利用して遠隔離島などでの遠隔診療が可能になるかもしれないということは大きな進歩だと思う。これからの社会ではこのような技術が役に立っていくと思うので、自分もICTに関わる勉強を積極的にしていきたいと思った。
- インターネットを使っている人の割合が世界で53%くらいということで、いまだに世界の半分くらいの人にはインターネットを使えていないということを知って驚いた。自分はゲーム等でインターネットを利用しているが、もっと普及率は高いと思っていた。自分のクラスでは全員スマートフォンを保有しているようだ。そのためかスマートフォンを持っていることは当たり前のような気がしていたが、世界の半分の人には利用できないのだと知ると、少ないという印象を受けた。人口増加についても、技術革新にしても、現代という時代は非常に変化の速い時代であり、自分がすごい時代に生まれているのだと思うと同時に、これからどうなるのかわからないということが少し怖いとも思う。また、5Gの普及にしても松山ではまだまだ先のことであるとも思うので、このような情報格差の解消もこれからの課題になるのだろうと思った。
- 情報工学の分野で話が聞けて良かった。自分の中でばらばらだった知識がどんどん結びついていったことが一番の収穫だった。初めて聞いた言葉もたくさんあったので、個人的に調べてみたいと思った。その中でも6Gには特に興味を持った。いまだ自分たちの中に5Gが確立していない状況だが、すでに次世代の次世代を見据えているのは素晴らしいと思った。特に6Gの中でも低消費電力には可能性を感じた。ユーザーとして充電の管理が得意ではないので、ワイヤレス充電という技術にはとても魅力を感じる。ワイヤーやスタンドを使用しないでどうやって電気を送電するのだろうかと思うと、とても不思議に感じる。こういった知識は普段の生活の中ではあまり目にすることがないので、自分から探していきたい。

2 海外フィールドワーク代替交流【G明教I】

(1) 主旨

滞在先で主に県内企業の海外拠点をフィールドワークする。同時にフィールドワーク先の現地大学・高校との交流学习を行い、英語での本校・愛媛・日本の紹介や成果発表プレゼンテーション、ディスカッションを行い、高度な語学力・コミュニケーション能力、思考力・判断力・表現力・分析力の育成を図る。

(2) 実施内容

年度当初は、8月2日(日)～8月6日(木)の4泊5日で台湾、10月19日(月)～10月23日(金)の4泊5日で中国(北京・上海)を訪問する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、台湾の日程を12月5日(土)～12月9日(水)に変更した。生徒に参加希望をとり、選考の結果それぞれ8名の参加者を決定した。しかし、海外渡航中止勧告が継続していたために、オンラインでの交流に変更して実施した。

①中国

実施日時	10月20日(火)	15:00～17:30
交流先	三浦工業(中国)有限公司、北京月壇中学校	
内容	15:00～16:00	三浦工業(中国)有限公司 学校紹介 三浦工業事業内容紹介 質疑応答
	16:45～17:30	北京月壇中学校 学校紹介(両校) 両国の文化紹介 質疑応答



生徒感想

<三浦工業(中国)有限公司との交流>

- ・コロナ禍の中での仕事や中国の私生活など、日本にいる私たちには感じることでできないようなことを知ることができました。三浦工業について詳しく知らなかったけれど、会社の仕組みなどを知ることができて良かった。
- ・今の高校生が学んでおけば良いこと、日本人から見た中国と、中国から見た日本の違いを知ることができた。海外で働くことは大変なことではあるが、それ以上に自分のためになるものではないかと感じた。
- ・言葉の壁を乗り越えて、企業活動に協力して取り組んでいて、国の違いは人間関係には関係ないということを実感しました。
- ・中国での感染症対策や電子マネー化の推進などを知ることができ、改めて中国に行ってみたいという気持ちが強くなりました。

<北京月壇中学との交流>

- ・本当に日本語が上手で、日本の文化にも興味を持ってくれていてうれしかった。直接会えなかったので、細かい表情の変化を読み取ることができず残念でした。
- ・日本と中国での文化に対する考え方の違いを知り、中国の文化について大変興味を持ちました。また、中国以外の国の文化についても調べてみたいと思うようになりました。オンラインでの交流はなかなか難しいけれど、伝えようとする気持ちが一番大切であると思いました。
- ・交流によって日本文化と中国文化のつながりについても知ることができました。
- ・同世代の人たちと交流することができてとても楽しかった。ぜひ機会があれば、現地に行きもう一度交流してみたいです。



②台湾

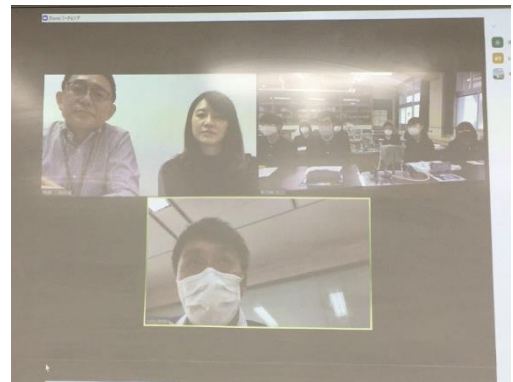
実施日時	12月15日(火)	10:00～11:00
交流先	台湾三浦工業株式会社	
内容	10:00～10:10	学校紹介
	10:10～10:25	台湾三浦工業株式会社の事業紹介
	10:25～11:00	質疑応答

生徒感想

- ・日本の三浦工業とは違う雰囲気を感じました。何でもチャレンジできる社風で、自分の才能がより伸ばせる企業だと思います。社長の三本順一さんや台湾の社員の方との関わりの中で、温かみや優しさを感じ台湾らしさも存分に感じられました。また、台湾三浦の台湾での活躍を聞いて、地元松山の企業が世界で羽ばたいていることを、とても誇らしく思います。台湾の環境に対する考え方や政策、取り組みを学ぶことができたのはとても良かったと思います。実際訪問はできませんでしたが、それに劣らない交

流で充実していました。

- ・台湾三浦との交流を通じて、客観的に日本のことを考えることができるようになりました。私は“Made in Japan”は品質がいいというイメージがありとても人気があると思っていました。しかし、近年中国の商品技術には見習うべき所がたくさんあると言われていて、海外の技術力の発展に驚くと同時に台湾三浦の“ミウラブランド”の確立を目指す姿勢からは、グローバル企業としての発展がうかがえました。また、台湾での生活や国際社会で活躍するために必要なことなどグローバル社会で生き抜くためのアドバイスも多くいただき、とても貴重な経験となりました。
- ・台湾三浦の企業と交流してみて、日本人の役割は台湾で日本のビジネスを生かすことだと言われていて、日本のビジネスが重要視されていると改めて感じた。また、現地の人に日本の技術をレクチャーすることも大切な役割であることが分かりました。どこの国でも言語の壁にぶつかるが、努力していくことが大切だと分かりました。
- ・コスト面ではなく環境面に注力するという三浦工業の一貫性と、それが結果として台湾のニーズと合致しているところに感動しました。これまで同じ種類の製品ならば基本的に安い方を選択するのが合理的だと考えていたが、このような実情があることを知り、ビジネスモデルの多様性を学んだ。今後は、環境と経済の両立を図っていくことが必要だと思いました。
- ・今回、台湾三浦の方々と交流して、コロナウイルス対策の違いを学ぶことができました。台湾ではSARSの反省を生かし、迅速に対応したそうです。だから、コロナウイルスの感染者が特に少ないのだなと思いました。また、日本の製品が外国で人気なことも分かりました。値段は高くても、質の高い商品を提供するという気持ちがとてもかっこいいなと思いました。とても良い経験になりました。
- ・改めて海外で働くことの大変さを感じました。文化や言葉の壁に直面しつつもやはり大切なのは「伝えたい」という気持ちなんだと思いました。私は今海外で働くことに興味があったので、とても参考になりました。
- ・実際に海外で働いている方の話が聞けて、思っていたより日本と似ているところが多いことが分かった。長年現地で働いている方や、最近働くようになった方から話を聞くことができ、いろいろな視点からの台湾を学べた。私は海外で働きたいと思っていますが、英語、中国語など現地の言葉を学び、使えるようにすることの大切さを学べました。自分は現地のことを知ることが大切だと思っていたけど、日本文化を知り伝える準備をすることも重要なことが分かりとても参考になった。
- ・日本ではなく、外国に会社を置くことのメリットや言語の違いによる大変さなどの話を聞いて学べた。また、世界中の人たちにミウラの技術を体験してもらいたいという想いが伝わり素晴らしいと思った。台湾と日本が思った以上に似ていたので、いつか台湾を訪れてみたいと思った。とても貴重な体験となったので、今後もこのような機会には参加していきたい。



実施日時 12月16日(水) 15:00~16:00

交流先 国立中興大学附属高級中学

内容 15:00~15:10 学校紹介(本校)
15:10~15:20 学校紹介(国立中興大学附属高級中学)
15:20~15:30 質疑応答
15:30~16:00 交流活動

生徒感想

- ・私は台湾の生徒の英語の流暢さにとても驚くとともに、自分自身への刺激を受けました。私は、この交流を通じて自分の英語力の低さを痛感しました。台湾の生徒は中国語から英語に変換しているとは思えないほど、レスポンスが速かったです。また、台湾の文化に関するクイズを通して、台湾の歴史や文化、環境への取り組みについて知ることができました。台湾について調べていたけど、分からないことも多く特に環境面についてはあまり知らなかったが、日本よりもとても進んでいて、見習うべきところも多かったです。東高体操では、楽しんでもらえて私自身も一緒に身体を動かすこともコミュニケーションの一つだと再認識できるとも良い機会となりました。
- ・初めて他国の学生と交流した経験でした。英語の発音が良くてとても聞き取りやすかった。しかし、発表の時に少しかんでしまう場面がたくさんあったので、そこが今回の反省点だと思った。今回で学んだことも多く、外国に行った時に生かせる経験がたくさんあった。台湾の学生に感謝したい。

- ・台湾には日本の技術が、日本には台湾の文化が溶け込んでいることに国際化する社会の流れを感じた。そのことを知らなかったり、意識していなかったりした自分を恥ずかしく思った。他国との相互理解のためにも今後、意識して生活していきたいと思った。
- ・海外の学校との交流でしたが、とても新鮮でした。とても明るくアクティブな生徒ばかりで、たくさんの刺激を受けました。現地を訪れたかったと強く思っています。彼らの英語はとてもレベルが高く、長い勉強時間に比例しているのだと実感しました。彼らの発表の中でも特に印象に残ったのは、環境問題についての発表です。とても分かりやすくたくさんのことを学びました。この交流が今後の学習に良い効果をもたらしてくれると思います。
- ・台湾の高校生はみんな楽しそうで、クイズやプレゼンテーションの準備などで歓迎してくださりととても嬉しかったです。これからも交流を続けていきたいです。
- ・台湾の高校生は英語のスキルがとても高く驚きました。同世代であるにも関わらず、メモを見たりするのではなく、自分の言葉として英語を使用しているすごいなと思いました。交流をしていく中で、やはり直接会ってお話ししたかったなと感じました。画面越しではあつたがたくさん刺激を受けられて良かったです。
- ・お互いにプレゼン、クイズ、東高体操などができて、とても充実した時間になった。台湾のクイズでは思ったより正解できた。実際に台湾に行けていたら、クイズに出てきた場所にも訪問できたかも知れないと思ったら残念でした。
- ・台湾と日本の教育システムが全然違っていただけでとても驚いた。また、台湾特有の科目もありとても興味深かった。文化についても教えてくださったのでとても楽しかった。東高体操はとても楽しんでいただけたのでやって良かったと思え、また一緒に踊れたので言語でなくても互いに繋がることはできるのだと実感した。とても良い経験ができた。



3 課題研究【G明教Ⅱ】

(1) 主旨

生徒の好奇心を刺激するような幅広いテーマ群についての協働的研究活動を行うことで、地域や世界の持続可能な社会に貢献する意欲と深い教養や問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養の育成を図る。

(2) 概要

本年度から1年生の課題研究は、本校の教員が主体となって実施した。地域協働学習実施支援員の嶋村美和氏より「課題研究の進め方」について講義をしていただいた後に、各担当教員から研究概要の説明を行った。その後、希望調査を行い各講座の受講生徒を決定した。また、課題研究の導入の段階で、嶋村美和氏に作成していただいた「研究テーマの見つけ方」も活用した。課題研究は12回計24時間で取り組んだ。成果は年度末成果発表会にて発表した。

(3) 課題研究の担当教員及び課題研究テーマ一覧

No	氏名	課題研究テーマ
1	岡田 信	作家 大江健三郎の人生を切り拓いた人々
2	堤 元子	世界×松山×私のミライ
3	櫛部 隆志	俳都松山を支えた俳人たち
4	豊島 秀一郎	地域スポーツの役割と課題 ～愛媛FCの取り組みを通して～
5	村上 曜介	防災革命2020
6	佐々木 泰洲	そうだ、選挙に行こう ～選挙の役割と実態を、選挙管理委員会の取り組みから考えよう～
7	富田 裕昭	大学の現在と未来、大学の研究室から見える未来
8	渡部 慎司	松山東高校ゆかりの人物について調べよう
9	小笠原 遥奈	鍵盤楽器に親しみ、地域の特色を音楽で表現しよう！

10	小野 榮子	つくる責任つかう責任
11	神野 和幸	地域スポーツの持続可能な発展に向けて ～マドンナカップとひめっこビーチスクールの取り組みを通して～
12	白川 由貴	地域におけるスポーツの役割と課題 ～頑張るスポーツ選手を応援！勝ち飯の考案！～
13	長谷川 公彦	地域における文化ホールの役割と可能性 ～人と文化のグローバルな架け橋であるために～
14	阿部 秀信	地域の宝 三輪田米山を知る ～地域文化の活用を目指して～
15	秋山 奈津子	～Model United Nations@Matsuyama Higashi High School～ 模擬国連を通して多角的に見る世界と日本と愛媛
16	河合 直美	「Kahoot!」を活用して愛媛の文化を世界に紹介しよう！
17	野中 千愛	伊予弁で愛媛を世界にアピールしよう！
18	瀬野 明	いまだ知らない愛媛の魅力発見 ～英語版観光モデルコースの制作を通して～
19	檀 茂美	愛媛に住んでいる外国人の視点から、愛媛県を再発見しよう
20	越智 潤子	愛媛県の食生活について考える

(4) 各講座の研究内容（希望調査時の講師から生徒への説明内容）

No. 1

担当者	岡田 信
テーマ	作家 大江健三郎の人生を切り拓いた人々
概要	本校の卒業生である作家大江健三郎氏の人生をたどり、彼が人生の節目で出会った三人の人物について、その著作を読むことを通して、また、フィールドワークを通して理解を深める。 1 大江健三郎と渡辺一夫 2 大江健三郎と重藤文夫 3 大江健三郎と伊丹十三（宮本信子）

No. 2

担当者	堤 元子
テーマ	世界×松山×私のミライ
概要	いま、ここで、高校生であるあなたができること。今の延長線上にある未来にあなたが何をすればよいかを、調査やインタビューを通じて考えます。 1 松山市の多文化共生の現状 2 私たちは世界の中でどんな立ち位置にあるのか 3 海外から来た人は松山の高校生をどう思っているか 4 海外から来た人は何を望んでいるか 5 やさしい日本語による伝達の重要性 6 コミュニケーション能力とは何か 7 私たちにできるSDGs

No. 3

担当者	櫛部 隆志
テーマ	俳都松山を支えた俳人たち
概要	本校に縁のある俳人正岡子規並びに子規が影響を与えた2人の人物の人生を学ぶとともに、その俳句を鑑賞する。また、フィールドワークや創作活動を通して理解を深める。 1 正岡子規の人生と俳句 2 高浜虚子と夏目漱石の人生と俳句 3 フィールドワークや創作活動

No. 4

担当者	豊島 秀一郎
テーマ	地域スポーツの役割と課題 ～愛媛FCの取り組みを通して～

概 要	地域との関りが深い活動の1つとしてスポーツがある。愛媛にはプロサッカーチームの愛媛FCがあり、ホームゲームの際にはマッチシティ・マッチタウンと題して、県内の20市町が割り当てられた日にその地域の特性を生かしたイベントなどを実施している。これも地域貢献および地域活性化に向けた取り組みであり、各市町が工夫を凝らしている。このような取り組みによって、愛媛FCの集客だけでなく、地域の情報発信や活性化につながるとともに、地域課題等も考えることができる。この課題研究を通して地域に貢献できるグローバル・リーダーとしての資質を身に付けてもらいたい。
-----	---

No. 5

担 当 者	村上 曜介
テ ー マ	防災革命2020
概 要	<p>「阪神淡路大震災」(H7)・「新潟中越地震」(H16)・「東日本大震災」(H23)・「熊本地震」(H28)・「西日本豪雨」(H30)、平成は大災害の時代であったと思います。</p> <p>では、令和はどのようなのでしょうか。</p> <p>我々がその生涯を過ごすまで、多くの災害に巡り合うことは避けられない時代なのではないでしょうか。いざという時に、自分の命や、大切な家族の命を守るための意識や知識を身に付け、安全・安心が持続できるまちづくり・人づくりを進めておくことが重要です。</p> <p>「防災」は特別なものではなく、全て日常と表裏一体なものです。それを進めるためには、地域を知り、人を知り、災害を知ることが大切です。この講座では、地域や大学等の様々な人と関わり合い、親交を深めながら、防災の知識と実践力を身に付けます。</p> <p>次のような考察と実践(フィールドワーク)を計画しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山市の災害、日本の災害、世界の災害を知る ・大学生防災士と一緒に防災のクロスロードゲームやHUG(ハグ:避難所運営ゲーム) ・地域を防災の目線で見つめ直す防災まち歩きや防災マップづくり ・学校における避難訓練の考察など

No. 6

担 当 者	佐々木 泰洲
テ ー マ	そうだ、選挙に行こう ～選挙の役割と実態を、選挙管理委員会の取り組みから考えよう～
概 要	<p>「愛媛県が使う約6400億円の使い道は愛媛県民の半分以下の人が決めている」</p> <p>2019年に行われた愛媛県議会議員選挙の投票率は40.39%でした。つまり、愛媛県の予算や政策を決める代表者は愛媛県の有権者の半分以下の人によって決められているのです。皆さんはこの現状をどのように感じますか。</p> <p>選挙は国や県などの自治体に意思表示ができる大切な権利であり、機会です。日本では2016年に18歳選挙権が実現し、高校生でも選挙に参加できるようになっています。</p> <p>しかし、現状は上記のとおりです。</p> <p>なぜ、投票率は上がらないのか、大切な権利や機会を放棄してしまう人が多いのだろうか。投票率を上げることは私たちの生活にどのような影響をもたらすのだろうか。</p> <p>この講座では松山市選挙管理委員会と連携し、政治や選挙についての研究、分析を行っていきます。選挙を通じて自分たちの町や生活がどのように形作られているかを知り、今後自分たちがどのように取り組んでいくべきか、考えてみましょう。</p>

No. 7

担 当 者	富田 裕昭
テ ー マ	大学の現在と未来、大学の研究室から見える未来
概 要	<p>新型コロナウイルスの影響を受け、教育機関が新しい授業形態の変革などを迫られています。地元の大学を中心に、中四国の各大学の今の状況などの調査を行います。学校の9月入学などは、地域や社会への影響も大きいことから来年度すぐからの導入は見送られることになっていますが、地域の人や愛媛大学などはどう考えているのか、学生の今の生活などを含めて調査し、これからの日本の大学について考えます。</p> <p>1 大学は秋入学(9月)に賛成か反対か。グローバルスタンダードへの移行を推進すべきか。メリット・デメリットをまとめる。</p>

	<p>2 AL (アクティブ・ラーニング) の授業研究は、このコロナ感染社会でどう進められるのか。高校は主体的で協働的な学習をどう進めるべきか。</p> <p>3 遠隔授業の実態とその課題</p> <p>4 大学の研究室から見える日本社会の10年後の未来</p> <p>5 人口減少社会における、日本の大学の未来</p> <p>以上の5つの項目について大学に調査し、考察をしていきます。</p>
--	---

No. 8

担当者	渡部 慎司
テーマ	松山東高校ゆかりの人物について調べよう。
概要	これから、海外で活躍することも多い東高生だが、松山東高校が海外に誇れることは何があるだろうか。そこで、自分たちの通っている松山東高校にゆかりのある人物について調べ、お互いに発表する。

No. 9

担当者	小笠原 遥奈
テーマ	鍵盤楽器に親しみ、地域の特色を音楽で表現しよう！
概要	<p>現在、親しまれているクラシック音楽の中には、地域の自然や産業、起こった出来事をよく表したものがある。作曲家が、祖国への思いを曲に綴っているものも数多くある。また、時代によって、作曲技法にも違いが見られる。そこで、本講座では、楽典や音楽史についての基礎的な知識を学び、様々な地域、時代の楽曲を鑑賞した上で、自分の住む地域のある一部分（自然・産業・伝統文化・特産品等）について、様々な方向から考察し、音楽として表現する。</p> <p>この研究の流れは、以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 拍子、調、音階、時代区分等についての講義を聞き、基礎的な知識を身に付ける。 2 24の調（ハ長調～ロ短調）について、スケール（音階）と有名なピアノ作品を動画で鑑賞し、調のイメージを言葉や色で表現する。また、その考えを他者と共有する。 3 様々な地域の特色がよく描写されたピアノ作品を動画で鑑賞し、感想を共有する。 4 4人前後のグループを作り、各グループで何を音楽で表現するかを決める。 （「●●について表現したいから、△△調を基にする」、「△△調の雰囲気が好きだから、調に合いそうな●●を表現する」どちらのアプローチでも構いません。） 5 表現したい事柄について、実地、聞き取り、文献、インターネットなどの調査を行い、その特徴をよく捉える。 6 曲として、8小節以上の大譜表で表し、演奏を発表する。 7 ポスターに、講義で学んだこと、鑑賞で印象に残ったこと、表現する事柄の詳細、自作曲等についてまとめる。 <p>※ 鑑賞はピアノ作品で、作曲はト音記号とヘ音記号の大譜表を用いて行いますが、それでも構わなければ、鍵盤楽器の経験がない人、他楽器の持ち込み（音が大きすぎないもの）も歓迎します。鑑賞に、正解・不正解はないので、感じたことを気後れせずに発言してくれる人に受講してもらいたいです。</p>

No. 10

担当者	小野 榮子
テーマ	つくる責任つかう責任
概要	<p>地球温暖化による様々な問題が噴出している昨今の現状を踏まえ、どのような課題があるか、フィールドワークや調べ学習を通じて現状を把握し、家庭や地域、学校でできる対策を計画し実践しよう！</p> <p>資源の有効活用や廃棄物の発生防止、削減、再生利用など身近なところから考え、世界にも視線を向けていく。</p>

No. 11

担当者	神野和幸
テーマ	地域スポーツの持続可能な発展に向けて ～マドンナカップとひめっこビーチスクールの取り組みを通して～

概 要	<p>マドンナカップは正式名称「ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権」として公益財団法人日本バレーボール協会・一般社団法人日本ビーチバレーボール連盟が主催となり、1997年の第1回開催より愛媛県(1～2回は松山市堀之内、3回からは伊予市五色姫海浜公園)で合計23回開催している地域との関りが大変深いスポーツイベントである。愛媛県出身のビーチバレーボールの選手にはオリンピック出場経験者も多く、現在も3名のオリンピ아가県内でビーチバレーボールに関係する様々な活動を行っている。中でも、幼稚園児から中学生までの幅広い子供たちにビーチバレーボールの楽しさを教えるとともに技術の指導を、一昨年度より「ひめっこビーチスクール」で行っている。</p> <p>このようなイベントや活動を通して、将来的に地域スポーツの持続可能な発展に向けてどのような役割があり、どのような課題があるのかを研究し、この研究を通してビーチバレーボールの発展だけでなく、地域の活性化や情報発信につなげることができるよう郷土愛を醸成し、地域と世界をつなげて考え、地域の人々と協働できるグローバルな人材になってもらいたい。</p> <p>研究計画(予定)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビーチバレーボールの歴史 2 マドンナカップの歴史 3 ひめっこビーチスクールのフィールドワーク 4 マドンナカップの開催地域(伊予市市役所)のフィールドワーク 5 石手川ビーチバレーボールコートでのフィールドワーク 6 地域スポーツの持続可能な発展に向けて
-----	--

No. 12

担 当 者	白川 由貴
テ ー マ	地域におけるスポーツの役割と課題 ～頑張るスポーツ選手を応援！勝ち飯の考案！～
概 要	<p>「スポーツ」は社会において様々な役割を果たしている。人々の健康増進のみならず、地域・経済の活性化、学校教育等における人間力の向上や国際理解、部活動や地域スポーツにおける競技力の向上など、なくてはならない文化の一つである。</p> <p>現在、スポーツは多くの人に親しまれ行われている一方で、競技特有の疾患(スポーツ性贫血など)や怪我に悩む選手も多くいる。本研究では、そのような選手のコンディショニングを整え、競技に適した身体をつくり、競技力を向上させるためにどのような食事が適しているのか、スポーツ栄養学の観点から、深めていくことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 様々な競技の特性について調べる。 2 競技ごとに、どのような怪我や疾患が多いか調べる。 3 スポーツ栄養学についての知識を深める。 4 競技ごとに、どのような食事が適しているか調べる。 5 「勝ち飯」の献立を立て、実際に作ってみる。 6 発表を行い、意見交換をする。

No. 13

担 当 者	長谷川 公彦
テ ー マ	地域における文化ホールの役割と可能性 ～人と文化のグローバルな架け橋であるために～
概 要	<p>芸術文化や芸能を活発に発信し、多くの集客を得ることは、今や世界中のホールが抱える難題です。この課題について、愛媛県県民文化会館、松山市民会館、周辺市町ホール、坊っちゃん劇場、その他の民間ホールの取組を、フィールドワーク等により研究しながら、その認識を深めていきます。</p> <p>校内での研究は、国内外のホールに視野を広げ、ユニークな取組を調査したり、活用方法や運営方法、利用頻度の向上について提案し合ったりして、情報の共有と議論を進め、文化ホールのこれからの可能性を探っていきます。</p>

No. 14

担 当 者	阿部 秀信
テ ー マ	地域の宝 三輪田米山を知る ～地域文化の活用を目指して～

概 要	<p>三輪田米山は幕末～明治時代に生きた松山の神主である。豪快な性格で、地域の人々に請われ多くの幟や神社の注連石を書き、現在も松山市を中心に多くが残っている。独特の躍動感のある書は全国的に高く評価され、作品が各所に収蔵されており、高校書道の教科書にも掲載されている。</p> <p>これからの時代は地域にある資源を有効活用していくことが求められている。課題研究を通して、米山書の魅力について研究するとともに、書道の枠内にとどまらず、地域の文化資源として活用する方法を考えていく。</p>
-----	---

No. 15

担 当 者	秋山 奈津子
テ ー マ	～Model United Nations@Matsuyama Higashi High School～ 模擬国連を通して多角的に見る世界と日本と愛媛
概 要	<p>「模擬国連」はその名の通り、“国連を模擬する”ロールプレイ活動です。参加者一人一人（もしくはペア）が一国の大使として国益を背負ったそれぞれの立場から国際問題を議論し、交渉し、決議案や成果文書を作成します。その過程では、リサーチ力・交渉力・論理性・思考力・言語能力、そして協働する力が鍛えられます。2年前「武器移転」がテーマの全国大会に出場した生徒たちは、模擬国連の魅力についてこう述べています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加国の同意を得ることが最終目標の模擬国連には勝ち負けがない。そこでは聞く力、聞いた内容を咀嚼し、分析し、共通項や対立軸を見抜く力が必要だ。そして「正解」ではなく「納得解」を探し出す。正解のない実社会の問題に対して、自分たちなりの「納得解」を導くために遠慮のない議論をするという得難い場が模擬国連である。 ・日本は世界的に見ると平和で一般市民は「武器」というワードにほとんど関わりを持たずに生きている。「武器」に対する固定観念は、模擬国連に参加することがなければ、日本に住み続けている限り、気づかなかつたものかもしれない。模擬国連は、そのような固定観念の枠から出て、多角的な視点と立場で、国際問題、社会問題を学び、議論できる魅力的な場である。 <p>上記のような模擬国連の面白さを味わうには、各参加者がリサーチや交渉に本気で取り組む必要があります。世界で何が起きているのか、日本はどう関わっているのか知りたい・話したいという生徒に受講してもらいたいと思っています。</p> <p>初回のガイダンスで模擬国連のルールやリサーチの進め方について学んだ後、課題研究実施期間の前半は初心者向けのトピックやリサーチしやすい地域課題を取り上げ、後半は実際の国連議題を用いた本格的な会議の開催を目指します。</p> <p>日本で開かれる模擬国連の大会では多くの場合英語と日本語が公式言語ですが、課題研究では議論や交渉を深めるためにメインの使用言語は日本語とし、慣れてきたら進行や文書の作成、スピーチなど一部に英語を取り入れる予定です。</p>

No. 16

担 当 者	河合 直美
テ ー マ	「Kahoot!」を活用して愛媛の文化を世界に紹介しよう！
概 要	<p>ゲームベースの学習プラットフォーム「Kahoot!」を使用して、愛媛の歴史や伝統、自然、文化、流行などを英語で紹介するクイズの作成にチャレンジします。海外でも「Kahoot!」を活用した学習は、小学生から高校生までたいへん人気があります。自分の興味のある分野について楽しみながら理解を深め、英語での表現力を磨くとともに、日本内外の多くの人に愛媛の魅力を紹介する機会にできたらと考えています。クイズが完成したら講座の生徒やクラスメートと一緒にプレーし、事後にアンケートを実施し、改善点などを分析していきましょう。※機材の都合により講座の人数制限あり（20人まで）</p>

No. 17

担 当 者	野中 千愛
テ ー マ	伊予弁で愛媛を世界にアピールしよう！
概 要	<p>「机をかいて」「とりのご用紙」「かまんよ」「牛乳かやした」「ランドセルかるう」「お財布うさした」「ラーメンむつこいね」「なんしよん」</p> <p>これらはすべて愛媛で話される方言、「伊予弁」です。伊予弁ネイティブスピーカーのみなさんなら、理解できたのではないのでしょうか。</p> <p>では、日本語を学習する外国人には、私たちが使う伊予弁がどのように聞こえているのでしょうか</p>

	か。この講座では、愛媛に住む外国人にインタビューし、伊予弁にどんな印象を持っているか、伊予弁での会話中に難しさを感じている点はどこかを調査します。そのインタビューを元に、愛媛に住む外国人に、また、これから愛媛にやってくる外国人に向けて英訳付きの伊予弁ガイドブックを作成しようと考えています。そして、伊予弁と英語の2言語を使い、愛媛の特産品や暮らし方を発信する取組を計画しています。課題研究を通して、言葉から私たちの住む地域について考え、地域の言葉を使って地元の魅力を世界に発信する活動を行います。
--	--

No. 18

担当者	瀬野 明
テーマ	いまだ知らない愛媛の魅力発見 ～英語版観光モデルコースの制作を通して～
概要	この講座では「英語版日帰り（もしくは1泊2日）観光モデルコース」の制作を行います。自分たちの地域について深く知ることで、日本の人たちや、海外の人たちがまだ気が付いていない愛媛県の魅力について発見していきましょう。 また、海外の人々が自分たちの地域を訪れた際に、英語でその魅力を伝えられるかということにもチャレンジしていきましょう。

No. 19

担当者	檀 茂美
テーマ	愛媛に住んでいる外国人の視点から、愛媛県を再発見しよう
概要	みなさんは、愛媛県に住んでいる海外の人にとっては、愛媛県の魅力、また改善しなければならないところはどのようなところにあると思いますか？ まずは私達で海外の人から見た愛媛県の実態について予想して考えてみましょう。次に、愛媛県に住んでいる外国人住民や留学生に、直接会って話を聞いてみたり、アンケート調査を行ったりして、情報を集めましょう。最終的には、私たちの予測とアンケート結果とを比較し、愛媛県のどんな魅力を海外に向けてアピールしたらいいのか、また改善していけばいいのか、考えて発表できたらいいですね。

No. 20

担当者	越智 潤子
テーマ	愛媛県の食生活について考える。
概要	私たちの食生活は様々な課題を抱えています。どのような課題があるか整理し、課題解決につながる実践活動を通して考えます。また、地元食材を見直し、その活用について実践を通して考えます。 実践活動として実習を行うので、材料等の負担があります。また、実習を伴うので、定員を16名とします。





(5) 課題研究の成果

課題研究の成果として、研究結果をポスターにまとめた。以下が作成したポスター一覧である。

(合計 116 枚、代表例は巻末に掲載)

ポスター番号	タイトル	発表者	担当教員
01-01	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 大江健三郎年譜	藤岡愛結 澁谷美優 西莉乃愛	岡田先生
01-02	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 ～伊丹十三～	野上琴未 藤川詩音	
01-03	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 ～渡辺一夫～	藤岡愛結 澁谷美優 西莉乃愛	
01-04	大江健三郎の人生を切り拓いた人々 ～重藤文夫～	岡本大知 加藤大悟 野本景介	
02-01	日本語学習法を知ろう	土手康太郎	堤先生
02-02	やさしい日本語と見えない国際化	綱崎李紅	
02-03	愛媛を支える外国人	土井茉美	
02-04	日本と外国の常識やマナーの違いとは？	清家千尋 小泉海琴	
03-01	句集研究～過去の俳人の句集と僕の句集との比較を通して～	宇都宮駿介	櫛部先生
03-02	子規門下の双璧	金浦正宗	
03-03	子規が俳句に与えた影響	入船真人	
03-04	石田波郷の作風の変化について	田中千晴	
04-01	マッチシティ・マッチタウンイベントで観客を増やそう	三好光輝 松岡佑真 渡部啓斗	豊島先生
04-02	MCMTによる地域の経済発展	長尾青空 上島瑛惟人 岡部陽生	
04-03	幸せ貢献～愛媛FCと共に～	稲葉留美 田中来幸 新田理乃 河田志帆	
05-01	～過去から未来へ～今ある命を守り抜く	山口椋大 栢見玲也 渡部豪 田中唯月	村上先生
05-02	自分たちの町を守れ。	山内悠友 水野敦吏 森一生 濱野蒼太	
05-03	避難の極意	尾崎遥 谷川愛采 平井愛純 森脇早希	
05-04	避難展開～命を守る～	永木一朗 鶴本ゆいの 多田莉紗子 服部行志	
05-05	俺たちが考えた最強の防災バッグ	加地康平 稲垣隼平 馬越優太郎 澤田真啓	
05-06	校外で自分の命を守れますか？	伊賀上直紀 周防俊之介 船田理空 児玉大和	
05-07	いえのくふう	近藤大翔 岡本拓実 鈴木美空 二宮花鈴	
05-08	プロジェクトG～事前準備で減災～	荒川慧斗 大西凜征 小田琥太郎 影山翔	
06-01	私たちの未来は、私たちの一票から始まる	菅真乃裕 梅崎鈴歩 森亮輔	佐々木先生
06-02	え。なんで選挙行かんのか？	坂本純聖 高瀬雄大	
06-03	Go To Election	山口葉央 鈴木陽菜 渡部紗羅	
06-04	シルバー民主主義をぶっ壊す!!	五十嵐翼 花山京平 中山佳都	
06-05	22%の民主政治	斎藤遊斗 武田悠生 田坂登志貴 坂東克海	
06-06	投票率における日本の現状とスウェーデンの比較	岡本一起 新谷彰梧	
06-07	若者の投票率を上げるには？	河本大空	
06-08	選挙は簡単な方がいいよね	丸山賢吾	
06-09	若者 アンド 政治。	宮宇地春人	
06-10	日本の投票率を上げるには？ ～投票率の高い国から学ぶ～	米田武志	
06-11	投票率を上げるために社会ができること	和田權	
06-12	選挙がしたいだけなのに	井口航晴	
06-13	主権者教育の実態・効果	芝明真	
07-01	10年後の大学の変化	三宅義之 兵頭遼馬 丸山歩夢	富田先生
07-02	未来予想図Ⅱ～少子高齢化と日本の大学の行方～	坂本龍之介 上野大輝 北地鼓太郎 鶴井風 山下大伍	
07-03	アフターコロナでの大学のあり方	林舞香 松浦遥	
07-04	大学生に聞くオンライン授業	池川正真 加藤陸 高橋理基 内藤大貴	
07-05	海外から見る日本の大学	池口翔太 加藤星五 上田雄太 熊野旭	
07-06	変わる日本の教育	天野安里 池田琉準 重松伶汰 竹原啓太 三木昂輔 峯尾空 村上陸	

08-01	「普選の神様」今井嘉幸	一色拓海	
08-02	～私たちは秋山兄弟の生涯から何を学ぶべきか～	久野拓海 岩井慶樹 森實悠太	
08-03	作詞・作曲者からみる東校校歌の魅力	ウィジェナヤカサクラ 坂本しおり	渡部先生
08-04	正岡子規の歩み	和泉輝星 村上太一 笠原慶紀	
08-05	大江健三郎の生い立ちと知名度	松浦佑青 豊嶋大二郎	
08-06	伊丹十三の作品に込めた思い	野村晟一郎 立花涼哉 横内結音	
09-01	道後の街並みを音楽に出来るか？	首藤太喜 松田快斗 遠藤いぶき 窪田捺希 野本紫映瑠 松本結太	小笠原先生
09-02	瀬戸内の景色を音楽に乗せて	大西花乃 岡田華音 松岡結子 横田愛菜 渡部遥 武田風花	
09-03	松山城を奏でる	黒田青空 日高万歩路 上田凌大 村上暉 重松元 三好瑠斗 大塚美夢	
10-01	守りたい自然がある ～迫りくるプラスチックの脅威～	山本龍弥 武村知樹	
10-02	おいらは動物守りたい	大平千真 児島優日	
10-03	海洋汚染と海洋プラスチック処理の現状	高野匠翔 久保田真央	
10-04	大量生産大量消費のサイクルを断ち切る！	平松由衣 岡平倫拓 山内椋太	
10-05	コンビニオーナーと本部の関係が食品ロスの原因？	松本憲汰 大浦拓真	小野先生
10-06	マイクロプラスチックから美しい海を守るために	福本晴琉 越智春樹	
10-07	使い捨てプラスチックの問題と対策	越智万葉 鎌田琴子	
10-08	赤潮が愛媛の水産業に与える影響	大内こまち 宮崎明野	
10-09	循環型社会 ～プラスチック問題について～	菊池瞳子 城田美鈴	
11-01	愛媛でビーチバレーボールを普及するには？	武田溪 松澤遼 大森悠人 結城陸斗	
11-02	ビーチバレーボール VS バレーボール	林羽玖 宮本兼伸	
11-03	人々はなぜビーチバレーボールにハマるのか	吉川隆浩 森實将太 松岡玄 富永光昭	神野先生
11-04	ビーチバレーボールから学ぶ コロナ自粛の過ごし方	鷹尾真一郎 池田賢世 山内崇矢	
11-05	愛顔スポーツ ビーチバレーボール	伊藤夏希 笹田菜月 松本香鈴	
11-06	あなたと 愛媛と ビーチバレーボールと	魚見月絹 島彩心琉 池内結梨	
12-01	The best boxlunch for tennis practice in summer ～夏季練習時の食事～	大場隆也 中野颯亮 沼田泰喜 村上竜誠 毛利洸太	
12-02	女子ハンドボール部の試合後のスタミナ回復のための一食	日野瑠璃 高木理鼓 東浦日菜 林編妃菜 近藤千夏 蚊帳日沙希	
12-03	がんばらrowing meal！！ ～ボート競技をする高校生のための食事～	松下楓佳 中崎優美 山岡由蘭 川越乙嬉	
12-04	高校球児における食生活について	藤原蒼太 門田涼平 高岡幹 菊地流聖 戒能優弥	
12-05	勝ち飯～試合期における高校生女子バドミントン部の夕食の一考案～	高田あゆみ 長野美遥 鎌谷結衣 武田愛子	
13-01	我ら「文化ホールおたすけ隊」！	野馬光汰 窪田豊輝 白田善瑛 大音戸歌汰 大空拓海 遠藤優子 水野永莉菜 渡邊涼香 渡部未夕 永井沙耶	長谷川先生
14-01	型にはまらない、孤高の書道家三輪田米山	高村藍梨 西田裕香 明日孝允 泉百飛	
14-02	米山作品の魅力	岡田莉花 佐野光虹 成光ほのか 岡田啓佑	阿部先生
14-03	BEIZAN～東高から発信～	折手壮太 芥川壮太郎 齋宮萌翔 倉橋優月 岡本朔弥	
15-01	模擬国連～ブラジル大使になってみて～	植田美咲 影山夕里子	
15-02	模擬国連会議 気候変動に向けて 〈CANADA's perspective〉	大石将 武田もなみ	
15-03	Conectate al futuro ～模擬国連から始まる世界～	坂本美咲 玉井理帆	
15-04	模擬国連と国際社会におけるドイツの役割	山田颯馬 宮武宏徳	
15-05	アイスランド大使として国際問題に挑む！	小野下未来 藤岡佑哉	
15-06	Climate change through 模擬国連	吉岡日菜乃 名合真梨	
15-07	気候変動に関する模擬国連 キルギス	池田理子 笹田翔太	
15-08	Model UN ～マダガスカルと気候変動を考える～	日野鶴乃 上田彩久良	
15-09	マーシャル諸島大使になって	松本歩大 上岩そら	秋山先生
15-10	モンゴルとして参加した模擬国連で学んだこと	堀口大喜 安部紗世	
15-11	気候変動対策にどう取り組むか New Zealand	本田そよか 能田恭佑	
15-12	模擬国連 ～ナイジェリア大使になって～	伊藤万夏 西川結菜 仲田真菜	
15-13	模擬国連で身につけた交渉力	河野叶和 稲津秀一	
15-14	気候変動とサウジアラビア大使にできること	田中みのり 窪田有希	
15-15	模擬国連を通じた国際協力と今後の課題	福井秀崇 東達也	
15-16	模擬国連 ～沈みかけのツバルを救うために～	久野克海 藤本佳野	
15-17	Let's become the ambassador !	内村姫那 石本里奈	
15-18	模擬国連「世界の気候変動について学ぶ」 U.S.A	藤田彩愛 垂水 凜	
16-01	松山が誇るスイーツ	徳井拓也 西隅勇翔 佐藤一徹 笠井翔洋	
16-02	愛媛の方言教えるけん!!!	二宮勇太 徳永果威 平松祥	
16-03	「Kahoot!」での新たな学び	須佐美岳 石田遼太郎 常松佑希	河合先生
16-04	秋祭り in 愛媛 ～ワッショイ!! ワッショイ!!～	森朱凜 千石莉音	
16-05	Let's introduce Okaido with "Kahoot!"	立花なごみ 菊池ひより	

17-01	愛媛の知名度向上のために ～さよなら41～	杉本和歌菜 鶴久森りこ 磯野由依 岡本歩夏 日野里佳子	野中先生
17-02	伊予弁を使ってロマンチックな旅を!! Romantic Journey with Iyoben!!	庄野日菜 小坂萌恵 越智歩 香西萌々子	
17-03	伊予弁ジャー ～伊予弁で世界に愛媛をアピールしよう～	一宮早希 越智華奈 古手川明里 櫻本采 廣田愛琉 渡辺双葉	
17-04	愛媛の未来作ってこ!!	谷脇麻音斗 今井良輔 岸本丈太郎 永木土道 三好伶弥	
18-01	Hideaway ～松山の知られざる魅力を掘り起こそう～	横山紗音 樽井祐奈 重松亜実 山中江里子 岡田玲奈	瀬野先生
18-02	和×道後 ～外国人に提案する愛媛の魅力～	沖野楓果 池内ひより 河田琳音 越智亮太	
18-03	塩でリフレッシュしよー!	久保一路 武方優奈 小野下美由紀 菅七香 松岡厚道	
18-04	路面de食巡りせん? ～Matsuyamaの魅力を大発信～	上神伽奈 岡田逸誠 勝部愛澄 岡田拓真 山地咲楽	
18-05	パン王国愛媛へようこそ	田村明莉 平松花穂 越智天音 山中元太郎 窪中瑞希	
19-01	愛媛の観光について考える	金柿実日子 亀田美穂 小野真悠子 末光史佳	檀先生
19-02	松山と外国人と観光と	齋藤堇 雪永未来 上野裕翔 西田拓馬 小田陽太	
19-03	How can we increase the number of international tourists?	笹岡佳穂 谷岡沙恵 石橋審平 重見萌絵 越智勇満	
19-04	愛媛インバウンド事情～いい、加減～	一色俊寛 永見颯真 佐野光 垣鏝ころこ	
20-01	これであなたも愛媛人!!	田中宏汰 得居優大 野浪正歩也 西谷央輔	越智先生
20-02	家で作れる地産地消スイーツ	菅野颯太 野中玲那 持主楓可 城戸快斗	
20-03	愛媛の果物消費増加のために	石川遥登 松友野乃佳 久井響介 小倉才和	
20-04	60分で作る郷土料理	西本太一 松井望 大塚祐希 廣瀬加奈	
20-05	愛媛県の欠食率の低下	近藤里南 大西零 岩崎凌空 豊島涼久	

4 内容言語統合型学習 (East CLIL) 【坊っちゃんタイム】

(1) 主旨

英語以外の教科を英語で取り組むことにより、語学力向上と異文化理解の深化をめざし、同時に思考力・判断力・表現力・分析力の育成にもつなげる。

(2) 授業の流れ

授業は毎学期ごとに定めた科目にあわせて、その指定教科の担当教員と英語科教員と外国語指導助手 (Assistant Language Teacher、以下ALT) が協力して行う。2時間でひとつの授業とし、各時間の実施内容は下記の通りである。

1時間目 (英語担当教員・ALT)	2時間目 (教科担当教員・ALT)
<ul style="list-style-type: none"> 学習内容についてのオーラルイントロダクション 言語活動をしながら、本時の単語の理解 本時の教材の内容理解 内容理解のチェックと言語活動 (次時までの課題のサポート) 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容の復習 課題をグループで発表 (聞き手は評価用紙を用いて、発表者のプレゼンのよいところを研究する) 実験もしくはグループワーク 教科担当教員による補足・ALTによる評価 自己評価

(3) 実施内容

	科目	テーマ
1学期	East CLIL Modern Sociology	Economy and Innovation of Technology
	East CLIL Home Science	Food and Health
2学期	East CLIL Japanese	English Haiku
	East CLIL Chemistry	Acid-Base Neutralization Titration
3学期	East CLIL Mathematics	Polygons
	East CLIL Health Science	Virus

(4) 評価

- 生徒たちは学期に一度のEast CLILの時間を大変楽しみにしており、意欲的に取り組んでいる。
- 生徒個々のパワーポイント等を利用して行うプレゼンテーション技能が高まっている。
- 生徒の英語に対する興味・関心が高まり、積極的に英語を使用する態度が養われつつある。
- 当該教科担任も英語を用いることで、生徒の学習意欲を喚起している。
- ALTは他教科の教師との関わりが増え、全教職員とのコミュニケーションが図ることができる。
- 学校全体で取り組む活動として定着している。



II 2年生の取組（本年度対象：80人（GLコース選択生））

以下のような内容で実施。

	内容	カリキュラム名	回数 etc.	日付・期間	人数
1	課題研究	G明教Ⅲ	22回	4/16～3/18	対象者
2	海外FW代替交流	G明教Ⅲ	1回	12/14	選抜
3	E a s t C L I L	坊ちゃんタイム	6授業	通年	対象者
4	保健講座	G明教Ⅲ	3授業	通年	対象者
5	講演	G明教Ⅲ	1回	11/2	対象者

1 課題研究【G明教Ⅲ】

(1) 主旨

生徒の好奇心を刺激するような、幅広いテーマ群についての協働的研究活動を行うことで、地域と世界の持続可能な社会に貢献する意欲と深い教養や問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養の育成を図る。

(2) 概要

以下の講師（13人）をお招きして、課題研究（24回）を実施。12月の1・2年生中間報告会でポスター発表を行い、3月には研究成果発表会にてシンポジウムを開催し発表した。

(3) 課題研究の講師一覧

No	氏名	所属	課題研究テーマ
1	岡本 威明	愛媛大学教育学部	食品の機能性と安全性の評価および調理加工に関する研究
2	竹下 浩子	愛媛大学教育学部	SDGs で社会を変える
3	野澤 一博	愛媛大学社会共創学部	人口減少下における持続可能な地域経済について考える
4	松浦 真也	愛媛大学理学部	北欧と日本の比較分析
5	松浦 一雄	愛媛大学工学部理工学研究科	光を分けて、世界を見よう！
6	井門 俊	愛媛大学工学部理工学研究科	国内外における最先端のVRおよびAI技術
7	羽藤 堅治	愛媛大学大学院農学研究科	食料生産におけるスマート化農業に関する研究
8	小林 修	愛媛大学国際連携推進機構 アジア・アフリカ交流センター	Beyond SDGs 2030 - SDGs から見た世界各国の今と、2030年以降の私たちの暮らし

9	中山 晃	愛媛大学教育・学生支援機構 英語教育センター	地域観光英語：地元の観光地を学び、英語で案内・紹介してみよう！
10	Jonathan Jackson	松山大学講師	Multi-culturalism in Japan
11	芝 大輔	松山市総合政策部危機管理課	松山市の「全世代型の防災教育」事業の企画立案や教育プログラム作り、教育の実践に参画して、皆さんの手で松山のまちづくり・ひとづくりを進めよう！
12	長友 太郎	愛媛県立中央病院新生児内科	赤ちゃん、子ども、母、地域。2020-2021
13	梶原 春菜	元京都大学法学研究科助教	プラスチックごみ問題を考える

(4) 各講師の研究内容（希望調査時の講師から生徒への説明内容）

No. 1

担当者	愛媛大学教育学部 岡本 威明(おかもと たけあき)
テーマ	食品の機能性と安全性の評価および調理加工に関する研究
概要	<p>本講座では、以下の3つの分野を中心として課題研究に取り組んでいきたい。</p> <p>① 食品（飲料も含む）の機能性評価に関しては、生化学・免疫学的手法ならびに動物実験（マウス）等を用いて実験科学的に探究していく。</p> <p>② 食品の安全性評価に関しては、一般細菌ならびに食中毒菌培養寒天培地を用いて検討していく。</p> <p>③ 食品の調理加工研究に関しては、実際に調理を実践しながら、食品中の栄養成分、物性、色調、味覚等の変化を科学的に解明していくとともに、松山市内の飲食店等で販売可能な新規食品（飲料も含む）の開発も視野に入れて検討する。</p> <p>〈過去のテーマ例：一部抜粋〉</p> <p>【A】 柑橘未利用資源による抗アレルギー効果の解明 【B】 シークワサー葉パウダー等を用いた新規健康食品の開発 【C】 フードスタンプ等を用いた食品衛生に関する実験構築と実践</p>

No. 2

担当者	愛媛大学教育学部 竹下 浩子(たけした ひろこ)
テーマ	SDGs で社会を変える
概要	<p>2015年9月に国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されて以来、SDGsの認知度はますます高まっています。朝日新聞の最新調査では、SDGsの認知度は27%に上昇しています。また、電通の調査によると、都道府県別のSDGs認知度は、愛媛県は第3位(21%)と高く、愛媛県の人々のSDGsに対する関心の高さが伺えます。</p> <p>そこで、様々な世代の人にSDGsについての関心をさらに高めることを目標として、その方法を考え、実際に行動に移すことで、高校生として社会に参画してほしいと思います。SDGsについて関心を持ってもらう方法の例として、プロモーションビデオを作成する、SDGsゲーム等を開発する、地域のイベントにブースを出すなどが挙げられます。</p> <p>これからの方法について、計画、実践、評価・検証を行い、持続可能な社会の構築に主体的に関わってほしいです。</p>

No. 3

担当者	愛媛大学社会共創学部 野澤 一博(のざわ かずひろ)
テーマ	人口減少下における持続可能な地域経済について考える
概要	<p>人口の減少にともない、空き家や休耕地の増加、商店街のシャッター通り化、地域消費の停滞、財政の逼迫など地域は様々な課題を抱えています。地域の課題は種々ありますが、本講座では経済的な視点から地域の課題について考えていきます。まず、グループまたは個人の各々の関心をもとに地域の課題を抽出し、研究テーマを設定するところからはじめます。その後、各自の研究テーマに沿って文献やインターネットで情報を集めると同時に、県や政府の各種統計データをもとに分析を行っていきます。場合によっては行政や関係者へのヒアリング調査やアンケート調査を行えたらと考えております。そして、得られた研究結果から考察を行い、課題に関する改善案や地域活性化案などを検討していきます。</p>

No. 4

担当者	愛媛大学理学部 松浦 真也 (まつうら まさや)
テーマ	北欧と日本の比較分析
概要	<p>最近、日本でも福祉、環境保全、男女共同参画、教育などの観点から、北欧についての関心が高まってきています。その一方で、まだまだ「馴染み深い地域」とまではいっていない気がします。</p> <p>この課題研究では、スウェーデンを中心に、北欧諸国と日本とを客観的に比較することで、北欧に対する理解を深めるとともに、日本社会の未来について考えます。具体的に、どんなテーマ、切り口から北欧と日本の比較を行うかは、受講者の皆さんの興味をもとに決めたいと思います。</p> <p>なお、あまり知られていないかもしれませんが、スウェーデンは 1749 年以来、継続的に人口調査を実施するなど、世界有数の「統計大国」です。その上、情報公開も進んでいますので、スウェーデンについての客観的なデータや情報は、インターネットを通じて入手可能です。加えて、北欧と関わりのある様々な立場の方々にも、協力をお願いしたいと思います。</p>

No. 5

担当者	愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻 松浦 一雄 (まつうら かずお)
テーマ	光を分けて、世界を見よう！
概要	<p>青空や海の輝きにもあるように、光の波長ごとの成分や強さを調べることで、遠くにある物質の存在や性質を調べることが出来る。分光法の基礎を学習・体験した後、光が空間を進む際の強度変化について計算する方法を学ぶ。学んだ方法をグローバルな問題に適用し、その解決策について考える。具体的には以下のように進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分光法の基礎 <p>放出される光や吸収される光を波長ごとに分けることで、様々な物質の存在や内部の状態を調べることができる。原理を学んだ後、簡易分光器を設計・手作りし、分光を体験する。</p> 2. 輻射輸送方程式 <p>多くの場合、光(電磁場の一種)は、必ずしも真空でない、吸収・発光・散乱のある媒体中を進む。その際の、光の強度の変化を計算する方法について学ぶ。</p> 3. 身近な地域課題に対する分光法の応用 <p>学んだ方法論に基づいてグローバルな問題を考え、その解決策を探る。</p>

No. 6

担当者	愛媛大学理工学研究科 井門 俊 (いど しゅん)
テーマ	国内外における最先端の VR および AI 技術
概要	<p>近年の飛躍的な計算機能力の向上に伴い、次世代のデジタル技術が急速な勢いで発展している。なかでも、バーチャルリアリティ (VR) や人工知能 (AI) などは、現実社会への影響の大きさから、今後、特に注目すべき最新技術であるといえる。</p> <p>本課題研究では、特に、</p> <ul style="list-style-type: none"> (A) VR の基礎と産業応用 (B) 拡張現実 (AR) (C) コンピュータグラフィックス (CG) (D) AI と画像処理 (E) AI と自然言語処理 <p>などの各技術分野について、最先端技術やその応用等を調査研究する。</p>

No. 7

担当者	愛媛大学大学院農学研究科 羽藤 堅治 (はとう けんじ)
テーマ	食料生産におけるスマート化農業に関する研究
概要	<p>Society5.0 を食料生産分野で実現するためのスマート農業について研究を行う。最先端の食料生産について、データサイエンスに基づく IoT 利用、ビッグデータ、人工知能などについて実験研究を行う。</p> <p>特に植物や環境のデータ収集においては、ドローンや熱画像などの市販の計測装置の利用と、自分たちでラズベリーパイを用いて作成する環境や植物のデータ計測装置などを用いて実践的な研究に挑戦させる。</p>

No. 8

担当者	愛媛大学国際連携推進機構 小林 修 (こばやし おさむ)
テーマ	Beyond SDGs 2030 - SDGs から見た世界各国の今と、2030年以降の私たちの暮らし
概要	<p>国連加盟国を中心に 2030 年までの達成を目指す世界共通のグローバル目標 SDGs (Sustainable Development Goals)。本課題研究では、世界各国の持続可能性の現状について、SDGs 達成度指数、人間開発指数、エコロジカル・プリントなどの指標を調査研究することから探る。調査を通じて、2030年以降の暮らしに関して、持続可能性が最も低くなるシナリオ、最も高くなるシナリオ、そしてその中間シナリオを描くことを試みる。その上で、世界がより持続可能となるために、今私たち自身にできること、すべきことについて提案する。</p> <p>この課題研究を通じて、以下の力を身につけることをめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SDGs のターゲットと評価指標について説明できるようになる。 2. 世界各国の持続可能性を評価する指標を 3 つ以上説明できるようになる。 3. SDGs の達成に貢献する人になるために必要な高校での学びについて、具体的な目標を立てられるようになる。 4. 高校卒業後の進路と自らの将来の暮らしについてビジョンを描き、説明できるようになる。

No. 9

担当者	愛媛大学教育・学生支援機構英語教育センター 中山 晃 (なかやま あきら)
テーマ	地域観光英語：地元の観光地を学び、英語で案内・紹介してみよう！
概要	<p>「インバウンド」というキーワードの下、外国からの観光客の方々をおもてなしする様々な取り組みが、愛媛県内の各観光地で盛んにおこなわれています。</p> <p>この課題研究では、単に地元の観光地についての英語表現を学ぶだけでなく、外国人観光客をおもてなしする際の様々な課題について調査し、また、外国人に対して、英語でガイドを行うことの意義やその在り方についても検討します。</p> <p>これら一連の学びを通して、地元・松山の地域社会が抱える観光に関する課題を、自分自身の課題として認識し、高校生の視点で、その解決にどのように貢献できるか探究することを目的とします。</p> <p>【予定している内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山城についての英語でのプレゼンテーション ・道後温泉周辺についての英語でのプレゼンテーション ・松山市内の観光資源についての英語のクイズ作成 ・オーバーツーリズム等の観光公害に対する取り組みについての調査 ・(日程が合う場合のみ)大型客船寄港に伴う英語でのボランティアガイド

No. 10

担当者	<p>Belongs to: Lecturer at Matsuyama University</p> <p>Name: Jonathan Jackson</p> <p>Jonathan Jackson is from Leicester in the UK, where he worked originally as a music teacher. He later trained to teach English before coming to Japan in 2010. His first job was in an conversation school in Matsuyama and he went on to teach in an English-only pre-school and a few more conversation schools in the city. Since 2014 he has been teaching English at Matsuyama University.</p>
テーマ	Multi-culturalism in Japan

概 要	<p>This workshop seeks to answer questions about Japanese society in the future.</p> <p>For example:</p> <ul style="list-style-type: none"> • With its decreasing population, can Japan survive as a mono-cultural society? • How prepared is Japan to adapt to a multi-cultural society? • What are Japanese people's present attitudes to people from other countries? • Does language education – both Japanese, for newcomers, and English, or other languages, for Japanese people – need to be improved? • Would multi-culturalism harm Japanese culture? • What are the benefits (economic, social, cultural) of multi-culturalism? • What is the history of multi-culturalism in the past in Japan (for example, Chinese influence, the 'Christian Century', towns where many people from other countries live now, like Isesaki in Gunma)?
-----	--

No. 11

担 当 者	松山市総合政策部危機管理課 芝 大輔 (しば だいすけ)
テ ー マ	松山市の「全世代型の防災教育」事業の企画立案や教育プログラム作り、教育の実践に参画して、皆さんの手で松山のまちづくり・ひとづくりを進めよう！

概 要	<p>松山市では、市長公約である「小学生から高齢者まで切れ目のない防災リーダー育成」を進めるため、東京大学、愛媛大学などと連携協定を締結して、産官学民のオール松山（下記資料参照）で全世代型の防災教育ができる環境づくりや仕組みづくりをおこなっています。</p> <p>松山市でスタートした全国にも例のない取組に、あなたも参画できる貴重な機会です。ぜひ、皆さんのアイデアや実践力を松山市政に活かしてみましよう！</p> <p>本課題研究では、災害や防災に関する基礎的な知識を学び、市の事業を研究して、あなた自身の発想やアイデアを市の防災教育事業に反映させていくことを目的としています。皆さんが考えた防災教育のプログラムを、皆さん自身の手で、小学生・中学生や地域の人たちに教えていくことも可能です。</p> <p>企画立案や防災教育の実践を通して、行政の事業とはどういうものなのか、どのような組織が連携して、まちづくり・ひとづくりが進められているのか、様々な職域や世代の方々と一緒に学ぶことができます。</p> <p>そして、このような取組を、国連を通じて東南アジア諸国をはじめとする、世界に広げていきたいと考えています。</p>
-----	--

オール松山で命を守るひとづくり!! 全世代型防災教育について

～小学生から高齢者まで! 切れ目のない防災リーダー育成のために～

★7月豪雨からこれまでの経過

2018年7月6, 7日
7月豪雨で高浜地区をはじめ市内で甚大な被害が発生。地域防災力強化を!



2018年10月1日
愛媛大学防災情報研究センターに職員(男女各1名)を派遣し7月豪雨の住民対応を研究



2019年3月19日
防災教育プログラムの開発と防災リーダー育成などに關する防災連携協定を松山市×愛媛大学×東京大学で締結



2019年5月31日

【松山市防災教育推進協議会設立】

愛媛大学×松山市×東京大学連携協定を軸に「産官学民」が連携して全ての世代に防災教育を行う全国初の全世代型防災教育の取組をスタートします!

松山市防災教育推進協議会構成メンバー



2019年9月～

愛媛大学防災情報研究センターに「松山防災リーダー育成センター」設置

様々な対象や世代に応じた防災教育の研修プログラムを作成

- 小中学生教育プログラム
- 高校生教育プログラム
- 地域防災士研修プログラム
- 教職員防災研修プログラム
- 産業界BCP講習プログラム
- 福祉関係者研修プログラム

小中高の教育現場でレベルに応じた防災教育を実施
教職員や企業、地域など対象に応じて防災教育を実施
全世代、切れ目なく防災リーダーを育成!

No. 12

担当者	愛媛県立中央病院新生児内科 長友 太郎 (ながとも たろう)
テーマ	赤ちゃん、子ども、母、地域。2020-2021
概要	本講座では、赤ちゃんが生まれ育つ地域社会について、周産期（赤ちゃんが生まれる前後の時期）の医療の観点から学んでいきます。実際にいろいろな場所に足を運んで赤ちゃん、子ども、家族と会い、その経験をモチベーションとしてこれからの世代が解決していくべき社会課題について一緒に考えていきます。研究テーマの例を挙げると、子育て世代包括支援、周産期メンタルヘルス、母乳育児支援、出生前診断、遺伝性疾患、先天異常、医療的ケア児、療育、がん・生殖医療、胎児の栄養、里親制度、周産期医療ネットワークなど、ひとりひとりが興味のあるテーマを選び、それに対して自分たちの足元から何ができるか、何をすべきなのか、について考えます。皆で積極的に議論しアイデアを出し合いながら楽しく有意義な時間を過ごしましょう。

No. 13

担当者	元京都大学大学院法学研究科助教 梶原 春菜 (かじわら はるな)
テーマ	プラスチックごみ問題を考える
概要	<p>本課題研究では、プラスチックごみ問題の原因や経緯を調べ、解決策を探ります。</p> <p>前半はグローバルな視点から、後半は地域（ローカル）の視点からプラスチックごみ問題を考えます。</p> <p>前半は、プラスチックごみを手掛かりに、「利害の対立をどのように調整するか」という問題を様々な側面から考えてみたいと思います。環境問題には、世代間の対立、南北間の対立（発展途上国と先進国）など、様々な利害の衝突が見られます。例えば、将来世代に良好な環境を残すことは重要な課題ですが、現在快適さを楽しむ私たちは将来世代のために、自分たちの利益をどの程度犠牲にする用意があるのでしょうか？また、日本をはじめ先進諸国は雑多なプラスチックごみを東南アジアなどの発展途上諸国に輸出し処理してもらっていますが、近年これらの諸国がごみの引き受けを拒否する事態が生じています。先進国のリサイクルを支えるために発展途上国に負担を強いるやり方は限界に来ているのです。その一方で、アメリカは世界最大の使い捨てプラスチックの排出国ですが、問題の解決に消極的です。どうしたらアメリカを問題の解決に関与するよう促すことが出来るのでしょうか？国家や個人の博愛主義的な行動に頼らず、国家や個人は自己の利益を追求する利己的なものであることを前提として、どうすれば問題の解決が可能なのかを皆で考えます。具体的には模擬会議などの形式を利用することを考えています。講師は国際関係論などの知見や過去の事例についてレクチャーを行い、問題を理解するツールを提供します。</p> <p>後半は、愛媛県におけるプラスチック問題の解決を自分たちの関心のある側面から考えてもらいます。今年度（2019年度）の1年生の課題研究で、同じタイトルでその現状や解決策について様々な側面から考える研究を行っていますが、次年度の本研究では、日本や愛媛県の特性を生かした問題解決を考えてもらいます。日本のプラスチックごみ問題にはこれまでの歴史的経緯や制度的な問題が存在します。日本でプラスチックバッグの規制が遅れている背景にはどのような要因があるのでしょうか？また日本では他の先進諸国に比べて若者の環境運動が盛り上がらないとの指摘がなされますが、仮にそれが事実であるとして、デモ運動による政策形成への影響という形以外に、プラスチックごみ問題の解決を進める方法はないのでしょうか？受講者には文献を調べるほか、関係機関に話を聞きに行き、（可能であれば）具体的な解決方法を考えてもらいます。柔軟な発想による主体的な取り組みを期待しています。</p>

(5) 課題研究の中間発表

課題研究の中間発表として、研究結果を生徒各自で（あるいはグループごとに）ポスターにまとめた。以下がその作成したポスター一覧である。（57枚）発表の詳細は『IV. 成果の普及』の「1 1・2年生合同中間報告会」にて記載。

	番号	タイトル	発表者	講師
1	01-01	骨を作る骨芽細胞の伸展に及ぼすビタミンの影響	城戸椿	岡本
2	01-02	抗アレルギー効果をもつ食品成分の探索	大西歩 永田 和子	岡本
3	01-03	黒くなる果物、ならない果物、なる部分、ならない部分	菅七海	岡本
4	01-04	食品の調理加工研究と地域活性化への取組	安藤菜穂 池田光希 菊池光 林奈々子	岡本
5	02-01	広めよう SDGs By movies	神野小雷 竹田彩 加藤彰悟 玉井健登 河津遥架 福田雛乃 乃万智美 芳野亜美	竹下
6	03-01	若年層の進学・就職に伴う人口流出	隅田真央	野澤
7	03-02	久万商店街から見る地域活性化への道	小倉歎大	野澤
8	03-03	四国新幹線は地域を救うのか～四国新幹線開通後の未来を視る～	柚山道明	野澤
9	03-04	おかえり。伊予市の移住。	檜垣京吾	野澤
10	03-05	地域おこし協力隊事業の有用性に関する研究	野村隆志	野澤
11	04-01	北欧のスポーツ モルック	丸山真司	松浦真
12	04-02	スウェーデンと日本 コンシューマーの意識	楠田梓乃	松浦真
13	04-03	北欧家具と日本	石川太一	松浦真
14	04-04	北欧の教育から日本に生かせること	大西真由	松浦真
15	04-05	北欧と日本の架け橋に	菅原菜々美	松浦真
16	04-06	スウェーデンの街から学ぶ 人々とアートの深いつながり	平美奈	松浦真
17	04-07	北欧・東南アジア・日本の働き方の比較	月岡菜々	松浦真
18	04-08	印象語から分析する北欧デザイン	井上美咲	松浦真
19	05-01	光と糖度	橋村瑞希	松浦一
20	06-01	リアルで緊張感のある避難訓練へ ～複合現実(MR)の活用～	井出麻友	井門
21	06-02	VRがアーティストに革命を起こす！？ ～芸術を「体験する」時代へ～	山下あすか	井門
22	06-03	ディズニーの魔法のかけ方 ～XRを使って～	吉村萌夏	井門
23	06-04	神の手を借りたい医療現場に革命を！ ～VR・AR・MRの多角的な活用法～	大野竣平	井門
24	06-05	VRが生み出す『ポケモンとの触れ合い』	谷口洸	井門
25	06-06	まるでSF！VR・3Dホログラムでめざす格差レス社会	樽茶大生	井門
26	06-07	AIとVRによる絵画の楽しみ方 ～絵画の世界に入り込もう～	新田佑次郎	井門
27	07-01	生長したい植物vs. 成長阻害剤	山口絵里奈 石崎芽唯 楠田和可	羽藤
28	08-01	私たちは地球を増やすことはできない	伊賀上陽音	小林修
29	08-02	性差別と貧困の関係	篠崎紀華	小林修
30	08-03	ジェンダー平等=Well-being?	杉野若葉	小林修
31	08-04	幸せにあり方～クリーンなエネルギーを皆に～	大谷安奈	小林修
32	08-05	NO HUNGERの実現を目指して	高須芽依	小林修
33	08-06	豊かな国の貧しい心～ノルウェー、日本、南スーダンから考える～	井上藍	小林修
34	08-07	EQUALな世界にするためには	野上朔佳	小林修
35	08-08	国の治安が命を決める・・・？	矢野菜子	小林修
36	09-01	愛媛で女子旅してみんけん!!	明比かさね 川吾奈々子 竹縄あゆみ 三原心春	中山
37	09-02	School Trip	進藤ひより 玉井志歩 藤田沙羅 松本まどか	中山
38	10-01	Are you discriminating or just making a distinction?	松岡美響	Jonathan
39	10-02	Do Japanese students hold stereotypical views about the Chinese?	坪内琴乃	Jonathan
40	10-03	How can Japan support the lives of immigrants?	渡邊麻梨亜	Jonathan
41	10-04	Language and the Way You Think	池内優葉	Jonathan

	番号	タイトル	発表者	講師
42	11-01	未知の災害からの脱出～真実を見破らないと、死ぬ～	蒲池純奈 竹ノ内悠	芝
43	11-02	あ、そうだ、、、サバ缶買おう。	末富りっか 中川優依	芝
44	11-03	鬼滅の刃から防災・意識改革	三浦ほのか 山口真那	芝
45	12-01	里親制度+子どもの最善の利益	木下輝来	長友
46	12-02	周産期と生命倫理	仙波佑一朗	長友
47	12-03	1/1000を救いたい。日本の医療	小笠原朋夏	長友
48	12-04	未来の子どもたちのために～里親改革 in the world～	楠本菜央	長友
49	12-05	20.5%	濱田和花 河端愛海	長友
50	12-06	出産=幸せ?～本当に幸せな周産期を考える～	堀江杏	長友
51	12-07	出生前診断とダウン症の子どもたち	松井彩夏	長友
52	12-08	赤ちゃんの為の最善の決断	村上佳穂	長友
53	12-09	着床前診断の未来～towards the future～	村上由羽	長友
54	12-10	障がいとその支援～障がいへの理解が深まる社会を目指して～	山名里沙	長友
55	12-11	打たせてほしかったワクチン	渡部愛生	長友
56	13-01	脱プラの広がりとは可能か?～企業からみる包装プラスチックの現状～	谷本遼汰	梶原
57	13-02	「プラスチック」循環型社会をつくる	松下卓央	梶原

(6) 課題研究の成果

3月の研究成果発表会では、課題研究の成果をふまえて、シンポジウム形式での発表・議論を行った。議事録は『IV. 成果の普及』の「3 令和2年度研究成果発表会」に記載。

2 海外フィールドワーク代替交流【G明教Ⅲ】

(1) 主旨

課題研究の充実を目的として、フィールドワークを実施し、滞在先で研究経過の発表や意見交換を行う。同時にフィールドワーク先の現地大学・高校との交流学习を行い、英語での本校・愛媛・日本の紹介や成果発表プレゼンテーション、ディスカッションを行い、高度な語学力・コミュニケーション能力、思考力・判断力・表現力・分析力の育成を図る。

(2) 実施内容

年度当初は、8月3日(月)～8月7日(金)の4泊5日でフィリピンを訪問する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、10月19日(月)～10月23日(金)に変更し、生徒に参加希望をとり選考の結果8名の参加を決定した。しかし、海外渡航中止勧告が継続していたために、オンラインでの交流に変更して実施した。

実施日	相手国	生徒数	交流先
12月14日(月)	フィリピン	8	フィリピン大学附属高校

交流内容

- 09:10～09:20 Getting to know you activity (Philippine students prepare an activity that Matsuyama Higashi High School and UPIS students could enjoy)
- 09:20～09:30 Presentation of school and culture of Matsuyama Higashi High School
- 09:30～09:40 Question and answer
- 09:40～09:50 Presentation of school and culture of UP Integrated School
- 09:50～10:00 Question and answer
- 10:00～10:10 Free time for more interaction

生徒感想:

- ・本当は現地に実際に行ってフィールドワークをしたかったのですが、フィールドワークに変わる交流会に参加できたことをまず感謝したいです。交流会は1時間ほどでとても短かったのですが、フィリピンの文化や学校生活などをたくさん知ることができました。今回、改めて英語の大切さを実感しました。ところどころ聞き取れなかったときもあり、普段の英語の授業をより大切にしようと思いました。また、自分から積

極的にネイティブと話すチャンスを見逃さず、行動していきたいです。私が日本にいて調べて分かることはとても限られていると思います。なのでやはり現地に行ったり、オンラインでも現地の人と話すことが重要だと感じました。自宅から参加していたフィリピンの学生の様子から、コロナの現状も実感しました。コロナが収まれば、必ずフィリピンに行きたいです。

- 今回の交流は当初思っていた形とは全然違い、オンラインになってしまったけど、とても貴重な経験ができました。フィリピンについての説明を、いろいろな内容で多くのことを紹介していただきすごく楽しかったし、フィリピンの楽しそうで魅力にあふれた素敵なところをたくさん発見することができました。また、日本のことについても軽くではあったけどしっかり紹介できたので良かったです。一方で、自分の英語力の低さであったり、消極的な部分を多く感じました。思っていることがあってもそれを英語にして表すことができないからそれによって積極性もなくなってしまうように感じます。また、画面越しになると実際に会って会話をするより引いてしまうところがありました。もっと、英語に触れる機会を増やして、楽しくたくさん交流ができるようになりたいと強く思いました。前々からずっとフィリピンに行きたいという思いが強かったので、今回行けなかったのは残念ですが、必ず行きたいと思います。

- オンライン交流を終えて、今までよりフィリピンに親しみや興味を持つようになりました。UPIS の生徒は全員きれいな英語の発音でした。教えてもらったタガログ語を使って話せる機会がまたあったら良いなと思いました。また、若者のトレンドの話をしたときに、日本の『鬼滅の刃』やアーティストの LISA さんがフィリピンでも流行っていると知って驚きました。今年は、実際に現地に行くことはできなかったけれど、コロナ情勢が落ち着いて安心して海外に行けるようになったら訪れてみたいです。



- フィリピンの生徒さんはみんな活発で明るく積極的であるということがパソコン越しでも伝わってきました。英語という同じ言語を使っているけど、その言語を使う姿勢や態度によって、コミュニケーションのあり方が変わってくるのが分かりました。私は引っ込み思案で、頭の中でずっと考えてからしか発言することができないので、この姿勢を見習ってみたいです。また、フィリピンの高校の様子について説明してもらったことで、日本との価値観の違いや文化の違いを等身大の目線から知ることができました。私は、英語を話すことに苦手意識がありました。しかし、この交流を終えて、英語を前向きな気持ちで使えるようになりたいと思えました。

- UPIS との交流はすごく緊張したけどすごく楽しかったです。私は、英語を話すことに全く自信がありませんでした。でも、今回の交流を経験して、上手に話せなくても、一生懸命伝えようとして話せば何とか伝わって楽しく話せることを学びました。英語を話すことに対して少し自信ができました。でも、フィリピンのみんなはすごく英語が上手で私たち日本人ももっと頑張らないといけないと感じました。フィリピンのプレゼンを見て、フィリピンの料理をすごく食べてみたいです。私が今回の交流で思ったことは、フィリピンの人のプレゼン力の高さです。スライドもすごいし、話し方も上手で、楽しそうに話していて、人を引きつけられるプレゼンだったと思って感心しました。自分は堂々とできないときがあるので、自分もできるように努力していきたいです。



- 最初に思ったことは、タガログ語が難しいなと思いました。日本語とも英語とも違う文法の言語の習得はとても難しそうで、興味深いです。今後も交流を続けて、タガログ語の勉強もしていきたいです。

3 内容言語統合型学習 (East CLIL) 【坊ちゃんタイム】

(1) 主旨

様々なテーマについて英語で学ぶことにより、語学力の向上をめざし、同時に、思考力・判断力・表現力・分析力の育成にもつなげる。

(2) 授業の流れ

オンライン英会話を利用し、レッスンで取り上げる内容にあわせて、チューターとフリートークができるように関連事項の充実を図る。また、取り上げた内容やキーワードを英語で説明できるようにし、さらにその内容についてショートエッセイを書き、振り返りとする。2時間でひとつとし、各時間の実施内容は下記

の通りである。

1時間目 (英語担当教員)	2時間目 (英語担当教員)
<ul style="list-style-type: none"> ・レッスン内容についての単語の理解 ・教材の内容理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピン人チューターとのオンラインレッスン ・レッスンのテーマに関するエッセイを書く ・自己評価

(3) 実施内容

	科目	テーマ
1学期	East CLIL on the Global Issues	How to make Japanese Dish
2学期	East CLIL on the Global Issues	Science / Poverty/ Education / Hunger / Welfare Technology / Culture / History / Women' s right
3学期	East CLIL on the Global Issues	Medical care / Water and Sanitation / Working Environmental problem / Energy / Business

(4) 評価

- ・ネイティブスピーカーと個別に話をしたことがない3割の生徒にとっては初めての体験ができた。
- ・SDGsに関わる内容を英語で話すことで語彙力の強化につながった。
- ・英語力の向上につながったと感じる生徒が圧倒的に多数となった。特に自分の意見を述べる力・および相手の意見や質問を聞き取る力が付いたと感じる生徒が多かった。
- ・回数を重ねるごとに英語を「聞く」ことへの耐性が付いてきたと感じる生徒が増えた。
- ・音読などのスピーキングに取り組む学習時間が増えたと感じる生徒が増加した。



4 保健講座

(1) 主旨

海外に渡航する際に事前に知っておくべきこと、現地で病気にならないために必要なこと、もしも病気になってしまった場合の対処方法、帰国後に注意すべきこと等を学ぶことで、海外で健康を維持し、安全に有意義な活動ができるようにするためのスキルを身に付ける。また、グローバルな人材として活躍するために必要な感染症に関する知識やその対策について学び、国内、海外を問わず健康を維持し、安全に有意義な活動ができるようにするためのスキルを身に付ける

(2) 実施内容

以下の2講座を外部講師に依頼し実施した。また、残り1回を本校保健体育科の教員が担当し実施した。

実施日	講演内容	講師
6月15日(月)	海外研修・留学のための危機管理	愛媛大学国際連携推進機構 国際教育支援センター 准教授 高橋 志野 氏
10月19日(月)	グローバルに考える感染症のはなし	松山市保健所 医師 中村 清司 氏 保健師 宇都宮彩子 氏

①「海外研修・留学のための危機管理」

講師：愛媛大学国際連携推進機構国際教育支援センター 高橋 志野 准教授

場所：本校 地歴公民教室・化学講義室・化学実験室

概要：安全で安心な海外派遣・留学のためには、日本人の危機意識の低さを認識する必要がある。考えられるリスクとしては、窃盗・強盗・暴動・テロなどがある。安全確保のための情報源（外務省海外安全ホームページ・感染症情報センター）や外務省在外公館等とのネットワークを駆使して危機判断の情報収集源とレベルを上げなければならない。

生徒感想：

- ・最近では身近になっている留学も、いざ行ってみると自分が予想していなかったことが起きたり、災害にあってしまったりする場合もあるので、その事態を日本で考え、対処法を決めて理解しておくことが大切であると分かりました。
- ・外国での常識と日本での常識が全く違うということが印象に残りました。日本人を海外の方が見たときの印象が「緊張感がない。危機管理能力がない。無防備・油断しすぎ」といったものに驚きました。私たちが住む日本・松山はすごく安全・安心な場所です。そこで生活していると海外に行ったときに油断していると思われて狙われる可能性が高いのだと思いました。事前の情報収集や海外に着いた瞬間に「海外モード」に切り替えることの大切さがすごく分かりました。
- ・海外でも一人ではないということが分かりました。安全確保のための情報源とネットワークさえ確保しておけば、国の機関ともつながれるし、家族との定期連絡を常にするすることで、離れていても安心した留学生在活が送れるのではないかと思います。
- ・将来、海外に行きたいと考えていたので大変参考になりました。留学には夢や希望があり、とても楽しみですが、大きな危険や不安もあることを改めて感じました。自分は大丈夫だと考えずに万が一のことを考えて、事前の準備を徹底的にしておくことが必要だと分かりました。
- ・今回海外へ行くときの注意点や心構えなどたくさんを知り、海外に行ってみようという気持ちを高めることができました。
- ・「自分の価値観が100%ではない。相手には相手のコミュニケーションがある。相手の価値観に100%合わせる必要も、自分の価値観を100%合わせてもらう必要もない。寄り添い合うことが大切」というお話がありましたが、とても納得し大切な考えだと思いました。コミュニケーションをとることを目的に行っても、そのこと自体にストレスを感じてしまうこともあるかもしれません。相手との距離感を大切に、価値観を互いに寄り添い合い、楽しむことを大切にしたいです。



②「グローバルに考える感染症のはなし」

講師：松山市保健所 中村 清司 医師、宇都宮 彩子 保健師

場所：本校 アリーナ

概要：感染症に対する基本的な知識を講義していただいた後、新型コロナウイルスや、愛媛県でもマダニが媒介し感染例が毎年報告されているSFTSウイルスについて、また、海外で気をつけるべき感染症について、人形劇を用いて分かりやすく教えていただいた。

生徒感想：

- ・改めて「自分の健康は自分で守る」ことの大切さについて学ぶことができた。感染症には三大要因があり、病原体、感染経路、感受性のある宿主の3つである。特に病原体の中には、ウイルスや細菌、原虫やクラジミアなど様々なものがあるが、どれも小さく、ものによってはマスクも簡単に通ってしまうために注意しなければならないと感じた。
- ・今まで知らなかった感染症について驚くことがたくさんありました。一見美しい湖に見えるところでも住血吸虫がいると聞き、安易に水には入れないなと思いました。また、FORTHというサイトを見て、海外の感染症についても調べてみたいと思いました。私は、将来医療界で働きたいと思っています。コロナ禍を救えるのはやはり医療の力です。私も将来、中村医師のようになりたい。
- ・今日、新型コロナウイルス感染症への対策として、マスクや手洗い、消毒を徹底していますが、新型コロナウイルスに関わらず、感染症対策には必要だと思いました。また、住血吸虫症やSFTS症という感染症を初めて知りました。自然は素晴らしいもので、リフレッシュには欠かせないものですが、それと同時に十分に予防しなければ危険が伴うということなので、対策をしていきたい。
- ・世界には自分の知らない恐ろしい感染症が数多くあるのだと思いました。将来、発展途上国へ行って何かしたいと思っているので、アフリカなどの感染症のリスクが高い地域に行くときには今日教えていただいた「FORTH」を活用したいです。



- ・SFTS について最も興味を持ちました。愛媛県での感染者も多く驚きました。今まで森やあぜ道を通るときに、半袖、半ズボンの時が多かったが本当に危険なんだということが分かった。無知であることは時に人を危険な目にあわせます。自分でしっかりと感染症について学んでいきたいと思いました。
- ・感染症は世界規模なもので、一方保健所は地域に根ざしたいわゆるローカルな存在だと思っていました。しかし、今回お話を聞いて両者は密接に関わっており、また感染症は地域的な側面もあるということを知りました。また、グローバル化によって特定地域の感染症が別の地域に持ち込まれてしまうこともあるということで、感染症対策にも世界規模で取り組む必要があると思いました。現在、コロナウイルスで感染症への意識が高まっていると思います。これを一つのチャンスと捉えて他の感染症についても興味と知識を育み健康な生活を送っていききたいと思いました。
- ・グローバル化で世界はいくら広がっても自分はたった一人であり、自分の健康は自分で守ることが大切だと分かりました。住血吸虫病やSFTSなど、私が知らない病気はたくさんあることが分かりました。事前の知識がなければ、知らないうちにかかってしまっているという危険があり、知識不足は恐ろしいと感じました。
- ・新型コロナウイルスが収まらない社会、世界で私たちは学んで知識を蓄え、自ら判断し行動していくことが大切だと思いました。自分がかかっているかもしれないという気持ちで、手洗い、マスクの着用を心がけ、一刻も早く世界の人々が元の世界に戻ることができれば良いと思いました。
- ・現在 COVID-19 の前代未聞のパンデミックにより世界は混乱に陥りました。初期は、ロックダウンになり、全員がマスクを着用して気を付けていましたが、最近ではGo to キャンペーンもはじまり、緩和されて危機感がなくなりかけていると思います。ワクチンができるまでは注意し続けたいです。また、間違えても感染者の方を差別することがないように「自分だったら」と考えて行動したいです。今後、このようなパンデミックが起こったとき、今回のことを踏まえて、迅速かつ適正な動きがとれるように、地域協働で一つのマニフェストやそれにあたるものを作ってはどうだろうかと思いました。
- ・感染症の問題はたくさんある。新型コロナウイルス、エイズ、ハンセン病のような差別の対象になっている病気もある。意識をしてかからないように予防もちろん大事だが、かかった人に偏見の目を向けない、偏見の目を向けることを許さない、差別や偏見を他人に発信しないという、人として守らなければならない倫理的なことは絶対に守りたい。世界に出て行くために、自分の身を守り他人の人権を侵害しないような行動をこのコロナの騒動が終わっても、いつも心がけておきたい。

5 講演

★未来のふる里産業人養成講座（松山市連携事業）

言葉、文章は君の夢、希望をかなえる力の源泉—コミュニケーション、人間関係の基礎—

（講演者：有限会社沼田事務所 代表取締役 沼田 憲男 氏）

- ①主旨 グローバル化や少子高齢化など社会環境が大きく変化する中、どの世界に出ても活躍できる社会人、産業人を目指して、時代に対応した新たなキーマンとなり得る人材の育成を図る。
- ②内容 「言葉、文章には魔力が潜む」「人に通じない文章の氾濫」「寺子屋、リベラルアーツが日本、欧米の文化、文明を築く」「Globally-minded Talent になろう」「言葉、文章は人格である。自分を大切にしよう」の5つの内容について講義いただきました。文章を書くためには知識と技術が必要であり素養を身に付けること、グローバル化には英語が重要であるが言語の基本は母国語であり、母国語の勉強をおろそかにしないこと、文章を何度も書き消さずに推敲することなどの大切さを教えていただきました。



③生徒感想

- ・「人間の考える原点は言葉と文章である」という言葉が最も印象に残った。数学の勉強をするとき、数式だけを理解していても問題は解けない。解法をまず考えそれによって適切な公式を当てはめていく。そして、その解法が相手に分かるように言葉を使う。つまり、言葉や文章に不慣れだと考えたり、相手に伝えたりすることができない。生きていくには全ての基盤である国語力が欠かせないと理解することができた。
- ・「言葉や文章は人格である」ということも心に残った。普段何気なく使っている言葉は、私の人間性を表していて、相手もそれを受けて私と接している。だから、他人とより良い人間関係を築いたり、信頼

されたり、お互いの個性を認め合ったりするために、言葉の一つ一つを大切にしてお過ごし、国語力や人間力を高めていきたい。

- ・「言葉、文章は考える原点である。これが意味するところとしては、人間が思考するためには、言葉、文章という知恵が必要であり、それに頼って生きていくということだと思います。つまり、言葉や文章が洗礼されていないと思考が繋がらず、進歩しません。逆にこれを鍛えていくことが「素養」を身に付けることであり、言葉や文章が「魔力」を持つことだと思います。
- ・デジタル化が進む現在、言葉や文章は自分の指を使って書くという原点に立ち返らされました。毎日の課題で手書きすることを疎かにしたくないと思いました。今日の講演で学んだ「指は外につけた脳である」ということを思い出すようにしたいです。
- ・「母国語ができないと外国語ができない」という言葉が印象に残りました。英語の学習には常に力を入れているが、母国語である日本語の勉強は疎かになっていったと思います。日本語は難しい言語の一つであるとよく聞きます。せっかく日本人に生まれたのだから、その日本語を完璧にしたいと思いました。
- ・言葉は人に気持ちを伝えるためのものではなく、その相手の心を動かすものであり、過去と今、未来をつなぐものでもあると分かりました。
- ・今は、スマホやパソコンで簡単に文章を作ることができるが、紙に書き推敲することが大切であるということが分かりました。文章を見比べながら、さらによい文章に練り上げていくことが、自分の考えを深めることにもつながり、語彙力を高めることがもっとたくさんの表現の仕方を習得できるようになるということで、自分自身の世界が広がっていく気がしました。
- ・「人に信頼され、かわいがられる人が賢い」。その人は、自分の言葉、文章を常日頃から気にしているのだろう。だから賢い。私も常に自分の発する言葉、文章に注意を向けられるような賢い人間になれるように努力していきたい。
- ・言葉や文章を良くするのも悪くするのも自分次第であるということなので、しっかりと考えて言葉を書きたいと思いました。また、文章を書くときには素養が必要だと言うことを知りました。確かに、知識や一般教養がなければ人を納得させる、心を動かす、心に通じる文章は書けないと思いました。学校の勉強だけでなく、それ以外の学びでも素養を身に付けていきたいです。

Ⅲ 留学

	内 容	対象者人数
1	本校の留学促進に向けた取組	全校生徒
2	留学生の受け入れ	2人

1 本校の留学促進にむけた取組

(1) 「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース」への参加説明会

主に短期の留学希望者を対象に「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム 高校生コース」参加に向けての説明会を実施した。(12月、3月)当コースは自分が希望する留学プログラムを申請して審査を受け、採用されると奨学金を出してもらえするという、ユニークなものである。既定の留学プログラムが用意されていてそれに申し込む一般的なものと異なるため、その周知と採用に向けてのポイントについて説明した。説明会には多くの生徒が集まったが、後に本年度第6期の採用は中止となった。2年生は昨年度1月末に締め切りであったため、10名が書類を提出していた。1年生は4月末に締め切りで、11名が書類を作成したが、提出直前に採用中止が決まり、提出に至らなかった。

(2) 春休み語学研修プログラム(アデレード語学研修代替事業)

① 事業主旨

グローバル化が加速する21世紀に求められる、豊かな語学力・コミュニケーション能力・異文化体験をもつ「グローバル人材」を育成するため、夏休みの海外語学研修を7年前から行っている。主に初めて海外に行く生徒を対象に募集をかけ、海外を経験することにより、帰国後もますます語学学習に熱心に取り組んだり、さらには海外への留学や進学を目指したりする生徒を育てる。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、夏季の実施を延期し、3月に渡豪できるよう準備していたが、それもかなわず中止となった。現地での研修に変わるものとして、研修予定であったフリンダース大学(IELI(Intensive English Language Institute))とオンラインプログラムを作成し、実施した。

② 事業概要

フリンダース大学 (Flinders University) I E L I (Intensive English Language Institute) スペシャルプログラム

- ・ 2時間の授業と1時間の予復習の時間の5日間のコース
- ・ 語学力の強化とオーストラリアの文化体験 (ホームステイ生活体験やアデレードの観光体験など)

③ 代替プログラムの実施内容

期 間：2021年3月22日(月)～3月26日(金)

研修元：Flinders University の I E L I

生徒数：34人(本校20人、宇和島南中等教育学校より14人、計34人)

内 容：

3月22日(月)	語学研修	Life Skills (Homestay)
3月23日(火)	語学研修	Australian Culture
3月24日(水)	語学研修	Friends and Community
3月25日(木)	語学研修	Out and about in Adelaide
3月26日(金)	語学研修	Studying in Australia

2 留学生の受け入れ

(1) Hinako LYDEN (ヒナコ ライデン)

国籍：アイルランド

本校での履修期間：2020/6/4～2020/8/7

履修内容：2年3組に在籍。期間中は同組の生徒と同様に授業に参加

部活動：バレーボール部

担当教員の評価

昨年度本校に留学しており、新型コロナウイルス感染症の影響でアイルランドへの帰国が延期となったため、再度本校で学ぶことになった。そのため、昨年度からの友人が多く、彼女の登校初日から歓迎ムードであった。そして、すぐにクラスへ溶け込むことができ、様々な場面において積極的な姿勢で学んだ。彼女の影響で、アイルランドの生活や文化に対する興味・関心が深まり、国際理解の一助となった。また、昨年度所属していたバレーボール部に再び所属し、部の仲間とともに熱心に活動した。

私自身は担任として初めて留学生を迎えたが、安心して受け入れることができた。礼儀正しく、日本語が上達しており、ほぼ全てを日本語で対応した。母が松山市出身で、母の実家で一緒に生活をしており、日常生活でも安心して見守ることができた。帰国のスケジュールが未確定な状況が続いたが、常に前向きで、にこやかな表情で毎日の学校生活を過ごした。8月に帰国が実現した後も、本校生徒とSNSで繋がっており交流が続いている模様である。

未だに海外への移動が制限される状況が続くが、彼女の存在が本校生徒にとって、いつか海外へ行ってみよう、留学してみようという契機になったと思う。

本人の感想：

私はアイルランドと日本のハーフで日本語をもっと勉強したくて、去年の7月から東高校で留学をスタートしました。1年生の時は1年4組でした。4組はいつも元気で男女が仲良く、みんなのノリも良くて本当に楽しかったです。また、1年生の時にバレーボール部に入りました。バレー部のみんなは優しく面白くて楽しそうだったから入ることにしました。バレーをしたことがなかったので最初は全然できなかったけれどマネージャーや先生、みんなのおかげでなんとかできるようになりました。みんな新しい言葉などいろいろ教えてくれました。3月に帰国する予定で全校生徒の前でお別れスピーチをしたのですが、コロナの影響で帰れなくなったので、また東高に頼んでもう一回東高に戻ることができました。そして、2年3組に入りました。また戻るのはすごく恥ずかしかったけど、みんな温かく迎えてくれて嬉しかったです。3組の担任の西丸先生はとても面白くていつも笑いが絶えないクラスでした。2年生では、1年生の時には話したことがない人とも仲良くなれて良かったです。6月に学校に戻れたのでまたバレー部に入りました。3年生の先輩達がいなくなったのは寂しいですが1年生の後輩達といっぱい話せて仲良くなれて本当に良かったです。



東高では運動会・グループマッチ、ボートレースなどたくさんの学校行事があり驚きました。アイルランドでは学校行事があまりないので東高の学校行事に参加できていい経験になったと思います。暑い日々に運動会の準備をするのは大変だったけど、運動会の日は最高で頑張って準備した甲斐がありました。東高生のリーダーシップが素晴らしくて感動しました。東高のみんなは勉強だけでなく部活や学校行事にもすごく力を入れていて私は愛媛県で一番いい学校だと思います。東高の生徒と先生達を尊敬しています。私は、東高に留学している間、大きな仲良し家族と過ごしているようでした。毎日学校に行くのを楽しみにしていました。東高の勉強は難しいのですが、学校が楽しすぎて正直、アイルランドには帰りたくないです。ずっと日本にいて東高に行きたいです。この1年間は人生で一番楽しかった1年でした。この1年間があつという間に過ぎ、もうすぐアイルランドに帰るのは信じられません。東高にお別れをしてみんなに毎日会えなくなるのはすごく悲しいけどまたいつかみんなに会えると信じています。先生に本当にお世話になりました。いっぱいしてくれて感謝しています。すごく良い学校で行けて忘れられない思い出がたくさんできて本当に良かったです。本当に本当にありがとうございました。素敵な日本での高校生活でした。東高生のみなさん大好きです。先生も大好きです。バレー部も大好きです。控えめに言っても愛しています。私を留学生として1年間も受け入れてくれて本当にありがとうございました。

(2) Kanyapak Ratthaloengsak(カンヤーパック ラッターーンサック)

国籍：タイ

本校での履修期間：2020/11/17～2021/3/10

履修内容：1年9組に在籍。期間中は同組の生徒と同様に授業に参加

部活動：弓道・野球部（マネージャー）

担当教員の評価

来日当初から積極的にコミュニケーションを図り、クラスに溶け込もうとする姿勢が見られた。また、礼儀正しく自分を律して学校生活を送ることができており他の模範となった。授業においては、その内容を少しでも自分のものとするため懸命に取り組む様子が見られた。3月の学年集会で日本語を用いて母国タイについて発表を行った。本校生徒の国際的視野を大きく広げてくれると同時に流暢な日本語に驚かされた。部活動では、弓道部や野球部のマネージャーとして積極的に活動した。

新型コロナウイルスの影響で4ヶ月という短い期間であったが、本人にとってまた本校生徒にとって大変有意義な時間であった。この経験を糧に、帰国後も将来の夢に向かって飛躍してくれることを祈っている。

本人の感想：

私の名前はカンヤーパック・ラッターーンサックです。ナムと呼んでください。タイから来ました。日本で留学生として過ごせたことは私にとっていい機会でした。学校では一週間に二回、弓道部で活動しました。他にも色々な部活動を体験しました。そのおかげで、クラスメート以外にもたくさんの友だちができました。そして、部活動からは多くの日本文化を学びました。また、私は野球が大好きです。しかし、野球をやったことはありません。だからホストファミリーは私と一緒にキャッチボールをしてくれました。バッティングセンターにも行きました。野球部のマネージャーも体験しました。野球部をサポートするために働くことはとても幸せでした。学校の皆さんはとても優しい人たちです。私は感激しました。私は日本料理をたくさん食べました。好きなものはうどんです。お父さんと一緒にうどんを作りました。タイ料理も作りました。お父さんとお母さんはグリーンカレーが大好きです。愛媛県内をたくさん旅行しました。道後温泉にも行きました。楽しかったです。



こうした機会をもらえたことはとてもうれしいことです。日本での経験を将来に生かしていきます。日本での大切な思い出は一生忘れません。ありがとうございました。

IV 成果の普及

生徒のGL事業を通じた成長を発揮する場所として、以下三つの発表会とその他の普及活動を実施した。

	内容	発表学年	開催日（開催頃）
1	1・2年生合同中間報告会	1・2年生	12/17
2	えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 中予	1・2年生	1/26
3	令和2年度研究成果発表会	1・2年生	3/4

1 1・2年生合同中間報告会

主旨：2年生が今まで行ってきた課題研究の発表を実施することで、それまで取り組んできた課題研究の成果（問題解決力・思考力・分析力の向上）を示し、これまで重ねてきた発表を生かして高度なコミュニケーション能力・表現力・ディスカッション力に、さらに磨きをかける。また、発表の仕方やポスターのまとめ方を1年生に示し3月の研究成果発表会に向けての指針を示す。

日時：令和2年12月17日（木） 14:40～16:30

場所：松山東高等学校 体育館、アリーナ

参加者：2年生GLコース（80名）、1年生、教職員、来賓（愛媛大学関係者、松山大学関係者、課題研究講師、本校生徒保護者）

内容：14:40～14:45 開会挨拶

14:45～15:00 中間報告①「20.5%」

発表者：濱田 和花、河端 愛海（長友 太郎先生講座）

15:00～15:15 中間報告②「Language and the Way You Think」

発表者：池内 優葉（Jonathan Jackson 先生講座）

15:15～16:05 ポスターセッション

16:05～16:20 昨年度中国フィールドワーク参加報告

発表者：玉井 志歩、坪内 琴乃、谷本 遼汰、野上 朔佳

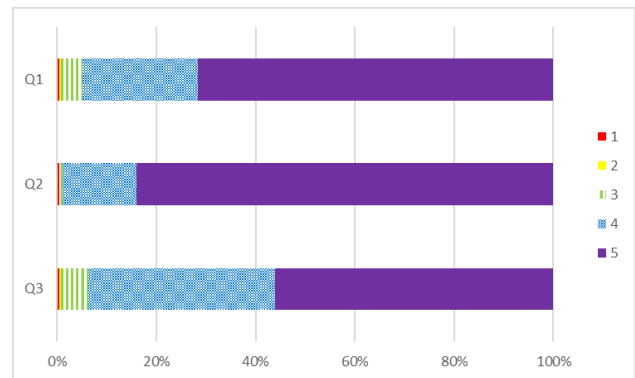
16:20～16:25 閉会挨拶

生徒評点：（対象は1年生のみ）

Q1. 今日の会により、3月に向けて自分のすべきことが理解できたか。

Q2. 2年生の発表、ポスターセッションは役に立ったか。

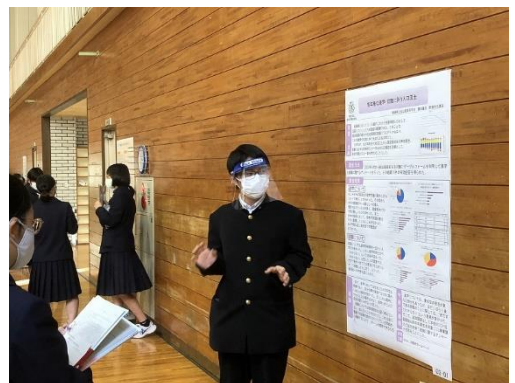
Q3. 現在実施している課題研究の見通しを立てることができたか。



生徒感想：

<1年生>

- ・今まで二次元的にとらえていたアニメ・ゲームの世界のものが、技術の発展によって三次元的・温度、触感に触れられるようになるのは、すごく面白く、実現したら体験してみたいと思った。VRでポケモンバトルが再現できたら、どんなにワクワクするだろうかと感じた。
- ・スウェーデンの家具ブランドIKEAがなぜ人気なのか、日本人とスウェーデン人の性格的な共通性という新しい切り口を知ることができて、興味深いと思った。マークのついた食品を気にして買う意識が全然違うことが分かった。
- ・日常食、非常食という考え方は新しく、興味深いと思った。また、乾パンやレトルトカレー、サバ缶など、非常食としてとらえてきたもののおいしそうなおアレンジレシピも今度作ってみたいと思った。ローリングストックを学ぶことができてよかった。
- ・話し方がとても上手だった。久万高原の知らない実態をたくさん知ることができてとてもよかった。簡潔にまとめられていて、わかりやすかった。久万高原の実態を実際にこの目で見てみたいと思った。
- ・あまり考えたことがない分野なので面白かった。
- ・VRは現実世界と融合、ARは仮想に拡張、VRで世界を旅する。MRやARの意味をあまり知らなかったのので、しっかりと知ることができてよかった。誰もが知るディズニーを例示し、VRがどのように使われているのか、またその効果について知ることができ、社会的効果があることが分かった。
- ・日本だけでなく、世界にもまだまだ差別が残っている。差別をなくしていくためには、一人一人が正しい知識を身に付けることが大切だと思った。



- ・MRの利用により、避難訓練をリアルで緊張感のあるものにできるというのはとても興味深かった。
- ・グラフや結果、考察など実験結果をわかりやすくまとめていた。すごく興味深く、聞いていて楽しかった。北欧の人と日本人の気性が似ていることなど、共通点を初めて知ることができてよかった。
- ・動画が英語だけど、日本人でもわかる動画があった。愛媛県のPR動画が面白かった。英語の字幕がより簡単なものを使うように考慮されていて、すごいと思った。
- ・最近の話題のアニメと関連させて説明しているのでわかりやすかった。
- ・資料と分析が分かりやすかった。

<2年生GLコース生>

- ・昨年ポスターセッションをする機会、見る機会がなかったためどんなものか分からず、不安でしたが、協力してポスターを作り、発表を行うことができました。1年生の感想で、分かりにくかったという声があったらどうしようと不安に思っていました。逆に分かりやすかったという声をいただけて、安心しました。
- ・今回の中間発表で、たくさんの1年生にシークワサーの魅力について知ってもらえたことにとっても満足しています。効果の多さや、本来捨てられるはずの未利用資源を活用する利点を端的に説明するのは難しかったですが、私たちが今まで行ってきた新しい食品の開発と販売について中心的に説明することで、分かりやすく興味を持ちやすい発表になったと思います。
- ・発表を通してみんなの反応を見たことで、自分の研究が有意義でユニークだと認めてもらい、自分がここまで頑張ってきた成長過程に誇りを持ち、成果をアウトプットするいい機会になりました。さらに研究を重ねて自分の経験値を積み重ねていきたいです。そして自分の住んでいる町に興味を持ち続けてこの町を変えていくのだという意思を抱き若者が、社会を変えていく世の中にしていきたいです。
- ・人に話をする事の難しさです。自分が発表する際、なかなか思うことが伝わらず、もどかしく思いました。回数を重ね、ポスターを示しながら簡潔に言うのが伝わりやすい方法だと分かったので、次回に生かしたいです。今回は、とても充実した報告会でした。
- ・ポスターセッションをしてみると、聞く人によって興味を持ってくれる箇所が異なるので、お客さんの反応を見ながらどこを詳しく説明すべきなのか考えながら発表する必要があると感じました。質問や意見をその場で伝えてくださった人もいて、よりこれからの研究をどのように進めていくかが明確になったので、これからの研究も意欲的に進めていきたいと思います。
- ・ポスターを作るにあたって、自分の研究でどのようなことを調べていけばよいのか考える時間をたくさん取り、いい研究を進められたと思います。データをもとにして考える部分が多く、自分の思い通りにならないことや、行き詰ることが多く大変でしたが、飢餓に対する世界の状況を知り、これからの研究の道筋を立てることが出来ました。自分の課題研究としてはまだまだ内容が浅く、飢餓の問題を解決するための具体的な策や自分たちにできることなど、考えなければいけないことが数多くあるので、これからもっと頑張って調べていきたいと思います。
- ・今回の中間発表に向けて準備をする中で、多くの発見があり、自分が今後どのようなことを調べていきたいかが明確になった。ここで得たものを生かせるようにしたい。
- ・今までは教わるばかりだった医療の知識を、自分が少しですが誰かに伝えることが出来ているんだと思うととても嬉しかったし、真剣に聞いてくれた1年生の姿から刺激をもらい、今後一層頑張って知識を深めたり、問題の解決法を考えたりしていきたいと思いました。自分の興味のある分野をたくさん研究できるG明教の時間はとても楽しいので、大切に過ごしたいと思いました。
- ・はじめの二人のプレゼンはもちろん、周りに貼られていたポスターも興味深いものが多かったので、他の人たちのポスターセッションも時間があったら聞きたかったなと思った。



参加者感想：

- ・ポスターにまとめられている以上にいろいろと学ばれていると感じました。
- ・GLの授業に対する意気込み、熱心さが伝わりとても感心しました。1年生もこれに続いて欲しいです。
- ・テーマに基づいて研究されており、まとめたポスターと説明でよく分かり参考になりました。
- ・大変有意義な発表会でした。面白かったです。
- ・発表がとても聞き取りやすかったし、パワーポイントの見せ方も上手でした。
- ・児童虐待の実態と里親制度について「知ること」の大切さを改めて感じる事ができました。
- ・一人ひとりが自分の課題を上手にまとめてプレゼンできていたと思います。ポスターの見せ方にそれぞれの個性が出ていたので、他の人の作品を見てどうしたら効果的に伝えられるかを学ぶことができたのではない

かと思いました。

- ・高校生ならではの柔軟な視点と研究心に溢れた発表がたくさんありとても興味深かったです。
- ・感染対策がしっかりとなされていた。
- ・2年生は1年生の時に発表の経験ができず心配していましたが、さすが東高生で堂々としていました。
- ・2年生同士がお互いのポスターを見る機会・時間がないので、もったいない気がしました。

2 えひめスーパーハイスクールコンソーシアム in 中予

主旨：「スーパーグローバルハイスクール」「スーパーサイエンスハイスクール」「スーパープロフェッショナルハイスクール」「高等学校地域協働推進連携事業」等の指定校、各職業学科の代表校等、県立高校等における先進的な教育活動の発表と意見交換を通して、研究の普及と深化を図る。また、本コンソーシアムを、中学生や保護者、地域、教育関係者に公開して、各高校の特色ある取組を紹介し、本県県立高校で学ぶ魅力を伝える。

主催：愛媛県教育委員会

日時：令和3年1月26日（火）13：30～15：00

場所：オンライン開催（各学校）

参加者：県立高等学校・中等教育学校・関係国立高等学校の生徒及び関係教職員（本校からは発表者5名、一般参加者40名が参加）

内容：

- 13：30～13：40 開会行事
- 13：40～13：50 取組概要の紹介
- 13：55～14：10 ディスカッション①
- 14：15～14：30 ディスカッション②
- 14：35～14：50 ディスカッション③
- 14：50～15：00 閉会行事

参加生徒感想

- ・今回参加でき愛媛の魅力について新しい発見や学びがあり、とても刺激をもらいました。自分も地元の愛媛の魅力について考え、将来愛媛の役に立ちたいと思いました。
- ・自分の課題研究につながるような発表をしている取組を知れたので、今後に生かしたいと思った。
- ・それぞれが愛媛に関連した地元を盛り上げるプロジェクトを行っていて、着実に成果を出す姿勢に刺激を受けました。
- ・他校のユニークな研究を知ってとても新鮮であった。地元を目を向けて高校生にできる地域貢献をしていきたい。
- ・リーダー塾のオンラインでの活動の経験を生かして落ち着いて発表・ディスカッションを行うことができた。
- ・ディスカッションを通して、自分が行ってきた課題研究について考えさせられる良い機会となった。
- ・オンラインで実施するのであれば、地域を分けずに愛媛県全県下でした方がさらにいろいろな取組が知れて良かった。
- ・普段なかなか交流することができない他校の方から、自分たちの取組について意見を聞くことのできる良い機会となった。



3 令和2年度研究成果発表会

主旨：1年間の課題研究の発表を実施することで、それまでに取り組んできた課題研究の成果（問題解決力・思考力・分析力の向上）を示し、さらに発表を通じて高度なコミュニケーション能力・表現力・ディスカッション力を養う。

日時：令和3年3月4日（木）13：15～15：55

場所：愛媛県立松山東高等学校 体育館、アリーナ、第1教棟、第2教棟、特別教棟

参加者：1・2年生、教職員、保護者、GL運営指導委員、コンソーシアム委員、愛媛県教育委員会、大学関係者、企業関係者、県内高等学校関係者、県内中等教育学校関係者、市内中学校関係者、一般参加者

内容：13：15～13：30 開会行事 ① GL事業取組内容ビデオ上映 ② 教頭挨拶

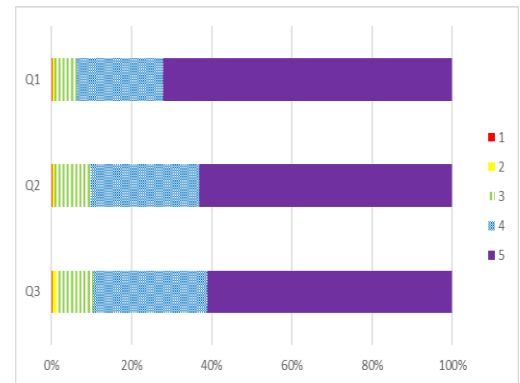
13：30～13：45 代表生徒発表①「やさしい日本語と見えない国際化」

発表者：綱崎 李紅（堤 元子先生講座）

- 13 : 45～14 : 00 代表生徒発表②「How to increase the number of international travelers in Ehime」
 発表者：笹岡 佳穂、谷岡 沙恵 石橋 審平、重見 萌絵、越智 勇満
 (檀 茂美先生講座)
- 14 : 10～15 : 30 松山東High School Society
 ① 1年生ポスター発表
 ② 2年生シンポジウム
- 15 : 40～15 : 50 観光甲子園準グランプリ作品発表 「イロタビー色に恋する愛媛旅ー」
 発表者：大野 峻平、井上 藍、渡部 愛生
- 15 : 50～15 : 55 閉会行事 指導・講評 四国地区国立大学連合アドミッションセンター長 井上 敏憲先生

生徒評点：

- Q 1. 課題研究を通して、知識を深め視野を広げることができたか。
 Q 2. グローカルな課題を発見することができたか。
 Q 3. 発表会を通して、自己との接点を見つけることができたか。



生徒感想：

- ・ポスター発表は、何度も練習していくうちに上手に言えるようになったので、よかったと思う。自分が知らなかったことをたくさん知れて、よい機会だと思った。図や写真、グラフなどを有効に使ったポスターが多く、学べるが多かった。研究を通じて、自分の中でも課題がはっきりし、今やるべきことが分かった。将来、日本や世界を担う世代として、いい経験ができた。
- ・今まで知らなかった自分が住んでいる地域の名物や魅力をたくさん知ることができて、愛媛にはまだまだ未知の部分が多いことが分かった。これから今回知った店等を訪れ、おいしいものも食べつくし、もっと愛媛を堪能したいと思った。
- ・東校生は目の付け所が違い、いい刺激をもらいました。外国人に誇りたい場所はありますか、と聞かれたとき、私にとって外国人に誇れる場所とはどこなのだろうと思った。イロタビで紹介されていたような愛媛の素敵な場所に自分も行ってみたいと思った。
- ・いろいろな班の発表を聞くことで、様々な視点から愛媛の国際化について考えることができた。愛媛には良いところもたくさんあるが、改善すべき点もたくさんあると分かった。今後の愛媛県発展のために自分にできることは何かと考え、考えを深めることができた。まずは地域の行事に積極的に参加することから始めたいと思う。
- ・前回のポスターセッションは聞くだけだったが、今回は聞く+話す側だったのですごく楽しかった。たくさんの人が自分のスピーチを聞いてくれてとてもうれしかった。
- ・今回ポスターセッションで環境問題について深く学ぶことができました。人間の営みによる被害が大半であることを知り、危機感を感じました。我々の生活が生態系に被害を及ぼしていることを自覚し、できるだけ環境負荷の低い生活をしていくことが必要だと感じました。
- ・発表を聞く中で、また自分自身が研究課題に取り組む中で、日本や愛媛についての様々な課題に気づくことができた。それぞれの発表で聞いたこと、考えたことなどをもとに、将来の社会を担っていけるような人材を目指したい。
- ・愛媛県には様々な課題があり、それぞれの解決策についても、自分が思っていたものとは異なるいろいろな考え方があり、自分の考え方を通し、より深めることができた。愛媛を活性化するためにはまだまだ様々な課題が残されている。私たちにできることがどれくらいあるのか考え少しでも地域の活性化につなげていきたい。
- ・「習っていないは通用しない」という言葉が心に残った。今までは先生に教えてもらうのが当たり前だったが、研究を進めるためには自分自身の知りたいという気持ちが大切で、より良い研究につながるのだと感じた。2年次からのGLでは、知りたい気持ちを精一杯行動に移していきたい。
- ・発表会に参加して、絶対に学校の授業だけでは得られないような様々な視点からの発表を聞くことができ刺激を受けました。2年生のシンポジウムでは医療工学に関する発表を聞くことができました。特に子宮がんワクチンの発表では、直接自分たちに関係のある話を聞けたので、この後、自分でも詳しく調べてみたいと思いました。
- ・自分と異なるものの見方をしている人の意見を聞くことで、新たな考え方を持つことができました。様々な視点から物事を観察することで社会の問題点を発見できると感じました。私は医療分野の課題研究をしていま

す。コロナウイルスの影響で逼迫している医療業界を、高校生の私たちの新たな視点を用いて助けることができたら良いなと思っています。

- ・各講座で様々な取り組みをしていました。自分の知らなかったことを知る機会にもなって、充実した時間になったと思います。また、日常生活を通じて自分が気づいていなかったことに目を向けている人たちもいてとても感心しました。広い視野を持てるように様々な所に目を向けていきたい。自分の課題研究にも生かせることはどんどん生かしていこうと思う。
- ・松山の現状、課題といった点がよく分かりました。特に、外国人に対する（我々の）配慮の足りなさを実感しました。これからは、外国人とコンタクトを取る際、「やさしい日本語」で対応しようと思いました。また、地元の魅力を再発見することができました。自分も観光甲子園のように、魅力を全国に発信していきたいと思っています。
- ・私はGL事業の授業を取っていないので、ずっと聞いている側でしたが、とても興味をもって聞くことができました。自分が1年生のときには水について調べていたので、国際的な問題や環境問題は自分もやってみたかったなと思いました。
- ・去年、自分は難民のことについて学び、残念ながらポスター発表がないまま終わりました。今年は様々な方向からのグローバル化や地域での取り組みがポスター発表を通じて学びました。英語が得意ではないので、もし、外国人と関わる機会があれば、今日学んだ「やさしい日本語」を意識して、寄りそって接したいと思います。将来、少しでも愛媛の力になれるような、行動、仕事がしたいです。
- ・自分の研究していない未知の分野を知ることができてとても面白かったです。知らなかったことを知ることは、その問題を解決する大きな一歩となる大切なことだと思います。「知って」満足するのではなく、今日学んだことを解決するためにどう動くのか、毎日の中で考えながら生きたいです。また、色々な人の課題研究の方法を知って、自分の研究に取り入れたいことも見つかったので、来週（今年度最後）のGLの時間に実践したいです。



参加者感想：

- ・各々のプレゼンテーションで堂々とした姿がたくさんありました。視聴者からの質の高い質問が多く、回答もしっかり調べられていました。
- ・どの生徒さん達もテーマに沿って工夫をこらした発表が良くできていました。
- ・模擬国連が面白かったです。ゼロから考えさせるのはなかなか難しいけれど、国連というステージや複数の国の選択をこちらでしてやると、しっかりやれていました。子ども達はその気になる仕掛けづくりの大切さ、それができるだけの教員の力量の必要性を感じました。
- ・発表者はもちろん、視聴者の態度が素晴らしいと思いました。良い雰囲気の中で行われていました。
- ・聴衆が1年生なので、照れもあるのかプレゼンが緩い場面が見られた。2年生がもっと聞けば緊張感が出るのかと思いました。
- ・廊下でのプレゼンは、動線がぶつかるために話しにくかったり、聞きにくかったりしたことが残念でした。人の流れを改善していくと良いと思いました。
- ・レベルの差はあるものの、生徒さんが設定したテーマに対して、コンパクトに上手くまとめられていた。生徒の皆さんのアンテナの高さや問題意識の高さがよく表れていて、とても見応えがあった。
- ・グローバル・グローカルの視点から実に様々な発表があり、質問への応答や質問者への対応も良くできていたと思います。高校1年生のフレッシュで楽しいアイデアも盛り込まれた発表に東高生の柔軟な発想力や前向きな姿勢が良くあらわれていました。
- ・大変興味深い内容ばかりでした。大学レベルの研究内容のものもありましたが、とても分かりやすく発表スライドにまとめられていたと思います。質問する生徒もするどい質問をされていてさらに盛り上がっていたと思います。
- ・年々発表内容のレベルが上がってきているように思いました。また、質問をする時間の前に、一旦皆さんと相談する時間を作っているため質問が活発に行われていると感じました。
- ・自分の興味・関心のある分野についてよく調べられていたと思います。
- ・発表を踏まえての討論がなされていました。挙手しての発言や質問、それに対する回答、その応答ができる力に感心しました。
- ・地域活性化から観光・防災という一見全く異なるテーマのように思えるが、「地方を守る」という視点で、そ

- それぞれの発表が結びつき、また発表会後のシンポジウムもしっかり生徒同士での議論ができていた。
- どのシンポジウムも問題意識をしっかりと持ち研究を深めしっかりとした発表でした。質疑への対応が不慣れな人もいたので、さらに体験をすることが大切だと思います。
 - 1年生よりもレベルがぐっと上がって、質疑応答のやり取りも非常に活発で良かった。人に説明するための工夫がよくされていて、論理構成も良いため分かりやすく説明できていた。
 - SGHの時から関わらせていただいています。益々立派な発表になってきていると思いました。1, 2年生がしっかりと先輩の発表を聞いて自分が何をしたいか早い時期から意識できているからだと思います。
 - 生徒達の皆さんが積極的に参加していたので、非常に充実した発表会でした。
 - 多くの気づきがありました。習うのではなく自ら探究する力を、どこまでも伸ばしていただきたい。
 - どの会場でも生徒が積極的に手を挙げ発表している姿がとても印象的でした。
 - 質の高い学びとその成果を拝見することができました。
 - 各自・地域の課題に対して高校生としてコミットできる範囲で、自分には何ができるのか、しっかり解決案を提案できていました。
 - GL生が他の発表を見ることができないことがもったいないと思いました。
 - 全体として生徒の皆さんのレベルの高さに驚いた。年々着実にレベルアップしているように感じており、先生方、生徒の皆さんが相当努力されたのだろうと思います。
 - コロナ禍にあっても、外向きの体験型研修などに代わる内容のある活動がなされていたと感じた。

2年生シンポジウム議事録：

I 「世界から学ぶ日本の改善策」 (司会：松岡美響、石川太一 記録：大谷安奈)

発表①「印象語から分析する北欧デザイン」 発表者 井上美咲

【要旨】北欧と日本のデザインについての印象を愛媛県の男女を対象としてアンケートを行った。二つのデザインには、あたたかい、優しいといった印象の共通点があった。北欧デザインを日本の生活に生かすための案として、伝統工芸品や空き家のリノベーションなどがある。

【質疑応答】

- Q. 印象語として「直線的」と「曲線的」をいれたのはなぜか。
 A. 北欧デザインは不規則で手描きのようなもので、日本のデザインは規則的という特徴があるので「直線的」と「曲線的」という印象語につながると思った。
 Q. 「直線的」と「曲線的」という二つの観点から見た北欧と日本の違いはあったか。
 A. 北欧デザインのほうは曲線的と感じる人が多く、日本のデザインのほうは直線的と感じる人が多かった。

発表②「私たちの過去→現在→未来どうする?」 発表者 杉野若葉

【要旨】2030年までにSDGsを達成することが世界の目標とされているが、現在は解決には程遠く、様々な問題が起こっている。それらを解決していくには、私たち伝える側が一方向的に解決策を提示するのではなく、能動的に興味を持って動くことが重要だ。

【質疑応答】

- Q. 宗教のアイデンティティーを保ちつつグローバル化を目指すにはどうすればいいと思うか。
 A. 宗教やその国の現状を能動的に知り、理解して共生社会へ向けて皆で話し合っていく必要があると思う。
 Q. 「知るだけでなく行動しないと意味がない」というような考えについてどう思うか。
 A. もちろん知ることも第一歩だが、そこから自分で考えるなどして動いていかないと目標達成に近づけないと考えている。

発表③「Why will the number of immigrants coming to Japan increase?」 発表者 渡邊麻梨亜

【要旨】移民が今後日本で増えることが予想される。その理由は、少子高齢化問題、国内の外国人労働者の増加、国際的な移民の流れなどにある。なぜ人々が移住するのかにもさまざまな目的がある。私たちは移民受け入れ賛成派と反対派の意見のバランスを取り移民と共生していく必要がある。

【質疑応答】

- Q. 移民の増加によるデメリットとして日本人の雇用率の低下とあったが、少子高齢化によって現役で働く人が減っている今の日本の現状に外国人の労働力が加わることでプラスに働いていくのではないか。
 A. 日本人の雇用率と外国人の労働力の増減による影響はあまり関連していないため、別問題として考え

る必要があるのでプラスとして働くとは言えないと思う。

《Discussion》

Q. 国民性の違いによる新型コロナウイルスへの対策の違いはどのようなものであるか。

A. 中国は許可されるものと禁止されるものをはっきりさせ、守らなかった者には罰金を科すなどきちんと規制を設けている。

A. 台湾はSARSの経験もあってかなり早い時期から対策を講じ、ITなども駆使して感染者の増加を防いだ。

A. アメリカはコロナウイルスの対策よりも経済活動を優先させてしまい、結果感染者を増やしてしまった。

A. スウェーデンも経済優先で外出自由とした。

A. 日本は厳しい規制を設けるでもなく、経済優先で外出自由にするでもなく、個人の判断にすべて任せるといった趣旨の対策をしており、完全に後手に回ってしまっている。

II 「いろんな角度から地方を守る」

(司会：隅田真央 川吾奈々子 記録：中川優依)

発表①「久万高原町の活性化」

発表者 小倉敏大

【要旨】衰退の著しい久万高原町の商店街に関して、アンケート調査などからその衰退の一因が車社会化にあることがわかった。しかしその解決だけで衰退を止められる可能性は限りなく低い。そこで近隣地域の事例を参照すると、内外両面への取り組みが必要だと分かった。よって、コンパクトシティ化と中規模施設の造営の二つを提案する。

【質疑応答】

Q. たくさんの土地があるにも関わらず、施設建設に踏み出せないのはなぜか。

A. 人口が少なく、税金収入があまりないから。総じて『町の力』がない。

Q. 交通網の整備はできているのか。

A. 道路自体は新しく整備されているが、公共交通機関があまり発達していない。コミュニティバスなどを導入するなどの対策を行わなければならない。

Q. 高齢ドライバーへの対策はあるか。

A. 町が運転免許の自主返納をすすめている。車なしでも生活できる環境を整える必要がある。

Q. 住民同士の集いはあるか。

A. まちなか交流館という施設でワークショップ等を行っている。



発表②「松山&松山」

発表者 松本まどか

【要旨】愛媛県松山市と台湾の台北市は友好交流協定を締結しており、この二つの市の交流は深まっている。アンケート結果より、東高生は、台湾の人と交流したいという気持ちはあるが、実際には少し抵抗があるのではないかとと思われる。その理由として、他言語を話すことへの不安などがあると推測される。これを改善するために、簡単な観光英語や中国語を学ぶ場をつくるべきである。

【質疑応答】

Q. 日本人ガイドの不安を取り除くために、実際どのようなことをすればよいか。

A. 講習会を開く。講習会に参加しにくい人のために、街に観光英語で書かれた看板を設置する。観光英語で書かれた県のホームページを作る。

Q. どのような人を対象に動画を作ったか。

A. 台湾の人に愛媛の魅力を知ってもらうだけでなく、愛媛の人にも台湾との交流があることを知ってほしい。

Q. 台湾の高校生との交流は、どのようなことをするか。

A. 部活動で日本の文化を学ぶ、授業に参加してもらう。

発表③「私たち防災講座が行ったこと」

発表者 竹ノ内悠

【要旨】松山市の防災に対する取り組みは、全国でもトップクラスである。しかし、地域の避難訓練に参加しない人が多いことなど、まだ多くの課題がある。そのような問題を解決するために、地域ごとのつながり

を深め、情報共有の手段を確保していくべきだ。

【質疑応答】

Q. 回覧板を活用すること以外の情報共有の方法はあるか。

A. 地域住民同士での情報共有、コミュニケーションが挙げられる。

〈Discussions〉

テーマ：訪日観光客の防災危機管理

① 言語の違いについて

[問題点] ・避難所などに関する大事な情報を読むことができない。

・周りとのコミュニケーションをとることができない。

[解決策] ・絵や音などの言語以外での呼びかけ

・ジェスチャーで伝える。

② 避難経路について

[問題点] ・どこへ逃げるか。

・どう逃げるか。

・避難経路が危険な状態とき、混乱が起きる。

[解決策] ・多言語対応看板を設置する。

・空港に多言語対応の防災マップを置く。

・多言語対応の防災アプリを作る。

・日本人が外国人に、災害について考える機会を与える。

③ 避難後の対応について

[問題点] ・文化的な問題において非常食をどうするか。

・避難所のルールを理解してもらえないか。

・言語の違いによって、情報を共有することができない。

・自分の国に帰ることができない。

[解決策] ・多文化対応の非常食を用意しておく。

・避難所に多言語対応ブースを作る。

・マニュアルを作成しておく。

・心のケアをすることができるスタッフを置く。

・外国人に、安全な地域に行ってもらおう。

・位置情報サービスを活用する。

Ⅲ 「愛媛の産業の未来」

(司会：松下卓央、芳野亜美 記録：乃万智美)

発表① 「シークワサーの調理加工研究～愛媛の地域活性化を目指して～」

発表者 菊池光 林奈々子 安藤奈穂 池田光希

【要旨】 シークワサーリーフパウダーだけでなく、果実の新たな活用方法として、実を使ったマーマレードを作った。大会等を利用して周りに発信していくことでシークワサーの消費を増やし、ごみの削減、地域活性化につなげようとしている。

【質疑応答】

Q. 地域活性化のため沖縄のシークワサーではなく、愛媛県産のものを使うべきでは？

A. 大会に向けては沖縄産のシークワサーを使っている。しかし、この大会が終わった後などに柑橘国愛媛ならではの活用法を作れるだろう。

Q. 研究でシークワサーが黒ずんでしまったことの改善点は？

A. 皮の量を減らすことで、にがりがないのではないかと考え、研究を進めている。

発表② 「男女の賃金格差」

発表者 河津遥架

【要旨】 労働環境で発生している問題をSDGsの視点から改善させる。目標の5、8に関連して研究した。男女の収入差の改善のため、様々な法律が作られているが、なかなか解決されていない。Cybozuに行き、インタビューを行い、具体的な解決策の調査を行った。また、動画作成も行った。

【質疑応答】

Q. 法律では是正されないなら法律に問題があるのでは？

A. 賃金格差是正のためではないからこの問題に関する法律を作るべきである。

Q. 役割や役職を得られるためにはどうすればよいか？

A. 女性はハードルが高いため、そのハードルを低くしなければならない。

発表③ 「成長したい植物 VS 成長阻害剤」

発表者 石崎芽唯

【要旨】近年、農業従事者の減少や高齢化が問題となっている。そうになると、一人ひとりの負担が大きくなってしまふ。そこで活躍が期待されているのが、ドローンなどを用いたスマート農業である。しかし、ドローンを用いた農業散布を行った場合、目的の植物以外にも散布してしまう可能性がある。今回は、「農業の影響を画像で診断することができるのか」を実験して調査した。

【質疑応答】

Q. 今回の研究結果をどのように実際の農業に生かすことができるか。

A. ドローンで農業散布の影響を調べられるため、この結果により大規模な農業散布ができると考える。

発表④ 「脱プラスチックの実現は可能か」

発表者 谷本遼太

【要旨】現在、日本ではプラスチックの過剰利用が問題になっている。松山容器へ訪問し、家庭ごみのリサイクルについての調査を行い、費用がかかるためあまり行われていないことが分かった。大企業はメリットが多いため、脱プラスチックへの取り組みを行っているが、小さい会社や地方では行われていない。レジ袋の無料配布を禁止した京都府亀岡市についての調査を行った。脱プラスチックの実現のためには消費者の意識が大きく関わっているのではないかと思う。



【質疑応答】

Q. 地方の企業の動きが少ないわけは？

A. 中小企業は意識が低く、費用の面など、大企業に見られない課題があるから。

〈Discussions〉

「愛媛の産業の未来についての意見交換会」

発表者の意見

発表①：愛媛では農業の衰退化がみられる。第一次産業の割合が低い。普段は食べない部分である柑橘の葉を活用して商品化されれば、廃棄物の削減につながる。それらによって、産業についての問題の解決に少しは役立つのではないかと思う。また、愛媛県では、第六次産業(第一次産業、第二次産業、第三次産業の一体化)の支援が行われている。

発表②：愛媛の雇用者のうち女性の割合は全国平均より高い。しかし、雇用者のうち女性の割合は、平成27年度時点で46.7%と半分を満たしていない状況にある。また、女性の管理的職業従事者の割合は17%となっている。今後、この問題を解決していくことで、地域活性化や地方の経済成長を見込むことができると考える。

発表③：農業従事者の減少が現在課題になっている。柑橘王国ならではの山の傾斜を活かしたドローンの活用により、農業をしやすくなるだろうと考える。また、ドローンは入手しやすいため、より農業の活発化が期待される。

発表④：現在、持続可能な社会の実現に向けて様々な取り組みが行われているが、課題もたくさんある。企業、自治体だけでなく、市民が行動を起こさなければならない。また、その際には、先例に基づいて実行することが必要だ。

聴衆からの意見

- ・農業の活発化などだけではなく、後れを取っている交通面の発展にも力を入れないといけないと思う。
- ・SDGsは産業の発展に関わっていることが分かった。愛媛の雇用、ごみ問題などについて取り組めることがあるとわかって、都会に比べると遅いが、進歩する可能性もあると感じた。
- ・自分たちの気づきに頼るだけでなく、法律や条例など全体の決まり事をつくる必要があると思う。
- ・第六次産業の促進に同意する。今回発表にあったスマート農業、シークワサーの加工、雇用環境問題、ごみ問題等が生産、加工、販売の各プロセスに関わっていると思った。そのため、それらの一体化が大事だと思う。
- ・行政などの取り組みだけでなく、市民一人ひとりが意識することが大事だと思う。

まとめ

現在、愛媛の産業では農業従事者の減少、雇用問題、ごみ問題など様々な問題が起こっている。それらの

解決のためには、行政や自治体の積極的な活動が大事であるが、市民一人ひとりが意識を持つことがより必要だ。高校生の我々がこれらの問題の解決に尽力することで、将来の愛媛の産業がより活性化されるだろう。

IV 「未来へつなげ～日本の工学と医療～」 (司会：井出麻友 山名里沙 記録：村上由羽)

発表①「光と糖度」

発表者 橋村瑞希

【要旨】分光法は、物を破壊せずに内部の状況を測定できる。そこで、破壊せずに柑橘の中の状況を測ることができるのではないかと仮説を立てた。一つ目の実験で、みかん、デコポンともに熟し具合によって同じような変化をした。それからそれが糖度によるものなのかどうかを二つ目の実験で確かめたところ、柑橘の糖度と光量の変化には関係があることが分かった。

【質疑応答】

- Q. 実際にどれくらい糖度があるか分かるのか。
- A. この研究からは予測できないが、様々なみかんを用いて比較するとできると思う。
- Q. 分光法の他の活用方法は何か。
- A. 犯人を調べる時や、石油を分ける時に使える。
- Q. 今何に使われているのか。
- A. 出荷するときの仕分けなどで既に使われている。

発表②「神の手を借りたい医療現場に革命を！～VR・ARの多角的な活用法～」

発表者 大野竣平

【要旨】現在の医療の課題として、1. 人口に対する若手医師の数が減少傾向、2. 地域によって医療サービスに格差がある。ということが挙げられる。これらを解決する手段として、新人育成、治療、協力体制の構築を可能にするVR、AR、MRが利用できる。しかし、日本での普及は不十分である。

【質疑応答】

- Q. 外国では普及しているのか。
- A. 医療以外でも活用できるので、日本と比べたら発展している。
- Q. 日本で普及していない原因は何か。
- A. 新しいものは恐いという考えがあり、患者への意識が希薄になるとも捉えられるから。

発表③「打たせてほしかったワクチン」

発表者 渡部愛生

【要旨】ワクチンは治療薬に比べて効果が見えにくく、副反応が注目されやすい。そのためマスメディアの偏った情報提供により、ちょうど私たちの世代で子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が中止された。しかし、実際の副反応の可能性は低い。日本ではワクチンの存在すら知らない人も多いが、まず選択権を得るためにも、知る機会を増やすことが一番大切である。

【質疑応答】

- Q. マスメディアの在り方についてどう思うか。
- A. 偏った情報が多いのが現状である。公平な報道を心がけてほしい。

《Discussions》

- Q. 分光法を使って調べたいことは何か。
- A. 人の体で使えたら、医療にも生かせるのではないか。
- Q. 医療現場以外でのVR・ARの活用方法は何か。
- A. もう少し小型化して激しく動き回れるようになれば、スポーツで使える。
- A. 臨場感のある避難訓練。
- A. 新しい発想力にもつながる。
- Q. 子宮頸がんワクチン接種を政府が積極的に推奨していないことについてどう思うか。
- A. 副反応のリスクは少ないので、女性のことを思うと勧めるべき。
- A. 国が勧めるとSNSなどを通してさらに偏見が広がってしまう恐れがあるので、積極的には勧めず、情報提供を行うべき。
- A. 他のワクチンでも少しは副反応が出るので、そこは考慮してうつべき。

V 学校環境のグローバル化

これまでに挙げた内容の他に、以下のような方法で学校環境のグローバル化を推進した。

	内容
1	SGH部の活動
2	各種交流
3	各種大会参加・入賞
4	市内高校生交流会・勉強会
5	第5回中四国高校生会議

1 SGH部の活動

(1) 部の概要

参加生徒数：39人（1年生：18人、2年生：12人、3年生9人）

活動概要：英字新聞を使って英語力を鍛えながら、海外の高校とオンラインで交流したり、在県の外国人の方を招いて交流したりする国際協力活動、フェアトレード等の校内啓発活動、近隣の学校の生徒を集めて交流やSDGsの学習などに精力的に取り組んだ。

(2) 今年度の活動内容

ア 全員参加の活動

- (ア) International Day を企画運営し、外国人を招いての国際交流活動を熱心に行った。（全7回）
- (イ) 市内高校生交流会・勉強会を企画運営し、SDGsの問題について市内の高校生と学んだ（全8回）
- (ウ) フェアトレードの啓発と、商品の販売の機会を企画し、活動に熱心に取り組んだ。（全3回）
- (エ) フードドライブを行い、まつやま子ども食堂へ届け、ボランティア活動を行った。
- (オ) ハワイバプテストアカデミー高校とオンライン交流を熱心に行った。
- (カ) シンガポール・ウガンダ・アメリカなどの高校生にビデオレターを作成し、送付した。（全4回）
- (キ) 第5回中四国高校生会議の企画・運営を行い、近県高校の活発な交流を実現させた。（1/30、31）

イ 有志での活動

- (ク) 令和2年度「世界との対話と協働：アジア・オセアニア高校生フォーラム」（7/29～31）
- (ケ) えひめ教育の日推進大会・推進フェスティバル（10/24）
- (コ) 令和2年度愛媛県高校生英語ディベートコンテスト【優勝・準優勝・ベストディベーター賞】（10/30）
- (サ) ロシア日本語履修高校生オンライン交流プログラム（11/14、15）
- (シ) 令和2年度愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 研究発表の部【最優秀賞】
- (ス) 令和2年度愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 日本語意見発表の部【優秀賞】（12/4）
- (セ) 全国教育模擬国連大会（AJEMUN）（1/10、11）
- (ソ) 令和2年度（第38回）四国高等学校国際教育生徒研究発表大会 研究発表の部【優秀賞】（1/13）
- (タ) えひめスーパーハイスクールコンソーシアム（オンライン）（1/26）
- (チ) Glocal High School Meeting 2021（全国高等学校グローバル探究オンライン発表会）【金賞・審査員特別賞】（1/30）
- (ツ) 観光甲子園2020 訪日観光部門【準グランプリ】（2/7）
- (テ) 第1回みきゃんカップ英語ディベートコンテスト【準優勝・第3位】（3/13）
- (ト) 春休み語学研修プログラム（オーストラリア）（3/22～26）

2 各種交流

(1) 「EUがあなたの学校にやってくる」開催

欧州連合（EU）とその加盟国の大使館員から直接話を聞くことができる「EUがあなたの学校にやってくる」の講義を2年生対象に実施し、グローバルな視点の育成を図る。

期 日：令和2年11月9日（月）15：40～18：00

会 場：本校 体育館 会議室

参加者：2年生全員（体育館）、希望者（会議室）

講演者：リトアニア共和国 ゲディミナス・バルブオリス（Mr.Gediminas Varvuolis）駐日特命全権大使

生徒感想

- ・今回の講演でEUのことを知るだけでなく、EUを身近に感じるようになりました。国境を越えて団結することは決して簡単ではありません。しかし、講演の中で「EUはサッカーチームのようなものだ。」と言われたのを聞いて、それぞれが自分の果たすべき役割を果たしていくことが必要なのだと改めて感じました。今までは学校の授業で軽く触れるのみだったEUについて詳しく知ることが出来ました。また、リトアニアの景色も美しかったです。ヨーロッパには是非とも行ってみたいです。
- ・リトアニアを中心としたさまざまなヨーロッパのことを学ぶことができました。EUが世界でどのような立場にあって、どのようなことをしているのかをたくさん知ることが出来たと思います。リトアニアと日本の結びつきは自分が思っていたよりも深く、杉原千畝さんのことも印象に残りました。ヨーロッパの国については今までは少し興味がある程度でしたが、機会があればぜひ訪れて色々なことを肌で体験したいと思います。世界で何か貢献できるようになりたいし、そのきっかけとなることを見つけていきたいと思っています。
- ・EUの様々な分野での活動を知ることができ、より身近に感じることが出来ました。多種多様な文化の人々が協力してお互いの発展を支援していて、素晴らしいことだと思いました。また、EUに加盟するには条件があることには少し驚きました。授業であまり触れられないことも教えていただきとても興味深かったです。ヨーロッパと日本は色々な部分で関わっていることを知り、ほかの加盟国についてももっと勉強をしたいと思いました。
- ・いくつかの国がまとまって協力したり、EU独自の制度があったりして、日本との違いを意識しながら聞くのが面白かったです。また、EUの世界での役割にも興味がわきました。EUは積極的に留学を進めていると聞き、文化や言語を学ぶためにいつかヨーロッパへ留学したいと思います。内容とは関係ありませんが、この講演はリスニングの練習にもなりました。外交を担う人の英語を聞くことが楽しかったです。
- ・リトアニアの方とお話をしたことがなかったので新鮮でした。全権大使さんということで愛国心や他国とのつながり、このコロナ禍でのEUが果たすべき役割など幅広く学ぶことが出来ました。文化に対してNo Judging、すべてに対してcuriousであることの大切さ等、座談会ならではの内面的なことが聞けて本当に良かったです。改めて、語学を学ぶ意欲が湧いてきました。これからも世界の様々なところに目を向けて、将来に向けたたくさん勉強をしていきたいです。



3 各種大会参加・入賞

- (1) 英語ディベートコンテスト
 - ・令和2年度 愛媛県高校生英語ディベートコンテスト 優勝 (Bチーム) 準優勝 (Aチーム) ベストディベーター賞
- (2) 英作文・英語エッセイコンテスト
 - ・第59回 全国高等学校生徒英作文コンテスト 優秀賞1名、優良賞1名、入選4名、2020年度学校賞
- (3) 研究発表・プレゼンテーション
 - ・令和2年度 愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 研究発表の部 最優秀
 - ・令和2年度 愛媛県高等学校国際教育生徒研究発表会 日本語意見発表の部 優秀
 - ・令和2年度 四国高等学校国際教育生徒研究発表会 研究発表の部 優秀
 - ・Glocal High School Meeting 2021 (全国高等学校グローバル探究オンライン発表会) (金賞・審査員特別賞)
 - ・観光甲子園2020 訪日観光部門 準グランプリ

4 市内高校生会議

他校との交流の機会が少ない市内の高校生が集まり、各学校での活動について発表したり、世界の問題に対し

て意見を交換したりすることによって、グローバルリーダーとしての資質を養う。企画・運営は全て生徒が行う。毎回SDGsの課題を一つ取り上げ、その分野に精通したゲストを招き、話をさせていただいたり、生徒のディスカッションにコメントをいただいたりする。専門家の口から出る本物の話は大変興味深く、生徒達の心に残るものである。

【実施記録】

- ・第1回 SDGs 4 (校内) (4/25)
「SDGs 4教育キャンペーン」の教材を使い、各政党ごとの方針を比較し、政治や選挙に対する関心を高める。
- ・第2回 SDGs 4 (オンライン) (6/14)
新型コロナウイルス感染症のために138カ国で学校が閉鎖され、13億7千万人もの子供の学校教育が影響を受けていることについて知り、考えること、等
- ・第3回 SDGs 1 (7/26) ゲスト：社会福祉士 野中玲子先生
世界中で深刻化する子どもの貧困と、それがもたらす社会的損失、等
- ・第4回 SDGs 11・14 (8/11) ゲスト：県内在住ALT10名
私たちが誇る道後の良さを伝えるには、持続可能な観光名所であるために、等
- ・第5回 SDGs 12 (9/19) ゲスト：マザーアース店主 小川万里子先生
フェアトレードとサステナビリティ、エシカル消費について、等
- ・第6回 SDGs 5 (11/7) ゲスト：愛媛県議会議員 武井多佳子先生
女性の経済的自立と社会的地位について、女性のリーダーシップについて、等
- ・第7回 SDGs 8 (12/13) ゲスト：いよぎんIRC 友近昭彦先生
新型コロナウイルス感染症による愛媛のテレワークの増大とその功罪、等
- ・第8回 SDGs 10 (3/6) ゲスト：英会話スクールAMIC 校長 玉井里美先生
世界の何を見る？世界中の人と仲良くするための日本人としての生き方、等

5 第5回中四国高校生会議

特徴：生徒の発案から始まった事業。今年も本校SGH部が主催として計画立案・司会進行を務めた。

主旨：都市部の高校に比べ、他校との交流の機会が少ない地方の高校生が集まり、自分たちのGL事業や各学での活動について発表したり、世界の問題に対して意見を交換したりすることによって、グローバルリーダーとしての資質を養う。さらに、共通のテーマについて考えを深めることでお互いを刺激しあい、将来グローバルに活躍できる人材としての資質を高める。

日時：令和3年1月30日(土)、31日(日)

場所：オンライン開催のため各参加校教室

参加者：生徒95名、教員11名

参加校：①愛媛県立松山南高等学校(2名) ②愛媛県立松山北高等学校(23名)
③愛媛県立松山中央高等学校(8名) ④愛媛県立宇和島南中等教育学校(6名)
⑤愛媛県立松山西中等教育学校(6名) ⑥愛媛大学附属高等学校(25名)
⑦愛媛県立松山東高等学校(36名) 計7校

内容：テーマ「私たちの生まれ育った街をずっと大事にしたい！」

【1日目・1/30(土)】

- 13:15～13:30 受付(オンライン接続)
- 13:30～14:30 アイスブレイキング
- 14:30～15:30 アクティビティーⅠ(参加各校の学校紹介・活動報告)
- 15:30～17:00 アクティビティーⅡ(プレゼンテーションコンテスト)
- 17:00～18:00 アクティビティーⅢ(三角ディベート練習)

【2日目・1/31(日)】

- 08:45～09:00 受付(オンライン接続)
- 09:00～10:00 講話(松山市のまちづくりについて
松山市役所 坂の上の雲まちづくり部 まちづくり推進課 矢野幸平氏)
- 10:00～12:00 ディスカッション(SDGs11住み続けられるまちづくりを)
- 12:00～12:40 昼食
- 12:40～14:00 アクティビティーⅣ(プレゼンテーション発表会)
- 14:00～15:00 アクティビティーⅤ(三角ディベート大会)

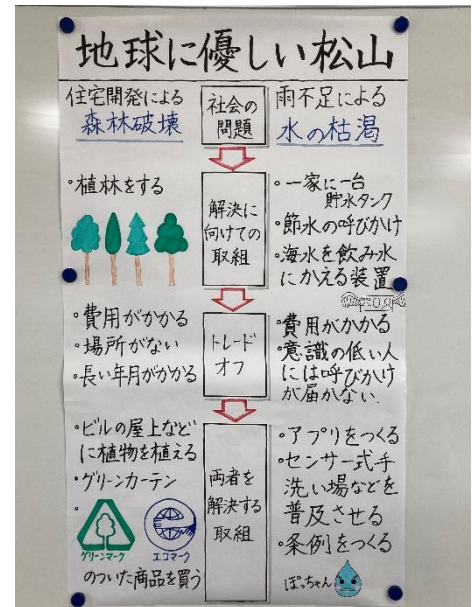
発表内容:

テーマを七つ設定し、各グループが興味のあるものについて【①そのテーマから発生する社会的課題 ②その課題に対する解決策 ③解決することで発生するトレードオフ ④課題とトレードオフをどちらも解決する解決策】について、高校生らしい自由な発想をまとめた。

テーマ：環境

社会的課題	1 森林破壊	2 水の枯渇
解決策	1 植林 2 貯水タンクの普及 節水の呼びかけ 海水を淡水に変えるシステムの開発	
トレードオフ	1 費用がかかる 場所がない 長い年月がかかる 2 費用がかかる 呼びかけが届かない人がある	
その解決策	1 屋上庭園の普及 グリーンカーテンの普及 グリーンマーク・エコマークの商品を選ぶ 2 水の使用量がわかるアプリの開発 センサー式手洗いを普及させる	

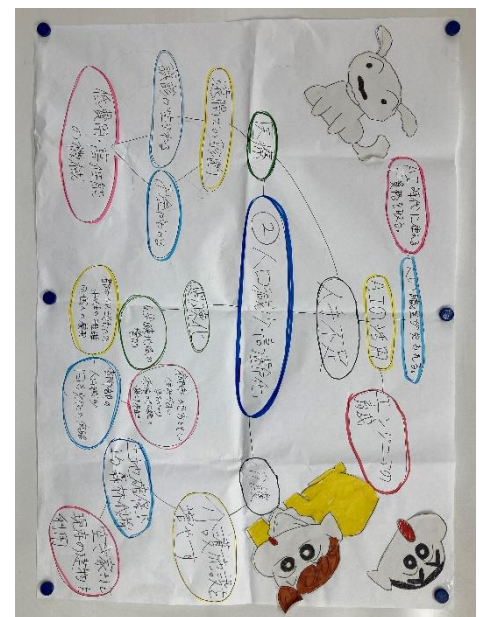
高校生として、節水を呼びかけ資源を大事にしたい。



テーマ：人口減少・高齢化

社会的課題	1 人手不足	2 過疎地域の増加
	3 介護者不足	4 医療不足
解決策	1 AI の活用 2 I ターン・J ターンを推進 外国人を雇用 3 介護施設を増やす 4 遠隔で診断	
トレードオフ	1 人の仕事が奪われる 2 都市部の人口減少 日本文化の衰退 3 森林伐採 4 お金がかかる 誤診	
その解決策	1 資格の取得 2 若者への伝統継承 誰でも住みやすい街づくり 3 空き家の利用 4 低費用高性能の IT 開発	

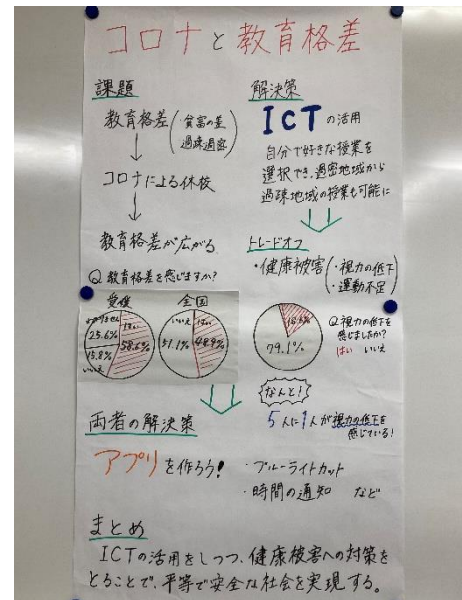
高校生として、若い力が必要とされる場所でのボランティア活動などに積極的に参加したい。



テーマ：教育

社会的課題	教育格差 (新型コロナウイルス感染症でさらに格差が広がる)
解決策	ICT の活用
トレードオフ	視力低下 運動不足
その解決策	使用時間を通知するアプリ ブルーライトカット画面

高校生として、ICT をどんどん活用していく反面、その有害性についてもよく学んでいきたい。



テーマ：エネルギーと廃棄物

社会的課題	ゴミの燃焼の増加
解決策	熱エネルギーを使用 (プール・温泉)
トレードオフ	熱エネルギー変換施設の場所・コスト
その解決策	熱エネルギーを個人の家庭にも配給し、無駄なく効率的に使うことで、コストカットを目指す

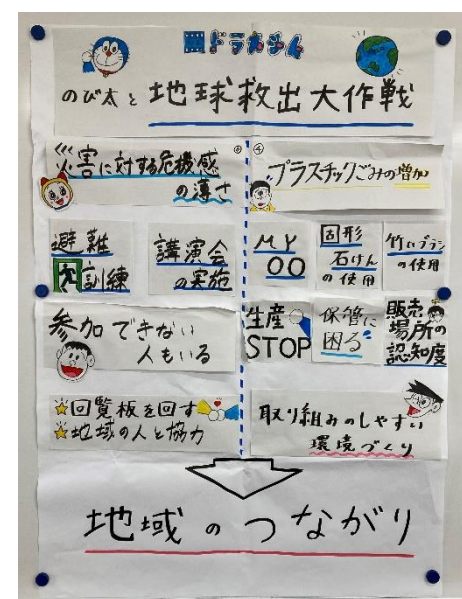
高校生として、ごみを減らす、エネルギーを無駄使いしないなど、普段の生活でできることをしっかりやっていきたい。



テーマ：エネルギーと廃棄物/防災・減災

社会的課題	1 プラスチックごみの増加 2 災害に関する危機感の薄さ
解決策	1 マイボトル・固形石鹸・ケア歯ブラシの使用 2 避難訓練 講演会
トレードオフ	1 売れないと生産ストップ 販売場所の周知がない 2 参加できない人がいる
その解決策	1 売れる仕組みづくり→地域の力を借りる 2 回覧板 地域のつながり

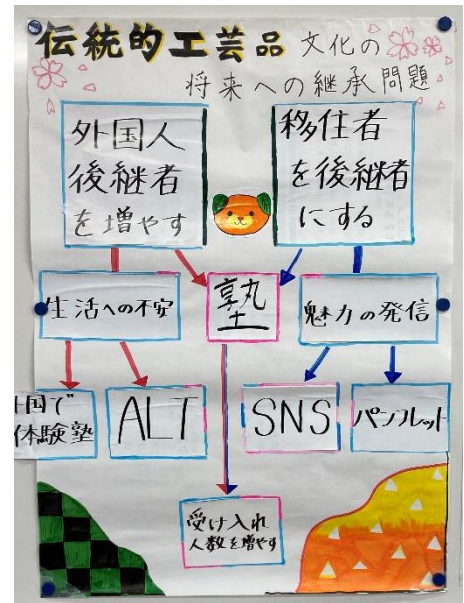
高校生として、地域の一人としてできることから活躍したい。



テーマ：地域の魅力

社会的課題 伝統工芸の伝承
解決策 外国人後継者を増やす
トレードオフ 生活の不安 伝統工芸に対する知識のなさ
その解決策 総合型塾の設立 ALT の活用 他国での魅力の発信

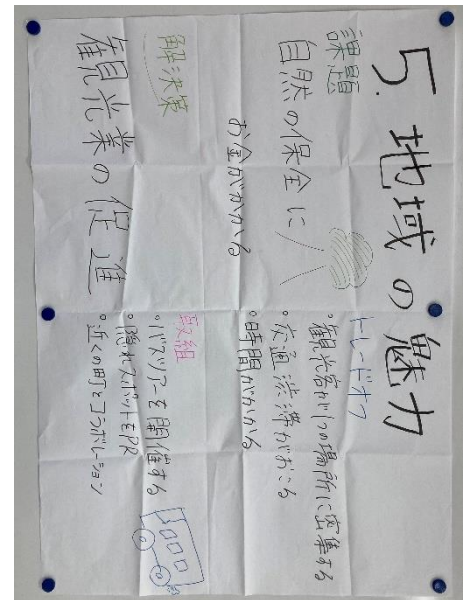
高校生として、伝統工芸に興味を持ち、若い後継者として文化を引き継ぐ責任がある。良さやカッコよさを SNS 等で発信していきたい。



テーマ：地域の魅力

社会的課題 自然の保全に金がかかる
解決策 観光業の促進
トレードオフ 観光客が一つの場所に密集 交通渋滞
その解決策 隠れスポットをPR (分散化) バスツアーを開催 近くの町とコラボして話題性を

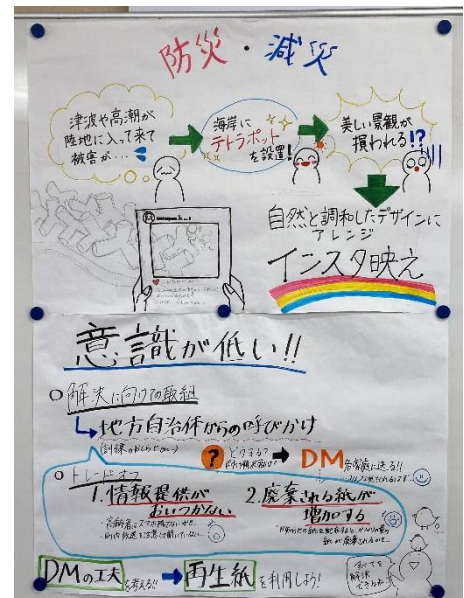
高校生として、高校生の感覚で隠れスポットを見つけ、ツアーを作ってみるのも楽しい。



テーマ：防災・減災

社会的課題 1 津波 高潮 2 市民の意識が低い
解決策 1 海岸にテトラポットを設置 2 自治体からの呼びかけ
トレードオフ 1 美しい景観が損なわれる 2 情報提供が追い付かない (高齢者はスマホがない) 紙の無駄使いになる
その解決策 1 インスタ映えするデザイン 2 再生紙の利用 デバイス (音声) 付き回覧板の利用

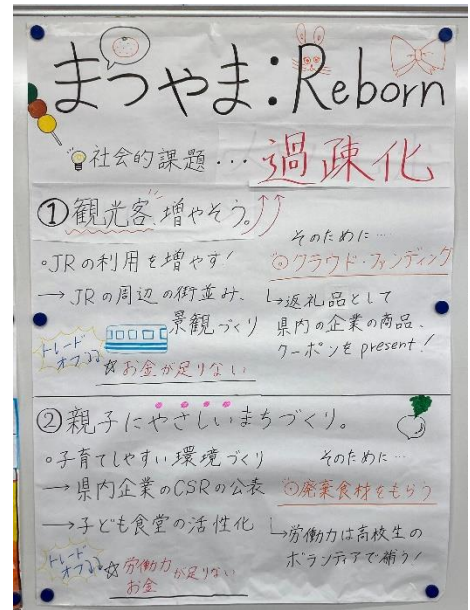
高校生として、防災士の資格を取ったり、地域の市民消防団になるなどできる。



テーマ：地方創生

社会的課題	1 過疎化 2 子育てしにくい
解決策	1 観光客の誘致 JR 周辺の開発 2 企業CSR の公表 (育児休暇) 子ども食堂の活性化
トレードオフ	1 資金が足りない 2 労働力が足りない
その解決策	1 クラウドファンディング 2 高校生ボランティア

高校生として、若者が活躍できる街を作ったり、就職で戻って来たいと思える街を作ったりしていくことが求められる。観光客誘致についてもSNSで若い世代に魅力発信したい。



テーマ：地方創生

社会的課題	過疎化
解決策	人材誘致 移住体験 (I ターン・J ターン)
トレードオフ	つながりが薄くなる 伝統の消滅
その解決策	伝統や景観を未来につなげる (条例化)

高校生として、理想の未来像を声に出すことで、それに近づいていくための方法を生み出していく。



テーマ：地方創生

社会的課題	地元に対する関心の低下
解決策	サイクリングで松山めぐり
トレードオフ	駐輪場の不足
その解決策	サイクルオアシス・トイレの設置 バイクシェア

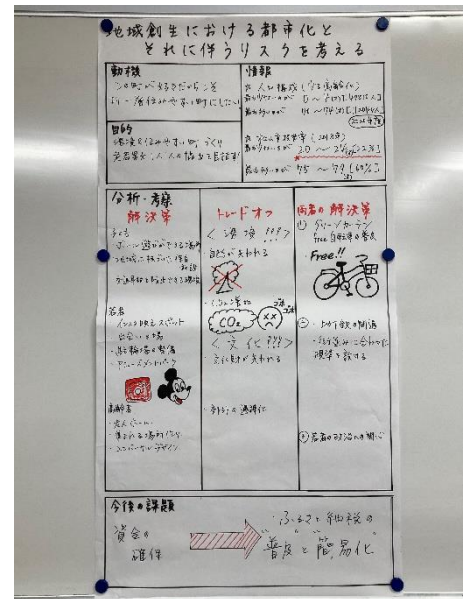
高校生として、このようなサイクルプランを作ってみたが、地図化したり、サイクルステーションで紹介したりするなど、発信していきたい。



テーマ：地方創生

社会的課題 都市化にともなう過疎化
解決策 ボール遊びができる場所の設置 地域に根付いた保育施設の設置 交通事故防止 インスタ映えスポットの開発 駐車場・駐輪場の整備 アミューズメントパークの誘致 老人ホームの建設 ユニバーサルデザインの町づくり
トレードオフ 環境破壊 文化財の喪失 郊外の過疎化
その解決策 グリーンカーテン 無料自転車の貸し出し 地下鉄の開通

高校生として、自分たちの大好きな故郷を、単に大都市化するのではなく、魅力を魅力として認識する目も大切なのだとわかった。進学や就職で離れる前に、郷土愛をもっておきたい。



VI コンソーシアムにおける取組

1 各種取組

(1) 大学との連携

連携先① 愛媛大学

- ・課題研究講師派遣 G明教Ⅲ（2年生GLコース）の課題研究の時間に9講座開設 講師9人及びTA5人が指導
G明教Ⅱ（1年生）の課題研究の時間に講師派遣 4人
- ・講演講師派遣 G明教Ⅰの講演に講師を派遣 講師2人
- ・保健講座講師派遣 1人
- ・運営指導委員会・コンソーシアム会議 委員派遣

連携先② 松山大学

- ・課題研究講師派遣 1講座開設 講師1名が指導
- ・コンソーシアム会議 委員派遣

連携先③ 学習院大学

- ・講演講師派遣 1人

(2) 産業界との連携

連携先① いよぎん地域経済研究センター（IRC）

- ・県内企業FWの紹介
- ・海外FW訪問先紹介
- ・課題研究連携先の紹介
- ・コンソーシアム会議 委員派遣
- ・市内高校生会議講師派遣 1人

連携先② 県内企業FW代替講演

- ・三浦工業、アテックス

連携先③ 海外FW代替講演

- ・三浦工業台湾本社、三浦工業（中国）有限公司

(3) 行政機関等との連携

連携先① 松山市役所

- ・講演講師派遣 総合政策部シティプロモーション推進課
- ・課題研究講師派遣 総合政策部危機管理課
- ・笑顔のまつやま まちかど講座 受講 15講座開設
- ・「ふる里産業人養成講座」開設 総合政策部企画戦略課 3回
- ・保健講座 松山市保健所 松山市保健予防課

- ・運営指導委員会・コンソーシアム会議 委員派遣
- 連携先② 愛媛県国際交流課、(公財)愛媛県国際交流協会(EPIC)
- ・ハワイ高校生との交流

2 コンソーシアム 会議議事録

(1) 第1回コンソーシアム 会議録

～期日：令和2年7月17日 場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室

参加者 西村 秀典氏、井上 圭二氏、西村 勝志氏、北須賀 逸雄氏
 中川 智裕氏、山本 司氏、山崎 薫氏、仙波 隆三氏
 矢野 重禎主幹、近藤 啓司指導主事、嶋村 美和地域協働学習実施支援員
 佐伯 幸治校長、仲尾 頼和教頭、野澤 道生教頭、高山 由美事務長
 皆川 雅文GL事業課長、森 恵美子GL事業課員、村上 曜介GL事業課員

【佐伯校長挨拶】

5年間のSGH事業を継承して、昨年度よりグローバル型に取り組んでいる。生徒一人一人が世界に羽ばたいて広い視野を持って、思考しながら考えながら地域課題に向き合って、地域に貢献できるグローバルリーダーとして活躍できる人材の育成を目指している。しかし、この事業に取り組む一番の肝は、生徒全員が課題研究に取り組み、学校全体としての探究する力を向上させることである。自分で課題を見つけ、自分で考えて行動する力を学校全体で育む文化を定着させていきたい。何故？どうして？という問いかけを、各教科だけでなく学校生活全体に広げていきたい。それこそが、正解のない社会で生き抜くための力になり武器になっていく。昨年度の課題にあった課題研究の指導の仕方について、改善にも取り組んでいるが、それが妥当なものなのかの御指導・御助言をお願いしたい。

【事業内容説明】 (GL事業課長) 本年度の取組について
 協議

【山本司氏】

新型コロナウイルスの影響で、やむを得ずリモートでの取組をしているが、リモートであれば世界と直接繋がることができる。ピンチをチャンスに変えるような取組を行えば、効果を高めることができるのではないかと。対面でしか効果が上がらないものと、リモートで効果が上がるものとを上手く組み合わせたい。

【西村勝志氏】

この時期までに、多くのことが実施されていて感心した。2年生のGLコース生を80名に絞っているが、もったないと感じた。希望する学生が選択できないものか。1年生の課題研究を本校の先生方で行っていることは素晴らしい取組であるが、内容的にはテーマの設定が限定的になっている。幅広くするために外部の講師との連携を図っていく必要があるのではないかと。

【北須賀逸雄氏】

課題研究で培った思考力は大学・社会人で生かされていくので重要ではあるが、先生方の負担が大きくなるのが課題ではないか。外部の人材を活用していく計画を立てていくことが必要ではないか。グローバル人材育成振興基金があるので、有効に活用すれば外部人材の活用も十分できるのではないかと。

【中川智裕氏】

IRCは地域に関する研究活動をし、情報発信している会社であるので、課題研究で何らかのお手伝いができるのではないかと。我々がレクチャーするだけでなく、高校生からの意見も我々にとっては新しい切り口になり刺激にもなり得るので、協力・連携できるのではないかと。

【西村秀典氏】

昨年、まちかど講座で講座を担当したが、生徒に指導するために私自身改めて勉強し直した。松山市の職員にとっても、まちかど講座で生徒の前で話をすることは、勉強になることであるので今後も活用して欲しい。地域に根ざした人材の育成は、松山市にとっても求められることなので協力していきたい。

【野澤教頭】

1年生の担当教員全員で課題研究に取り組むことは、教員自身のスペックを上げることに繋がる。しかし、指導できる分野に偏りが見られ、生徒のニーズと合わないこともあるので、コンソーシアムの方々から、不足している分野の人材などを教えていただきたい。

【井上圭二氏】

現在の計画表があるが、今の時点で未定の部分があるのか。

【GL事業課長】

現在のところ、講演と課題研究等で予定は決まっている。しかし、新型コロナウイルスの影響によっては、県内フィールドワークが実施できない可能性もある。

【北須賀逸雄氏】

1年生の課題研究の時間が12回計画されているが、この中に外部人材の活用は考えているのか。積極的に活用するように取り組んでほしい。

【GL事業課長】

360名全体が聞く講演は、この中には計画していない。各先生方が個別に外部人材を招いてお話を伺う計画はしている。それ以外でも嶋村地域協働学習実施支援員のお力をお借りして、外部人材と繋げるように努めていきたい。

【山本司氏】

我々の団体も連絡いただけたら協力できる。来年度以降も2年生は80名で実施するのか。各先生方が熱心にすれば希望者が増えるのではないかと。

【GL事業課長】

増やしたいとは考えているが、最終的には論文作成を課しているため、かなり意識が高い生徒ではないと学業や部活動との両立には苦勞することも考えられる。生徒の様子を見ながら検討していきたい。

【西村勝志氏】

本校OBの方に指導をお願いしても良いのではないかと。SDGsの考え方では、経済・社会・環境の分野を学ぶことが重要であり、本校OBの方なら直接そのような分野で活躍された人材もいるはずである。同窓会なども活用しながら取り組んで行ってみてはどうか。後輩のためならと、活動して下さる方も多いのではないかと。

【仙波隆三氏】

今までの国際交流は平時の時だからできたことである。新型コロナウイルスによる影響は、グローバルな現代ならではの影響でもあり、国際化のリスクである感染症や国際紛争・戦争の問題にどう対応していくのかを考える機会にしてはどうか。国際化の中で自分をどう守るのか、日本の常識が世界の常識でないこと、危機的状況下での対応や可能な国際交流のあり方などを学ぶ良い機会として捉えてほしい。

【山崎薫氏】

昨年度行っていた海外フィールド報告会は実施しないのか。

【GL事業課長】

昨年度のような形では実施しないが、フィールドワーク実施後は学年集会や3月の報告会などを活用し、フィールドワークの報告を行い、他の生徒の海外への興味・関心の喚起に繋げていきたい。

【山本司氏】

本年度実施できなければ、1年生は貴重な発表を聞く機会が失われるので、昨年参加した生徒にもう一度発表させても良いのではないかと。

【佐伯校長挨拶】

貴重な御意見ありがとうございました。課題研究に不安を抱えていたが光が見えた気がする。課題研究が調べ学習に終わらないように、自分で課題を見つけ探究できるように質を高めることが必要であり指導体制を構築していくことが重要である。今回の貴重な御意見を参考にし、全員が課題研究に取り組むことができるように、意見をいただいたOBの活用などを行ってほしい。また、外部の方をお願いする場合にはお互いにWin-Winの関係になれるように取り組んでほしい。

(2) 第2回コンソーシアム 会議録

～期日：令和3年3月4日 場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室

参加者 田中健太郎氏、西村 勝志氏、北須賀 逸雄氏、中川 智裕氏、山本 司氏、山崎 薫氏
仙波 隆三氏、矢野 重禎主幹、近藤 啓司指導主事、嶋村 美和地域協働学習実施支援員
梶原 春菜カリキュラム開発等専門家、仲尾 頼和教頭、野澤 道生教頭、佐々木 進教頭
高山 由美事務長、皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員

【野澤教頭挨拶】

本年度の取組において各員からの忌憚のない御意見や助言をいただき、来年度への取組の改善を行ってほしい。

【事業内容説明】 (GL事業課長)

本年度の取組及び成果と課題について

来年度の取組と事業終了後の計画について

協議

【山本司氏】

2年ぶりの発表会であったが、リラックスして発表できていた。発表の機会を設けることができ、生徒の成長している姿が見られて嬉しかった。今まで真摯に事業に取り組んできた成果であるので、このような発表会はぜひ継続して行ってほしい。特に、観光甲子園で準グランプリを受賞された作品は素晴らしく、これからも様々な場面で活用してほしい。

コロナ禍だからできることを、生徒ともに考えていくことは大きな財産になるので、今後も工夫しながら取り組んでほしい。

【中川智弘氏】

発表会を見て、年々生徒のレベルが上がっていると感じた。生徒の努力だけでなく指導している先生方の成果ができていないか。私たちも来年度、2年生の課題研究の1講座を担当するが、本年度は生徒の取り組みやすい内容が多かったので、IRCの専門が生かせるような一歩踏み込んだ「産業」などを伝えていきたい。

【西村勝志氏】

シンポジウムのテーマを、医療と工学、農学と医学など複数の分野を結びつけているが、これからの社会では異なる事項を結びつけて考えていくが求められており、良かったのではないかと。

現在行っている内容を発展的につなげていくテーマも考えて行ってほしい。先輩達が研究した内容をさらにブラッシュアップさせるような取組があっても良いのではないかと。

【GL事業課長】

来年度は、2、3年生が一部同時時間帯で課題研究を実施するので、3年生が2年生を指導できないか、担当の先生と相談しながら準備している。

【北須賀逸雄氏】

松山大学として来年度から薬学部の2講座を新たに開設することができた。

今年度の成果はオンラインでの取組であるが、来年度以降もオンラインを有効に活用しながら、さらに発展した取組に挑戦して行ってほしい。

今年度から教員主導で課題研究に取り組んでいるが、その成果はどのようなのか。

【GL事業課長】

地域協働学習実施支援員の嶋村氏やカリキュラム開発等専門家の梶原氏の協力を得て、課題研究の進め方の資料やオンライン授業を行った。生徒アンケートでは1年間のGL事業の中で課題研究が最も印象に残っている生徒が多く、取組としては上手くいっているのではないかと。各先生方が創意工夫して、生徒のために指導していただいた成果ではないかと。GL事業課としてのサポートは十分といえず来年度の課題として取り組んでいきたい。

【山崎薫氏】

1年生のやさしい日本語の発表には、自分自身が啓発された。

松山市内高校生会議はどのような取組をされているのか。

【GL事業課】

月に1回、市内の高校に案内し実施している。毎月SDGsの課題を一つ選び、専門家を招聘して実施している。専門家の話には生徒達は大きな刺激を受けており、参加者が増えているのではないかと。また、運営から企画まで生徒が行っており、生徒自身の成長にもつながっている。

【田中健太郎氏】

コロナ禍で予定変更が多かったにも関わらず、しっかり実施できている。オンラインの活用も今後の事業にさらに生かして行ってほしい。松山市として、ふる里産業人養成講座での協力ができ、来年度以降もまた協力していきたい。

【仙波隆三氏】

国際交流は現地に赴いて、会って交流することが大切であったが、コロナ禍の今、リモートでの交流が貴重な体験になったのではないかと。直接交流とリモートでの交流を組み合わせた方法が、交流の質を上げていく一つの戦略となり武器になるのではないかと。さらに発展できるように取り組んで行ってほしい。

【西村勝志氏】

愛媛大学は来年度からZoomではなくTeamsを利用していく。

【野澤教頭挨拶】

貴重な御意見ありがとうございました。来年度も御協力よろしく申し上げます。

VI その他の取組

その他に以下の内容の取組を実施した。

	内容
1	松山東高等学校グローバル人材育成振興会
2	運営指導委員会

1 松山東高等学校グローバル人材育成振興会

(1) 発足経緯

平成 27 年度に実施したウガンダFWの際に、その費用の一部を寄付によって賄うためにPTA会長を代表とする「松山東高等学校グローバル人材育成振興会」として発足した。その後、平成 28 年度に規約を改正し、対象をウガンダFWのみならずグローバルリーダー育成における様々な取組に活用できるようにして新たな「松山東高等学校グローバル人材育成振興会」を結成した。振興会の会長には、永野能弘氏（四国建販代表取締役社長）に就任していただき、学校・同窓会とは分離した第三者的組織となった。

(2) 振興会趣意書・役員表

松山東高等学校グローバル人材育成振興会 趣意書

皆様方には、時下、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。日ごろから松山東高校の教育活動に対しまして格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、松山東高校は平成 26 年度から文部科学省の「スーパーグローバルハイスクール（SGH）」事業の指定を受け、「東高がんばっていきましょい ～ALL愛媛で育てる世界にはばたく人材～」の研究開発構想名のもと、輝かしい歴史と伝統を受け継ぎながら、SGH事業を通して世界で活躍できる人間的魅力のあるグローバルリーダーを育てる取組を行ってきました。

この事業を通して「世界の持続可能な発展に貢献する意欲と深い教養を身に付けた人材」、「問題解決力・コミュニケーション能力等の国際的素養を持つ人材」、「日本人としてのアイデンティティを持ち、愛媛や日本の魅力を世界に発信する人材」が松山東高校から多く輩出するよう、5年間にわたり課題研究を始めとする取組が展開されてきました。今までの生徒の熱心な活動の様子は、本校ホームページやGL News Letter等で紹介しています。

平成 28 年、これまでの生徒の取組や成果を鑑み、新たに松山東高等学校グローバル人材育成振興会を立ち上げました。毎年皆様から会費を募り、国際感覚・国際的教養を身に付けたグローバル人材を育成するために広く活用してきました。令和元年度からは、SGH事業のレガシーを継承し、地域課題に取り組む「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に文部科学省から新たに指定を受けました。つきましては、今後も引き続き皆様方より会費を募り、生徒の活動を支援していきたいと考えております。なお、使途につきましては下記の内容を予定しております。

このことは、松山東高校のみならず松山、愛媛さらには日本の一層の発展に資するものと考えます。何とぞ、この趣旨を御理解の上、皆様方の温かい御支援、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和2年7月吉日

松山東高等学校グローバル人材育成振興会 会長 永野 能弘

<会費の使途の具体例>

- ◆海外フィールドワーク・海外研修に参加する生徒等への補助
- ◆学会・研究会で発表する生徒等への補助
- ◆講演会等実施時の講師旅費・謝金
- ◆教育活動に役立つ ICT 機器の整備

松山東高等学校グローバル人材育成振興会役員

会 長	永 野 能 弘	四国建設機械販売株式会社代表取締役社長（同窓会副会長）
副 会 長	稲 葉 隆	大一ガス株式会社常務取締役
副 会 長	光 田 正	松山東高校PTA会長
顧 問	和 田 真 志	松山東高校校長
顧 問	村 田 裕 司	同窓会長
理 事	重 松 栄 治	いよぎん地域経済研究センター取締役社長
理 事	宇 和 上 正	同窓会副会長
理 事	大 空 佳 穂 里	松山東高校PTA副会長
理 事	仲 尾 頼 和	松山東高校教頭

理事	野澤道生	松山東高校教頭
理事	高山由美	松山東高校事務長
会計監査	井手一隆	同窓会事務局長
会計監査	中野記久子	松山東高校PTA監査

2 運営指導委員会 議事録

(1) 令和2年度 第1回 松山東地域との協働による高等学校教育改革推進事業運営指導委員会 記録

～日時：令和2年7月17日（金）場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室～

参加者 井上 敏憲委員、佐伯 三麻子委員、金村 俊治委員、菅 紀子委員、
寺村 尚起委員、近藤 実委員、高岡 伸夫委員、矢野 重禎主幹、近藤 啓司指導主事
佐伯 幸治校長、仲尾 頼和教頭、野澤 道生教頭、高山 由美事務長
皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員

【矢野主幹挨拶】

松山市の職員の方には、「笑顔のまつやままちかど講座」において、市制の取組について御講義をさせていただくなど、すでに協力いただいていることに感謝申し上げます。

本事業は、地域課題の解決等の学習を通して、各教科・科目や学校設定科目等において、体系的なカリキュラムを構築し、地域ならではの、新しい価値を創造する人材の育成を目指している。県教育委員会としても、地域との協働によるコンソーシアムの構築に加え、専門の見地から指導等に当たっていただく本委員会を設置することで、取組状況の把握と御助言等を行っていただきたいと考えている。

【井上委員長挨拶】

2年目に入り、本格的な課題研究がスタートしている。昨年度から順調に実施されているが、新型コロナウイルスの影響で出鼻をくじかれた状況になっているが、その新型コロナ対策を含めて、生徒の状況を教えていただきたい。

【佐伯校長挨拶】

5年間のSGH事業を継承して、昨年度よりグローバル型に取り組んでいる。生徒一人一人が世界に羽ばたいて、思考しながら考えながら地域課題に向き合っており、地域に貢献できるグローバルリーダーとして活躍できる人材の育成を目指している。しかし、この事業に取り組む一番の肝は、生徒全員が課題研究に取り組み、学校全体として探究する力を向上させることである。自分で課題を見つけ、自分で考えて行動する力を身につけさせ、何故？どうして？という問いかけを、各教科だけでなく学校生活全体に広げていきたい。それこそが、正解のない社会で生き抜くための力になり武器になっていく。昨年度の課題にあった課題研究の指導の仕方について、改善にも取り組んでいるので御指導・御助言をお願いしたい。

【事業内容説明】（GL事業課長） 本年度の取組について
協議

【井上委員長】

課題研究の進め方で見直しをされているが、本校の教員が指導する形態は、本年度が初めてであるのか。

【GL事業課長】

本事業が終了後も継続して実施できるように本年度から取り組む。本年度生じた課題を来年度以降に生かせるように取り組んでいきたい。

【金村委員】

講演を多く取り入れており、興味深いテーマではあるが、講演の理解を深めるために、講演後に生徒どうしのディスカッションやワークショップのようなアクティブラーニングの手法を取り入れられているのか。理解をより深めたり、他人と意見を戦わせたりすることで、新しい考え方の発見に繋げていくことができるのではないか。

【GL事業課長】

講演によっては、講演中にディスカッションするような場面もあるが、講演の事後の時間は十分にとれていないのが現状である。生徒にはワークシートを作成させ、それによって来年度への改善点を検討している。

【金村委員】

時間的に難しいかもしれないが、講演の時間を少なくとも、生徒どうしのディスカッションの時間を確保した方が、効果が上がるのではないかと。大学ではそのようなことが工夫されていると思うのでアドバイスをいただいても良いのではないかと。

【井上委員長】

講演に関しては、事前・事後学習が大切であると言われている。今回の取組は、講演で情報を十分与えて

から、課題研究において深める取組をなされている。アンケートなどを工夫していけば、講演の効果をさらに上げていくことは可能であるのではないかと。

【佐伯委員】

現在、やっていることを可視化することが求められている。e-ポートフォリオのように、自分の学びの過程を記録していくことが大切である。

言語活動の充実、East CLILのような取組が、課題研究とどのように関連しているのか。

【稲葉GL課員】

CLILは全教員で取り組んでいる。課題研究は、各教員が得意な分野を担当しているので、直接的には繋がっていない。しかし、英語の文献を読むときや英語で発表をまとめる活動などで言語活動の充実の取組が生かされているのではないかと考えている。

【寺村委員】

SGH事業から課題研究などに長年取り組まれているが、卒業生からの振り返りを行うことによって、課題研究の効果の検証を行う必要があるのではないかと。講演会なども、企業で活躍されている卒業生や学生などが行くと、より身近に感じられるのではないかと。また、日本を知ることは、海外から見ることが一番であるので、このような状況ではあるが、海外への活動も積極的に行ってほしい。

【井上委員長】

松山南高校はSSH事業で追跡調査等を行われているようである。

【近藤委員】

今回のSSH指定では、文部科学省より追跡調査が十分できていたと評価された。また、1期生の卒業生が、アメリカの海外研修を企画・運営などに関わっていただいている。

【菅委員】

e-ポートフォリオは大切であり、活動した内容を記録し、自分で管理し、自分のアピールに繋げていくことが必要である。新型コロナウイルスの影響下で、計画したものができない状況下であるが、リモートだからできることがあるのではないかと。工夫次第で新たな取り組みができるのではないかと。課題研究においては、グローバルの主旨を理解して幅広いテーマ設定ができており頼もしく感じ、事業終了後にも繋げていってほしい。

【高岡委員】

このプログラムを体験して社会に出た卒業生の追跡調査を行い、どのような人材に育っているかの見える化を行ってほしい。松山市としても地方創生、人口減少対策の一つの方策として高校との連携による人材育成に取り組んでいるので、これからも要望があれば、連絡してほしい。SDGsへの取組も松山市では積極的に取り組んでいるので、課題研究等でも活用してほしい。

【井上委員】

松山市との連携もできており、これからも新しいパートナーとして活動して行ってほしい。GL事業ではいろいろなことに取り組まれている。たくさんのことをするとう表面的になる恐れがある。課題研究においても、各先生方が工夫をされているが、多くのことを実行しようとして無理が生じていないか。ある程度絞って、テーマを深められる時間を確保して行ってほしい。

(2) 令和2年度 第2回 松山東地域との協働による高等学校教育改革推進事業運営指導委員会 記録

～日時：令和3年3月4日（木） 場所：愛媛県立松山東高等学校 会議室～

参加者 井上 敏憲委員、佐伯 三麻子委員、金村 俊治委員、菅 紀子委員、
寺村 尚起委員、高岡 伸夫委員、矢野 重禎主幹、近藤 啓司指導主事
仲尾 頼和教頭、野澤 道生教頭、佐々木 進教頭、高山 由美事務長
皆川 雅文GL事業課長、稲葉 麻衣GL事業課員

【矢野主幹挨拶】

本事業は2年目になるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、海外FWが実施できない中、国内外の企業や学校と連携したオンラインでの講演や代替交流を実施するなど、感染防止対策を図りながら可能な限り最大限の取組を実施している。体系的なカリキュラムを構築し、地域ならではの新しい価値を創造する人材の育成を目指しており、専門的見地からの忌憚のない指導や助言を行っていただきたい。

【野澤教頭挨拶】

本事業がより良いものになるように忌憚のない御意見や御助言をお願いしたい。

【事業内容説明】 (GL事業課長)

本年度の取組及び成果と課題について

来年度の取組と事業終了後の計画について

協議

【井上委員長】

事業終了後の教育課程の特例申請についてはどうなのか。情報が大学共通テストの科目として取り扱われるが大丈夫なのか。

【GL事業課長】

情報と保健を1時間ずつG明教としている。G明教の中で、プレゼンテーション作成やポスター作成を行っており、情報の代替としている。来年度は、情報課と協働し情報リテラシーに関わる取組も入れて行きたいと考えている。将来的には、総単位数の工夫により、生徒が不利益を被ることがないように取り組んでいきたい。

【高岡委員】

県内企業FWや海外FWの代替講演はどのような形で実施されたのか。

【GL事業課長】

三浦工業株式会社と株式会社アテックスの協力を得て実施した。リモートで各企業の業務内容や海外進出の様子、海外で事業を進めていく上での課題やその対応策、地域貢献の取組などを説明していただき、その後質疑応答を行った。海外とは、交流予定校とオンラインで、学校紹介やレクレーションを行い、交流を図った。来年度もオンラインであれば、参加人数を増やしていきたい。

【佐伯委員】

SDGsの観点から世界の諸問題を学習する上において、模擬国連の試みは意義深い。ただ、高校生がグローバル・イシューをどのように自らの課題として捉えたのか、グローバルな課題としてどのように落とし込んだのかを知りたい。また、模擬国連を実施した際の生徒達の反応はどうだったのか。

【GL課員】

1年生の取組なので、進め方やイシューに対して何を調べるのか、模擬国連とは何かなどについて理解している段階である。

【野澤教頭】

2年次にGLコースを希望する生徒の面接をしている中で、模擬国連の感想が多かった。その活動を通して、自分達の要求や主張をするためには、相手が聞いてもらえる内容に落とし込んでいくことが必要であるということが分かっており、コミュニケーション的合理性を実体験したのではないかと。

【金村委員】

課題研究において、SDGsを扱ったものについては、地域の資源を生かす比較的楽しいテーマのものが多かった。講演を聞いて、身近な問題や課題に落とし込んでみたり、当事者の発言を踏まえた情報収集に基づいて新たなテーマ設定したりすることが大事である。SDGsについて生徒達は身近な問題だと感じているのか。

【GL課員】

愛媛大学の先生から楽しく講演をしていただいている。掲示物などでも啓発は行っており、教科書等でも取り上げられており、内容については全ての生徒が知っている。

【金村委員】

具体的な深刻なテーマである貧困とかに対して、自分の考えや提案などがどのようなレベルになっているのか。

【GL事業課長】

SGH部の活動の中では、SDGsのそれぞれのテーマに対する学習や議論が盛んになされており、考えをまとめることや提案などを行っている。また、1年生のいくつかの講座でも行っている。さらに、2年生においては、大学の専門家からの指導により、より深い学びが実践されており、高いレベルになっていると思われる。

【井上委員長】

課題研究の中で、必ずSDGsに関連づけようとするれば、窮屈な状態になってしまうので、現在のような取組で良いのではないかと。

【寺村委員】

海外FWを再開する基準はあるのか。この1年で、ハード面で困ったことはなかったのか。

【GL事業課長】

外務省の海外渡航に関する情報や国内外の情勢を踏まえて考えていきたいが、来年度は可能性のある限り挑戦していきたい。ハード面は、ノートパソコン等の不足で、ポスターづくりは苦労したが、来年度からは1人1台のタブレットが支給されるので改善されると考えている。

【寺村委員】

1年生のポスターで、政治や選挙、教育に関して、踏み込んだ内容となっていたが、生徒の考えをどのように生かしていくのか、また、今後どのようにこの生徒達を育てていくのかを知りたい。

【GL事業課長】

来年度から松山市選挙管理委員会からも講師を招いて講座を開設している。その講座を受講する生徒達を中心として、主権者教育を実施したり、高校生の投票率向上のための活動を行ったりして、本校以外にも普及を図っていききたい。

【菅委員】

「EUがあなたの学校にやってくる」ではリトアニアの大使が来校されているが、その経緯はどのようになっているのか。また、生徒の反応がどうであったかを知りたい。

【GL事業課長】

本年度はコロナ禍で交流の機会が限られており、応募させていただいた。どの国の大使が来られるかは指定できない。2年生のGLコース生以外の交流の機会として実施したが、EUへの関心が高まるとともに、リトアニアについての理解も深まる貴重な学びの機会となった。全体会の後、会議室で質疑応答を行ったが、参加した生徒から多くの質問があり、有意義な時間となった。

【井上委員長】

来年度の計画の中で中四国高校生会議が計画されているが、新たなものか。

【GL事業課長】

SGH事業の時から実施しており、本年度は5回目を実施した。コロナ禍であり、県外からの参加はなかったが、県内から多くの高校生が参加してくれた。

【井上委員長】

グローバルな取組なので、広げることや数を競うことは必要ない。継続していくことが大切である。

【佐伯委員】

防災教育はとても大切である。今日の生徒の発表の中に「やさしい日本語」という提案があったが、ピクトグラムの有効活用によって有用な情報を伝達することも可能である。防災講座が開設されており、取り組んでいる生徒がいるが、生徒の関心は高いのか。

【GL事業課長】

1年生、2年生ともに希望者による講座であるため、もともと生徒の防災に対する意識は高いと思われる。また、専門家の松山市の危機管理課の芝さんの指導により、その意識はさらに高まっており、防災士の資格に挑戦した生徒もいる。

【井上委員長】

生徒達は意欲的に本事業に取り組んでおり、東高の指導体制が着実にスキルアップしているのではないかと。十分な成果を上げていると思われるので、最後の1年間ではあるが、生徒のために新たな刺激を与えていき、さらなる成長をさせてほしい。

編集後記

5年間のSGH事業と昨年度のGL事業の実施により、本年度も計画通り事業を推進できるのではないかとという慢心を、新型コロナウイルスの攻撃によって打ち砕かれた1年であった。年度当初の計画は、その都度変更を余儀なくされ、外部機関と交渉し新たな計画を立てても再びの事業の変更。心が折れそうになったとき、支えていただいたのは、今まで培ってきたコンソーシアムの方々による手厚い支援と、本校教職員の協力体制、そして何より生徒の事業に真摯に取り組む姿勢でした。「GLコースの学習ができたことに強く感謝している。コロナ禍でも発表等のチャンスがあったことに感謝している」生徒の感想の一文であるが、コロナ禍の影響で多くの行事が中止や縮小される中、感染防止対策をした上で発表会の実施が公開でできたことは、我々が正しく恐れること、諦めないこと、挑戦することの大切さ等、多くのことを再認識する機会となりました。また、「ピンチはチャンス」といわれるように、オンラインによる新たな可能性も見出せる機会となりました。

いよいよ来年度は本事業最終年度になります。地域から支えていただいている県立学校として、地域に貢献できる人材、また進学校として、世界や日本全体の発展に寄与できる人材の育成を目指して、教職員・生徒一同「東高がんばっていきましょう」の合言葉のもと精進していきます。

最後に本年度も課題研究等で支援をいただいた愛媛大学や松山大学の先生方、講演や各種交流に協力・支援をいただいた愛媛県内の企業関係者の皆様、指導・助言をいただいた愛媛県教育委員会の皆様、さらには、様々な研修の機会を提供していただいた松山市役所や関係機関の皆様のおかげで実践できたと考えており、深く感謝申し上げます。これからも、東高に今まで以上に温かい御支援をよろしく願います。

第4部

関係資料

- 1 本年度教育課程表（令和元年・2年度入学生）
- 2 1年生 課題研究成果（ポスター）例
- 3 2年生 課題研究成果（ポスター）例
- 4 本年度取組概要図

1 本年度教育課程表

令和2年度 教育課程表

令和元・2年度入学（普通科）

愛媛県立松山東高等学校（全日制・本校）

区分	科目	単位数	I 型				I型GLコース				II 型				II型GLコース									
			1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計						
国語	国語総合	4	5			5	5			5	5			5	5			5						
	現代文B	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4						
	古典B	4		3	3	6		3	3	6		3	3	6		3	3	6						
地理 歴史	世界史A	2										1	1	2			1	1	2					
	世界史B	4		4		4・8		4		4・8														
	日本史B	4			3	0・3・7			3	0・3・7									0・5					
	地理B	4			3	0・3・7			3	0・3・7									0・5					
公民	現代社会	2	2			2	2			2	2			2	2			2						
	倫理	2			2	0・2			2	0・2			2	0・2				2						
	政治・経済	2			2	0・2			2	0・2			2	0・2				2						
数学	数学Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	3			3						
	数学Ⅱ	4	1	3		4	1	3		4	1	3		4	1	3		4						
	数学Ⅲ	5									1	5		6		1	5		6					
	数学A	2	2			2	2			2	2			2	2			2						
	数学B	2		2		2		2		2		2		2		2		2						
	☆数学探究Ⅰ	3			△3	0・3			△3	0・3														
	☆数学探究Ⅱ	2			※2	0・2			※2	0・2														
理科	物理基礎	2									3		3		3		3							
	物理	4											0・4				0・4							
	化学基礎	2	2			2	2			2			2				2							
	化学	4			□4	0・4			□4	0・4		2	4	4	6		2	4	4	6				
	生物基礎	2		2		2		2		2	3		3		3		3							
	生物	4			□4	0・4			□4	0・4				0・4				0・4						
	地学基礎	2		2		2		2		2														
	地学	4			□4	0・4			□4	0・4														
	☆化学探究	2			○2	0・2			○2	0・2														
☆生物探究	2			○2	0・2			○2	0・2															
☆地学探究	2			○2	0・2			○2	0・2															
保健 体育	体育	7~8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8	3	3	2	8						
	保健	2	1	1		2	1			1	1	1		2	1			1						
芸術	音楽Ⅰ	2				0・2				0・2				0・2				0・2						
	美術Ⅰ	2				0・2				0・2				0・2				0・2						
	書道Ⅰ	2				0・2				0・2				0・2				0・2						
	☆音楽探究	3			△3	0・3			△3	0・3														
	☆美術探究	3			△3	0・3			△3	0・3														
	☆書道探究	3			△3	0・3			△3	0・3														
	☆音楽表現	2			※2	0・2			※2	0・2														
☆美術表現	2			※2	0・2			※2	0・2															
☆書道表現	2			※2	0・2			※2	0・2															
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3	3			3	3			3	3			3						
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4		4		4		4		3		3		3		3						
	コミュニケーション英語Ⅲ	4			4	4		4		4			4	4			4	4						
	英語表現Ⅰ	2	3			3	3			3	3			3	3			3						
英語表現Ⅱ	4		2	3	5		2	3	5		2	2	4		2	2	4							
家庭	家庭基礎	2	2			2	2			2	2			2	2			2						
情報	情報の科学	2	1			1	1			1	1			1	1			1						
共通	教科・科目計	30	31	29・31		90・92	30	30	29・31		89・91	30	31	31		92	30	30	31	91				
家庭	生活と福祉	2~6				0・2	0・2			0・2	0・2													
	フードデザイン	2~6			※2	0・2	0・2			0・2	0・2													
専門	教科・科目計			0・2		0・2			0・2		0・2													
小計			30	31	31		92	30	30	31		91	30	31	31		92	30	30	31	91			
総合的な探究の時間	3~6	2	1	1		4		2	2	1		5		2	1	1		4		2	2	1		5
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1		3		1	1	1		3		1	1	1		3		1	1	1		3
合計			33	33	33		99	33	33	33		99	33	33	33		99	33	33	33		99		

備考

- I型は文科系進学類型。I型GLコースは、文科系進学類型で「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の対象となるコース。
- II型は理科系進学類型。II型GLコースは、理科系進学類型で「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の対象となるコース。
- ☆は学校設定科目。
- △印から3単位、※印から2単位を選択する。ただし、数学探究IIを選択する者は数学探究Iも選択する。
- 2年次に地理B（日本史B）を選択した者は、3年次に日本史B（地理B）を選択することができない。
- I型、I型GLコースの第3学年の地歴公民の2つの選択科目を、ともに世界史B（地理B）とすることはできない。
- I型、I型GLコースの第3学年の理科は、化学探究、生物探究、地学探究を2科目又は化学、生物、地学を1科目選択する。
- まとめ取りを実施する科目
 - 地歴（2年II型、II型GLコース）：日本史Bまたは地理B（4月～10月で延べ55時間、11月～3月で延べ15時間）、世界史A（11月～3月で延べ35時間）
 - 地歴（3年II型、II型GLコース）：日本史Bまたは地理B（4月～7月で延べ20時間、7月～3月で延べ85時間）、世界史A（4月～7月で延べ35時間）
 - 数学（2年I型、I型GLコース）：数学Ⅱ（4月～10月、延べ105時間）、数学B（11月～3月、延べ70時間）
 - 数学（2年II型、II型GLコース）：数学Ⅱ（4月～9月、延べ105時間）、数学Ⅲ（2月～3月、延べ35時間）、数学B（10月～1月、延べ70時間）
 - 数学（1年）：数学Ⅰ（4月～6月、11月～12月延べ105時間）、数学Ⅱ（1月～3月、延べ35時間）、数学A（7月～10月、延べ70時間）
- 「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の特例措置により、情報の科学、保健を、それぞれ1単位減ずる。（保健のI型、II型を除く。）
- 英語表現Ⅰ・Ⅱでは、それぞれの科目の目標を踏まえた上で、SGH事業において設置した学校設定科目「Discussion & Debate」での取組を継続し、年間を通じて即典型ディベートを体系的に学習することにより、論理的思考力や批判的思考力を段階的に育成する。
- 総合的な探究の時間（G明教）では、質の高い課題研究を全生徒が行うことを柱とし、体験と実践を伴った探究的な学びを実践する。

我ら「文化ホールおたすけ隊」!



愛媛県立松山東高等学校

対馬光汰 窪田豊輝 白田蒼瑛 大脊戸敬汰 大空拓

遠藤桜子 水野永梨菜 渡邊涼香 渡辺未夕 永井沙耶 (長谷川公彦先生講座)

研究目標

文化ホールについて**若者独自の目線**で徹底研究することで問題点を洗い出す。そして、**若者の興味を惹きなおかつ文化ホールを有効活用できる「イベント」**を提案・実施する。

研究理由

近年、若者の文化ホールに対する**興味・関心の低さ**が問題になっている。**地域交流の場としての機能**を生かした、**より良い文化ホール**を形成するために私たちはこの研究を開始した。

研究方法

- ・ 本校1年生へのアンケート調査
- ・ 愛媛県文化振興課へのオンラインインタビュー
- ・ インターネットを通して文化ホールについて調査

コロナ禍における現状

コロナによる影響はあるが、感染症対策を施した上で様々な世代を対象にした企画を実施している。しかしながら、4月に大学生・芸能人の講演会が中止されるなど、**イベントが減少し、利用者数も減少**している。

ホール存続の危機

ホールに何回行ったことがある?

平均 5.4 回

ほとんどが学校行事での利用で個人的に利用した人は**ほんの僅か**である。

ホールに触れる機会が少ない

ホールをいくつ知ってる?

平均 2.98 ホール

県内のホール約40個に対し認知度は**7.5%**にとどまる。

ホールの長所・魅力

- ・ 造りが全体的に綺麗
- ・ 特別な設備が完備
- ・ 情報発信の場
- ・ 集中しやすい
- ・ 様々な用途がある
- ・ **地域活性化できる**
- ・ **地域特有の特徴**
- ・ **文化交流ができる**

地域と文化の象徴

イベントを実施する! はずだったが...

イベントを運営する予定であったが、コロナによる影響やイベントの開催にかかる費用や日程の調整、イベントを運営するうえでの課題の山積のため実施を断念することとなった。しかし、これまでの調査等を踏まえ、実施する予定だったイベントを、**仮想イベント**として、周知ポスターを作成し、ホールの良さの認知の拡大を図る。

ホールの問題点

- ・ 高齢者向け
- ・ 学校関係以外でしか行かない
- ・ 地元の人しか使わない
- ・ 古臭い
- ・ 厳粛なイメージ
- ・ **行きたいイベントが少ない**
- ・ **若者の使用率低下**

若者の関心が低い

参加したいイベント

- ・ コンサート
- ・ **楽器演奏会**
- ・ ミュージカル
- ・ ダンス
- ・ バレエ
- ・ コミケ
- ・ フリーマーケット
- ・ e-sports大会
- ・ 科学講演
- ・ **トークショー**
- ・ テレビ番組
- ・ **文化祭**
- ・ **市民イベント**
- ・ **特産品販売会**
- ・ 落語
- ・ お笑い

高校生でも可能

まとめ・感想

文化ホールへの関心が低いということが現状だが、興味があるイベントを実施するなどして、盛り上げていくことは可能である。コロナによる制約がかかる中、活動を制限しなければならず難しい研究となったが、よりよい文化ホールを目指して活動していくことができた。



四国新幹線は地域を救うのか

～四国新幹線開通後の未来を視る～

柚山道明 野澤先生講座

背景

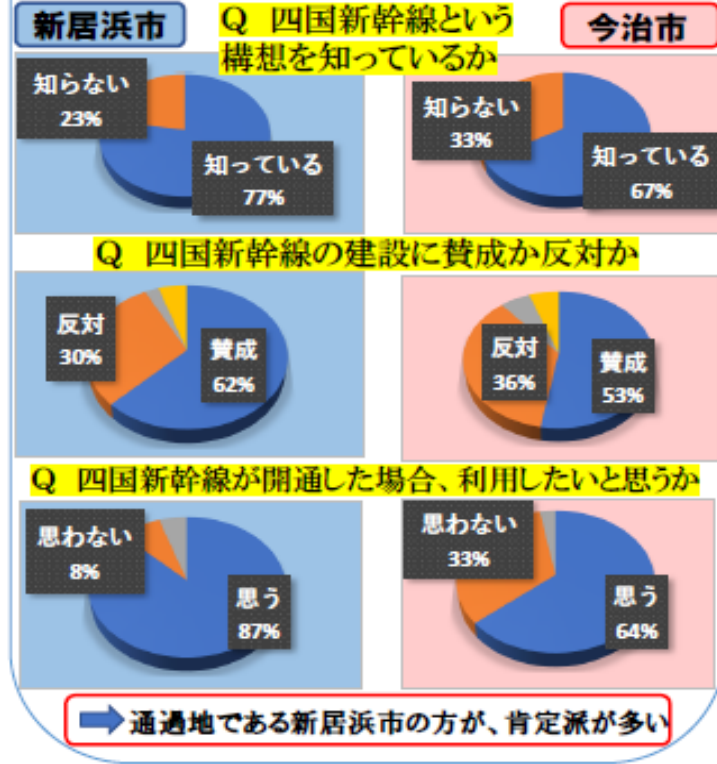
★日本の新幹線不通地域は**四国地方のみ**
 四国の動き
 2010年代～ 新幹線誘致に向けた議論が活発化
 2017年 四国新幹線整備促進期成会が設立
 → 四国に高速交通網が誕生すれば、大都市圏と四国が短時間で結ばれることとなる。

研究目的

①市民の四国新幹線の捉え方
 ・市民に新幹線は求められているのか
 ②四国新幹線の開通により生じる諸問題の解決
 ・新幹線開通後に形成される鉄道網では県内での中距離間の移動が不便になるのではないか
 ・新幹線の沿線となる地域と沿線にはならない地域での間に生じる**地域間格差**を考える

検証① 新幹線通過予定都市と非通過都市でのアンケート調査
 新幹線が**通る**・・・新居浜市 (新居浜駅前・40人)
 新幹線が**通らない**・・・今治市 (今治駅前・36人)

検証② 新幹線開通後に形成される鉄道網について考える
 北陸新幹線の事例で検証



新幹線開通後、並行在来線はJRから経営分離され、県や市町、民間の出資のもと**第3セクター**として経営される

①金沢ー富山間の場合

項目	開通前	開通後
特急	上下78本 最速35分 料金2060～2570円	新幹線 上下85本 最速19分 料金2820～3330円
普通	上下56本 最速53分 料金950円	普通 上下57本 最速54分 料金 1240円

②魚津駅(新幹線なし)の場合

項目	開通前	開通後
上下本数	上下36本	特急 なし 上下62本
始発	6:03	5:39
終電	23:51	23:54

★伊予北条駅の場合・・・

現在	特急 上下25本	普通 上下54本	360円	→ ?
----	----------	----------	------	-----

考察

検証①より 四国新幹線が開通した場合、利用したいかどうかという質問では、**新居浜市のほうが2割超今治市を上回った**。これは、新幹線の沿線となることへの期待の表れともいえる。しかしどちらの地域でも**新幹線建設反対派が3割**を占めており、「たくさんの利用は見込めないのではないか」といった懐疑的な意見も挙げられた。これが今日までの新幹線建設を抑制してきた一因といえるのではないだろうか。

検証②より 魚津駅は新幹線駅の狭間に位置するが、新幹線開通後、並行在来線の利便性は低下しているといえる。とくにネックな問題が料金で、金沢ー富山間では**300円程度**上増しされている。新幹線開通は地方と大都市圏を結ぶ広範囲の移動を自由にするが、新幹線を必要としない県内における狭い範囲の移動、例えば通勤や通学には料金の面から利用者を圧迫してしまうといえるだろう。

今後の研究 四国における新幹線開通後の第3セクターの線路使用料と鉄道貨物の関係について探る

参考文献

- 『新幹線は地域をどう変えるのか フォーラム新幹線学』 榎引素夫 著 古今書院 2020年
- 『北陸新幹線レポリエーション』 藤澤和弘 著 交通新聞社 2015年
- 『新幹線で四国を変えよう! ～新幹線を活かした四国の地域づくりビジョン調査報告書』 四国新幹線整備促進期成会ほか 2018年



東高 がんばっていきましょい ーグローバルからグローバルへの挑戦ー



目標 ・ 人材像

輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、
人間的魅力のあるグローバル・リーダーの育成

- 地域マネジメント力を身に付け、郷土の課題解決に貢献する志を持った人材
- グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献する人材

令和2年度の取組

グローバル明教

2年生 (GLコース80人)

1年生 (360人)

グローバル課題の発見

- ・講演
「地域社会の持続可能な発展に向けて」
「世界共通のゴール『SDGs』の達成に向けて」
「企業の見方&地域製品のマーケティング」
「いい、加減。まつやま」
「レベゼン故郷！井の中の蛙 大海をゆく」等
- ・講座
「笑顔のまつやま まちかど講座」
全15テーマから2つを選んで受講
- ・県内企業FW代替講演
三浦工業株式会社・株式会社アテックスより
- ・海外FW代替交流
台湾三浦工業・三浦工業(中国)からの講演
台湾國立中興大学附属高級中学・
北京月壇中学・UPIS(フィリピン)との交流
- ・課題研究
「地域及び世界の持続的な発展のために」
全20テーマに分かれて研究テーマを設定し、
本校教員の指導のもとグループ研究を実施
- ・研究成果発表会
グループごとにポスター(116枚)を作成し、
ポスターセッションを実施



グローバル課題への取組

- ・課題研究
「地域マネジメント力の育成」
全13テーマに分かれて研究テーマを設定し、愛媛大学・松山大学・松山市・大分県立病院等の方々より指導を受け研究
テーマ例
「食品の調理加工研究と地域活性化への取組」
「四国新幹線は地域を救うのか～四国新幹線開通後の未来を視る～」
「未来の子どもたちのために～里親改革in the world～」
「脱プラの広がり可能性か？」
～企業からみる包装プラスチックの現状～」
- ・海外FW代替交流
UPIS(フィリピン)との交流
- ・中間報告会・研究成果発表会
12月に中間報告会をポスター発表で実施
3月に4グループに分かれてシンポジウムを実施



学校環境のグローバル化

- ・SGH部の取組
インターナショナルデー開催、市内高校生交流会実施
フェアトレード啓発活動、海外高校生との交流、
コンテスト・大会への参加
- ・留学支援及び留学生受入
「トビタテ!留学JAPAN」説明会の実施
留学生2人の受入



課題研究のための資質能力の育成

- ・East CLIL
松山東高校版内容言語統合型学習
プレゼンテーション能力の育成
- ・英語表現
使える英語力の育成



オンライン語学研修・オンライン交流

- オーストラリア・アデレードIELTSスペシャルプログラム
日本のリーダー養成塾
アジア・オセアニア高校生フォーラム
ロシア人日本語履修高校生オンライン交流



コンソーシアムの構築

- ・愛媛大学との連携
課題研究講師、講演講師、保健講座講師派遣
- ・松山大学との連携
課題研究講師、講演講師 等
- ・学習院大学との連携
講演講師



- ・松山市との連携
未来のふる里産業人養成講座開講
笑顔のまつやま まちかど講座実施
松山市SDGs推進協議会参加
課題研究講師、講演講師 等



- ・企業・関係機関との連携
いよざん地域経済研究センター 講師派遣
三浦工業株式会社 講演会実施
アテックス株式会社 講演会実施



成果

- 【OUT】学会・コンテスト・外部の発表会等に参加した生徒数の ≈ 94 人
観光甲子園:11人 Glocal High School Meetings 2021:12人 国際理解生徒研究発表会:12人 探究甲子園2021:14人 他:35人
- 【IN】課題研究・講演等に外部人材が参画した人数の ≈ 451 人
課題研究:320人 講演及び講座:61人 FW等その他:70人

